

令和4年度

ヨコハマ市民まち普請事業

2次コンテスト 整備提案集

日時：令和5年1月29日(日) 10:00~17:15



視聴は
こちらから



YouTubeチャンネル「ヨコハマ市民まち普請事業」からライブ配信

事務局 横浜市都市整備局 地域まちづくり課
横浜市住宅供給公社
認定 NPO 法人 市民セクターよこはま



■目次■

1	ヨコハマ市民まち普請事業部会委員名簿、委員紹介	1
2	ヨコハマ市民まち普請事業とは	6
3	令和4年度のスケジュール	7
4	令和4年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテスト	
(1)	2次コンテストプログラム	8
(2)	2次コンテスト審査基準	9
(3)	2次コンテストの投票方法・選考方法	10
(4)	2次コンテスト審査基準別一覧表(参考)	12
5	ヨコハマ市民まち普請事業 2次コンテスト発表順一覧	13
(1)	町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト	14
(2)	山本助産院笑楽幸プロジェクト	33
(3)	弥生台市有地活用建物における地域貢献施設活用委員会	60
(4)	まちまど・洋光台シェアベース実行委員会	76
(5)	COCO したのはらガーデンコミュニティをつくろう会	93
(6)	てんこもりのわ	111
6	参考資料	
(1)	ヨコハマ市民まち普請事業整備助成対象一覧(年別)	133

1 審査員名簿

(ヨコハマ市民まち普請事業部会 委員名簿)

	氏 名	現 職
審査員長 (部会長)	すぎさき かずひさ 杉崎 和久	法政大学法学部教授 (都市計画、まちづくり)
審査員 (部会委員)	あさひな ゆり 朝比奈 ゆり	東京ボランティア・市民活動支援センター専門員 (市民活動支援、みどり環境)
	いとお ともこ 飯尾 友子	本牧山頂公園和田山地区愛護会会長 (まちづくり、市民活動)
	うえまつ まみこ 植松 満美子	市民委員 (公募)
	かとう こうすけ 加藤 功甫	市民委員 (公募)
	かわはら すすむ 川原 晋	東京都立大学都市環境学部教授 (市民事業、観光まちづくり、都市デザイン)
	ごとう ちかこ 後藤 智香子	東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻特任講師 (まちづくり、住環境、こども環境)
	まつむら まさはる 松村 正治	NPO 法人よこはま里山研究所 NORA 理事長 (市民協働、環境社会学)

(五十音順、敬称略)



●杉崎 和久 (すぎさき かずひさ)
法政大学法学部／大学院公共政策研究科教授

東京理科大学理工学部建築学科、同大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程単位取得退学。(財)練馬区都市整備公社練馬まちづくりセンター専門研究員、(財)京都市景観・まちづくりセンターまちづくりコーディネーターを経て、現職。

学生のときから、商店街のまちづくりのお手伝いをしたり、まちづくりNPOに参加していました。このときには、まち普請事業と同じような公募型助成金の申請書を書くこともありました(勝率低かったです)。

大学院を出てからは、東京都練馬区や京都市でまちづくり活動を応援する仕事をし、その中で公募型助成金の事務局として、制度設計や運営、応募される団体からの相談を受けていました。

現在でも、まち普請事業をはじめとして、市民のみなさんの思いが形になっていく、その過程でご縁が広がっていく取組に関心を持ち、お手伝いをしています。



●朝比奈 ゆり (あさひな ゆり)
東京ボランティア・市民活動支援センター専門員

私のまちづくりとの関わりは公園づくりからです。地域の方が自分の居場所と思えるような公園をつくろうと設計者として計画段階から地域の人たちと一緒に考えたり、手作り工事に汗を流す機会を大事にしてきました。その経験から、地域に住んでいるからこそその問題意識や夢を持った

人たちがまちづくりに参加することの可能性を実感し、その後は世田谷区のまちづくりセンター(当時)職員として地域のみなさんの活動を応援し、地域の様々な人をつないでまちづくりを推進する仕事に携わりました。現在は千葉外房の里山でのんびり?と暮らしています。東京ボランティア・市民活動センター専門員のほか、武蔵野美術大学通信教育課程社会形成デザイン講師を務めています。



●飯尾 友子 (いいお ともこ)
本牧山頂公園和田山地区愛護会会長

子育てのため杉野服飾大学（現）の手芸研究室をやむなく退職し、以来身の回りに不足する課題を解決するために活動を続けてきました。

市民活動は、国際児童年に立ち上がった子供の遊びを考える『いいじゃんかい』に加わることから始まり、いくつも重ねて学びながら、生涯学習相談員、社会教育指導員補、放課後はまっ子ふれあいスクールチーフなど、ボランティアから始まり職業にも繋がりました。

退職した今は又、地域の課題として、野外での地域異世代交流の場を充実させるため、本牧山頂公園の一角で、まち普請で獲得した雨水利用の施設『雨だれデッキ』を設置したあそびの広場（本牧山頂和田山地区愛護会）で、活動しています。地域の課題解決のお手伝いができれば嬉しいです。



●植松 満美子 (うえまつ まみこ)
ヨコハマ市民まち普請事業部会市民委員

私は、青少年指導員、地元自治会の役員等を務め、現在も主任児童委員をしており、これにつながる様々な地域活動に携わってきました。私の住む松ヶ丘地区は、横浜駅にほど近い、国道1号線や三ツ沢25号線などに囲まれた丘陵地で、国道から一歩入ると急な坂道や細い道が多く、通学、通勤、

買い物に行くのにも坂の上り下りは欠かせません。また、指定されている地域防災拠点や広域避難場所への避難も、高齢の方や障害をお持ちの方には難しいことと、東日本大震災を経て痛感させられました。

そこで自治会では、いつか避難場所として自治会館の活用に思い至り、防災機能と備蓄品の充実を図るため自治会館内に防災備蓄庫を設置することを決定。これを「まち普請事業」の助成を得て平成25年度、完成させることが出来ました。私はこの活動に深く関わる機会を得て、その後自治会内に立ち上げた「松ヶ丘防災に強い町をつくる会」の活動を通して、「松ヶ丘まちづくりプラン」の策定に努め、松ヶ丘町内の防災面の強化に関わってきました。



●加藤 功甫 (かとう こうすけ)

ヨコハマ市民まち普請事業部会市民委員

特定非営利活動法人 Connection of the Children(CoC) 代表理事。長野生まれ。横浜国立大学大学院修了。在学中、25社の協賛を獲得しユーラシア大陸2万kmを自転車で横断。今までに述べ世界84カ国を旅しました。中学校の保健体育教師、ランニングイベントの企画実施団体、企業研修会社を経て、2013年にCoCを創業。CoCの活動の中で2016年、CASACOという2階が留学生のシェアハウス、1階が様々な世界とつながり挑戦できるイベントスペースを作りました。CASACOの構想が生まれるまで「まちづくり」には全く縁がなく、試行錯誤の中でまさに走りながら「まちづくりって何だろう?」と考えてきました。

ですので、まち普請では、(専門的な助言は諸先生方にお任せし・・・)誰よりも皆さんに近い立場で、皆さんが夢を叶えるために踏み出す一歩を応援できればと思っています。



●川原 晋 (かわはら すすむ)

東京都立大学都市環境学部教授

専門は観光まちづくり、都市・地域デザイン。観光地再生、まちづくり市民事業、市民参加まちづくり、公民連携による公共空間活用などの理論と実践に取り組んでいます。

前職では、都市計画コンサルタントや建築設計者として、横浜市や区の都市計画マスタープランや市民利用施設の検討ワークショップ等の業務や、福祉施設等の設計に携わりました。

藤沢市都市景観アドバイザー、八王子市景観審議会委員、横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会委員(横浜・人・まち・デザイン賞)、地元小学校のPTA会長などを経験。趣味はガーデニング。



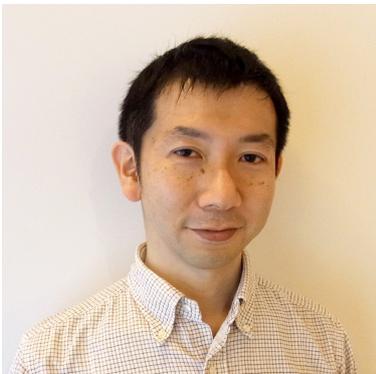
●後藤 智香子 (ごとう ちかこ)

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻特任講師

東京理科大学理工学部建築学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了、同専攻博士課程修了・博士（工学）。柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）ディレクター、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻特任助教を経て2019年より現職。

大学院生の頃から、住民主体による私有地を活用したまちづくりやそれを支える制度について研究をしてきました。具体的には、世田谷区の「地域共生のいえづくり」支援制度などについて研究をし、またそのご縁で地域共生のいえの一つ、「岡さんのいえ TOMO」の運営や活動に10年以上携わっています。

また最近では、保育園（こども施設）とまちとの関わりについても研究しており、こども環境にも関心があります。



●松村 正治 (まつむら まさはる)

NPO 法人よこはま里山研究所 NORA 理事長

1999年から多摩丘陵の里山保全運動にかかわり、2005年から現在までNPO法人よこはま里山研究所(NORA)理事長。まちの近くで里山とかかわる暮らし、里山をいかす仕事づくりをすすめています。ほかに、モリダス代表、NPO法人森づくりフォーラム理事など。

NPOでの市民協働や地元町会長の経験をもとに、神奈川県ボランティア活動推進基金幹事会、横浜市市民協働推進委員会なども務めてきました。

一方、2020年に大学専任教員を退職後、独立研究者へ。専門は、環境社会学、公共社会学、持続可能社会論。調査フィールドは、多摩丘陵、八重山、五島・対馬ほか。大学では、フィールド・スタディやサービス・ラーニング等の経験学習プログラムも担当しました。現在は3つの大学で兼任講師、梨の木ピースアカデミーでコーディネーターを務めています。

2 ヨコハマ市民まち普請事業とは

「ヨコハマ市民まち普請事業」では、市民のみなさんが主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設（ハード）整備を伴うまちづくりに対して横浜市が支援・助成を行うことで、地域に合ったまちづくりが実現することを目指しています。

市民のみなさんによるアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、整備への労力提供や整備後の施設の維持管理、活用・運営などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広まることで、横浜の魅力を一層向上させていくことを目的としています。

※地域まちづくり・・・身近な地域の魅力づくりや課題解決に向けた取組のことです。

※まち普請・・・ 「普請（ふしん）」は「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。

「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足度を高めることにつながっていきます。

「まち普請」には、市民のみなさんに身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

<支援内容>

● 1次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 30万円を限度に活動助成金を交付します。
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 活動助成金の対象は、主にまちづくりコーディネーター（まちづくりの専門家）等など技術面での協力者への謝金や用紙等事務用品費、印刷費等です。
- 提案内容の整理等をアドバイスしてくれるまちづくりの専門家を紹介します。
- 2次コンテストに向けて提案の実現性を高めるため、提案内容の整理や関係機関との協議・調整などを地域まちづくり課職員が支援します。

● 2次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 50万～500万円を限度に整備助成金を交付します。
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 対象経費は、設計費、工事費、工事監理費、活動経費です。
- 整備内容の整理や関係機関との協議・調整などを、整備が完了するまで地域まちづくり課職員が支援します。

3 ヨコハマ市民まち普請事業 令和4年度スケジュール

整備提案の募集 R4年4月1日(金)～R4年5月31日(火)



1次コンテスト R4年7月9日(土)



2次コンテスト対象提案の決定

現地見学会(令和3年度整備箇所) R4年8月26日(金)



2次コンテスト対象提案 活動懇談会 R4年9月18日(日)



2次コンテスト対象提案 現地視察 R4年10月29日(土)



2次コンテスト R5年1月29日(日)

本日!!

整備対象提案の決定!

4-(1) 令和4年度 2次コンテストプログラム

☆ 10時00分～10時25分

- 開会
- 審査員の紹介
- コンテストの進行説明

☆ 10時25分～11時35分

- 整備提案の発表等（1グループあたり10分）
- 休憩、審査基準別評価一覧の作成

☆ 11時35分～11時50分

- 休憩

☆ 11時50分～12時25分

- 審査員による情報収集タイムに向けたポイント整理

☆ 12時25分～13時05分

- 情報収集タイム

☆ 13時05分～14時15分

- 休憩（審査員間で情報共有）

☆ 14時15分～16時50分（YouTube配信終了）

- 審査方法の説明
- 公開議論・質疑
- 公開投票及び結果発表
- 講評

☆ 16時50分～17時15分

- 交流タイム
- 提案グループへの事務連絡、アンケート回答

☆ 17時15分

- 閉会

※当日の進行状況により、変更する場合がありますのでご了承ください。

4-(2) 2次コンテスト審査基準

1. 創意工夫

- ・【計画の工夫】住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ及びデザインへの配慮
- ・【工事の工夫】整備工事における地域での費用や労力の負担方法などの工夫
- ・【維持管理の工夫】整備した施設の維持管理・運営の実施方法などの工夫

2. 実現性

- ・地域（地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等）での合意形成
- ・関係機関との調整
- ・整備する施設の維持管理・運営計画

3. 公共性

- ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度

4. 費用対効果

- ・整備の規模（数量）と整備による効果の妥当性
- ・コスト縮減の工夫

5. 地域まちづくりへの発展性

- ・整備をきっかけに地域のコミュニティが広がる、又は深まる可能性
- ・整備をきっかけに地域のまちづくり活動が活発化する可能性
- ・他の地域によい影響を与える可能性

4 – (3) 2次コンテストの投票方法・選考方法

1. 投票方法

整備助成の対象として

- ・ 「特に整備助成対象として推薦する」提案には、2票を投票します。
- ・ 「推薦する」提案には、1票を投票します。
- ・ 「今後の取組に期待したい」提案には、0票を投票します。
- ・ ただし、委員一人あたりの2票を投票する提案数は、3件までとします。

2. 整備助成対象の選考条件

- ・ 過半数の審査員（5人以上）からの得票があり、かつ、総得票数が8票以上であることを選考の条件とします。

3. 整備助成対象の選考方法

- ・ 得票数の上位3件を整備助成対象提案とします。
- ・ 得票数が同点の場合は、投票した委員の多い提案を上位とします。

4. 決選投票の方法

- ・ 1回目の投票で整備助成対象提案が上位3件以内に絞り込めなかった場合、決選投票を行います。
- ・ 決選投票に残ったグループから、一言だけ追加のPRを受け付けます。
- ・ 整備助成の対象として「推薦する」提案に1票を投票します。審査員の持ち票は、「3 – (選考済み提案数)」とし、必ず全票を投票してください。
- ・ 審査員長は決選投票において、投票をしないものとします。
- ・ 決選投票での得票数が上位の提案を整備助成対象提案として選考します。

5. 令和5年度1次コンテスト免除提案の選考方法

【選考方法】

整備助成対象提案として選考されなかった提案で、

○過半数の審査員（審査員が8人の場合、5人以上）からの得票

○総得票数が8票以上のうち、一定の得票を得た1提案は、翌年度の1次コンテストを免除する権利を得ます。

「一定の得票」の基準

選考された提案のうち、最も少ない得票数の8割を超えるもの

例) 選考された提案のうち、最も少ない得票数が12票

1次免除提案となる投票数は10票以上（ $12 \times 80\% = 9.6$ 票）

【権利の行使・条件】

- ・1次コンテスト免除の権利を得たグループは、翌年度の1次提案応募期限までに1次申込書及び提案書の提出をもってコンテストへの参加の意思表示を行います。
- ・翌年度1次コンテストでは、活動の経過報告を行います。

※その他、不測の事態が生じた場合は、審査員及び事務局で協議の上、対応します。

5 2次提案書・事前質問集 発表順一覧

発表順	区	提案グループ名	整備提案名	ページ
1	港北	町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト	鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る	14
2	金沢	山本助産院 笑楽幸プロジェクト運営委員会	笑楽幸プロジェクト（多世代型交流拠点事業）	33
3	泉	弥生台市有地活用建物における地域貢献施設活用委員会	地域キッチンを「食 学 話」で子どもから世代間交流	60
4	磯子	まちまど・洋光台シェアベース実行委員会	「食」をきっかけとしたシェア空間の立ち上げ	76
5	港北	COCOしのはらガーデン コミュニティをつくろう会	まるっとゆるっとCOCOしのガーデンコミュニティ	93
6	神奈川	てんこもりのわ	松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト	111

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。

注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1~3号様式)、1次コンテ
スト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト
整備場所(町名 又は丁目まで記 入)	港北区 鳥山町
提案名 (25字以内)	鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る
助成金申請予定 額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内 容 ^{*1} を工夫した点 ^{*2} にも触れて記入 してください) ※1施設の全体像 とともに整備 助成金の対象 箇所を明記し てください ※2住民等が持つ 発想、方法 などを生か したアイデ アやユニ ークさ及びデ ザインへの 配慮	<p>[1]1F:カフェ：①キッチン&カウンター:ボックス席と一体感が生まれるようカウンターの高さは抑える②キッチン横に開放窓を作る。店内へ入るきっかけにコーヒーカウンター席を設ける。③ボックス席シート下は収納にする④簡単な調理ができるようコンロ設置⑤外観は城のある町をイメージ:「城町カフェ」</p> <p>[2]1F:地域インフォメーションコーナー：①店前は1階外壁のセットバックを行い地域情報の掲示板とチラシラックを作成。②ベビーカー置き場としても活用③入口扉は透明ドア。カフェの情報はドアに直接書込む</p> <p>[3]階段：だれもが安全に2階を活用できるよう傾斜を緩やかにして新設。手すりも付ける。</p> <p>[4]1Fトイレ：洋式トイレへ変更、および独立手洗いを新設。</p> <p>[5]2F相談室：2.5帖ほどの個室。レンタルルームの音が入り込まないように防音仕様とする。団体事務所としても稼働。棚などをDIYする</p> <p>[6]2F和室：ニーズ調査から「足を伸ばして寛げる」空間の人气が高く、畳の表替えを行い和室のまま利用する。講座や会議での利用を想定し、ホワイトボードウォール(DIY)と天井付けスクリーンを設置する。</p> <p>[7]2Fホール：カフェの音が上がらないよう仕切り扉をつけ靴を脱ぎ収納するスペースを確保。お湯の利用を想定しミニキッチンを設置</p>
施設の活用・活 動内容 (具体的な活動 内容を工夫した 点にも触れて記 入してください) ※第1次提案書 より具体的に 記入してくだ さい	<p>① サロン：高齢者介護予防事業「とりやまの郷」や多世代向け地域サロンを2F和室で実施。収納可能な机にし必要な時に組み立てて使う。読み聞かせやベビーマッサージなど親子で過ごす時間のほか、子どもは専門のスタッフと2Fで過ごし、ママは1Fカフェで学びの時間を過ごすなど、一棟全体を活用したサロン運営も行う。</p> <p>② カフェ：調理は最小限、スタッフ1名で運用可能なキッチン。傾聴などの専門的な研修を受けたカフェスタッフが促したおしゃべりから地域情報の提供や相談へつながる。開放窓から外を歩く人に挨拶すると、彼らはセットバックした空間に一歩入り小さなおしゃべりが始まる。店内へ入る決心が着かないお客様にはコーヒースタンドでおしゃべりを。ここは時間をかけ私たちが知り店内へ誘う空間である。</p> <p>③ 生活・福祉の相談支援ステーション：カフェのおしゃべりから相談へ発展したら2F相談室へ。専門機関への連携だけでなく、福祉・医療・心理・ITなど専門職スタッフによる相談サービスも実施</p> <p>④ レンタルスペース：2Fは学びや趣味活動の場として地域へ貸出す。貸室利用がない時はカフェスペースとして開放。畳空間ではママや小さい子どもが足を伸ばしてカ</p>

	<p>フェ時間を楽しむ。仕事や勉強で利用できる席も設置する</p> <p>⑤ 地域インフォメーション提供事業：店舗入口にチラシラックや掲示板を、カフェ内にはインフォメーションデスクを設置し、ボランティア情報なども含めた地域情報を住民が得られるケアプラザの出張所のような場を作る。また単なる情報提供に留まらず、地域の人・場所が連携するきっかけや機会を創出し地域資源のネットワーク化を行う。</p> <p>⑥ 地域連携HUB：鳥山町や城郷地区のさまざまな施設を利用してマルシェや音楽ライブなどを行う。また既存の地縁団体などと一緒に地域の課題などを解決するための会議を定期的を開催する。その他シェアカフェも。 (その他資料①②参照)</p>
<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>鳥山町にはアクセスの良い場所に集える場がなく、地域の人は、長い坂の上にある公民館か隣町にあるケアプラザを利用している。本プロジェクトで中心的に活動する濱なかまは、鳥山町の高齢者施設などを活用してシニアサロンを開始した。しかしコロナ禍で施設へ入館できなくなり、公民館で活動を継続してきたが昨今は坂を上るのが難しくなる利用者が増えていた。“平坦な場所に集える場がない”ことは地域共通の課題であり、自治会やケアプラザ、地区社協が関わる形で地域の有志が集まり、協議体「鳥山町居場所づくりプロジェクト」が2017年発足した。この会合の中で、集い場どころか“お茶をする場所(カフェ)”もない鳥山町に「ちょっとお茶をしながら集まれる場所ができるといいね」という思いを共有したことが本提案の原点にある。また、鳥山町にはチラシなどを配架する場所がなく、住人は隣町のケアプラザまで足を伸ばさなければ、新鮮で細やかな地域情報が得られない実態もあった。住人に地域をもっと知ってもらいよりよい関係を築くには、鳥山町に「常設の居場所」が必要であることも協議体で共有している。自治会や福祉・事業者・地域団体が、共通課題を解決できる「拠点」を共に作る経験を通して新しい関係性が生まれることにも、大きな期待を寄せている。</p>
<p>整備プロセス (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用縮減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>① スケジュール:2次審査通過確定後、物件オーナーによる工事を約2カ月実施。R5/5月～7月完了予定。(賃貸契約は提案の工事スタート時期としていただく)</p> <p>② 工事は地域の事業者により工事費の低減などに協力いただける</p> <p>③ 設計と施工は、まち普請事業経験のある設計士と事業者の協力を得てノウハウや経験を生かし効果的・効率的な施工が期待できる。</p> <p>④ DIY作業等は公式LINEなどを通じてつながったサポーターの協力が得られる</p> <p>⑤ 工事費が不足した場合、すでに連携しているクラウドファンディング経験済の地域団体からノウハウを教授いただける。</p> <p>⑥ 自治会・地区社協の協力(動員・周知)や地域事業者の紹介が得られる。</p> <p>⑦ 拠点運用で連携していく団体や組織と、連携時に必要な整備部分について整備資金協力が得られる(ベランダ、相談室、掲示板など)</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>○施設運営は濱なかまが中心的に担い、常勤を1名配置し拠点全体の統括を行う。拠点は最低1日5時間・週5日オープンする。</p> <p>① カフェ運営:カフェ業務や傾聴に関心があるボランティアを募り運営する。コーヒーボランティア団体や傾聴活動団体の協力連携が得られる。また金曜日はカフェ経営に関心がある地域の方が週替わりシェアカフェとして運営する</p> <p>② サロン運営:濱なかまと関連団体が毎週月・水に定期サロンを開催(現行)。毎週火曜は地域の子育て支援者/団体が週替わりでサロンを開催する。</p> <p>③ 食・職講座:利用者メリットがある有償のサポーター制度の施行や、コーヒーの淹れ方、IT活用、傾聴など、今回提案する施設での活動に結び付く講座(食・職講座)を開催</p> <p>③ ステップUPボランティア:食・職講座の参加後にスキルアップの場として、ボランティアによる実践の機会を提供。シニアや育児中の母親のキャリアの継続の場にする。</p> <p>④ 週末ボランティア:近隣施設のイベントに合わせ営業する日(土曜・日曜)だけ関わるボランティア制度を創設し働きながら地域貢献できる場を提供する。</p> <p>○R5年度中にNPO法人化を行う事で他の活動助成金を申請するだけでなく、運営にかかる経費を賄える事業(レンタルスペース・飲食提供など)を行い人件費などを徐々に支払える活動をめざす。</p> <p>○横浜市介護予防・生活支援補助事業(サービスB)の活動費とその他助成金および協力団体の施設利用料で設定家賃を支払う。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例・地域のPTAから協力を受けられそう。・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例・整備に必要な材料を安く入手できそう。・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。・バザーなどで資金を集められそう。

<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</p>	<p>①町への周知と認知活動：拠点づくりの目的やめざす町の姿について、町の人に知らせ関心をもってもらおう活動。「知っている人」を増やす活動。 ②声を集める活動：拠点ができた以降の町に関心を持ち、拠点づくりに関わってもらおうための活動。「関心をもつ人」を増やす活動 ③物件選定活動：空き家探し ④運営体制の構築活動：拠点構築後の運営を据えた体制づくり連携の関係づくり ⑤財務活動：拠点構築後の財務を見据えた仕組みづくり</p>
<p>関係者の合意・調整状況 （地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください）</p>	<p>地権者：プロジェクト発足前より説明を行い合意の上でプロジェクトに参画。その他工事・設計・運営・賃貸契約等について説明機会をもち合意を得た。 鳥山町自治会：城郷地区居場所づくり検討会にて説明を行った。リーフレットの配架活動や自治会掲示板への掲示の協力を得ている。（鳥山町自治会以外の検討会メンバー：岸根町町内会、小机町町内会、城郷地区社協、民生児童委員、城郷小机地域ケアプラザ、港北区福祉保健課、港北区社協） 近隣住民：テナント物件のため近隣住民には回覧板を通じてお知らせを行ったまた周辺店舗には個別に拠点の説明と工事時期の説明にうかがった。その他地域店舗にも1件ずつ説明行脚を行ったり、プレスト会議を実施しさまざまな個人と意見交換を行う機会を設けた。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>複数あった「平坦」で「アクセスがよい」候補の中で、あえて小さなこの物件を選んだのは、鳥山町のランドマークとなるポテンシャルがあったからだ。鳥山町が目抜き通りに位置し、駅や郵便局・買い物へ出る時は自然と目に触れるこの拠点の情報発信の仕掛けによって、住人は無意識に地域情報を受け取り、地域に接点が無かった住人にも情報を届けることができる。また山を隔てて分断されている鳥山町の地形を考えたとき、すべてを賄う大きな拠点を1つ作るのではなく、様々な場所に小さな拠点が点在しそれらがつながることが大切だと気付いた。地域資源をよく知るメンバーが集う私たちは、この提案前からすでに地域の資源と連携しハードやソフトを実現してきている。</p>
<p>目指す地域の将来像 （施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください）</p>	<p>ともに町の資源を作ることで、その場所は地域で共通の「愛着の場」となる。この「愛着の場（町カフェ）」は、自治会など地縁組織ではない濱なかまが主体となることで、これまで交流機会がなかった層が交じり合う場となり、人によっては地域と接する出発点にもなる。ここで出会う”人”や”豊富な地域情報”によって、住人は単独では得られなかった城郷・鳥山町の魅力を発見し、その人にとって町が故郷となっていく。</p> <p>一方で、今回整備する拠点は小さく詰め込める機能やサイズに限りがある。しかし私たちが目指すのは多くを賄う拠点が1つある地域ではなく、小さな拠点がつながりチカラを発揮する町である。そのために私たちはまず、音楽活動とマルシェを実施する小さな拠点を鳥山町や城郷地区の様々な場所に発掘・連携し、住人が交流する機会や場を創生していく。こうしてつながった人材や施設などと、定期的にプレスト会議などの意見交換を行って、ひとつの拠点では完結できない問題を町全体で解決する力を育てていく。町カフェはそのハブとして機能する。</p> <p>また住人は、出産・育児・復職・退職・介護度や病気の進行などでライフステージが変化し、それまで通っていた場所に通えなくなっても、町カフェがHUBとなり地域とその人とつなぎ続ける。</p> <p>濱なかまは地域ホスピスをめざす団体である。地域のなかで豊かな日常を送り最期まで自分らしく生活をするために、愛する人を愛する地域で見送るために必要な機能（傾聴、生活の場、医療、音楽、ボランティア、介護、相談）をこの町カフェから地域へ循環させていく。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

整備物件<位置図>

(縮尺：1/5000)



(縮尺：1/1000)



 **整備物件**
(港北区鳥山町 1013)



勉強や仕事ができる席
こちらも普段は収納
(電源が使える)

コンセント必要



Wi-fiも!

遮光性
ロールスクリーン

畳敷き和室

テーブル・椅子は普段収納

すきな天板

形状① = ちゃぶ台仕様
形状② = テーブル仕様

天井付けのスクリーン

エアコン

靴箱
2Fは靴を脱いで

ホワイトボードウォール
(地域の人とDIR)

1Fの音が上がってこないように
扉をつける



靴脱ぎ場



壁ペイントまたは壁紙貼り
(地域の人とDIR)



ミニキッチン

2期工事でバルコニーを施工するまでは
閉じたまま

相談室
(外の音が入りづらく壁施工)

ケアプラザまで行くのは
けっこう疲れる!



テラス席風

セットバック
(一歩中に進む仕掛け&
ベビーカー置き場にも)

コーヒーカウンター
(カウンター席としても、
外出中のおやすみ処としても)



2F

平面図

地域の掲示板



駅からくると
目に入る

カウンター
(客席は目線が同じになる
ように高さを調整)

ベンチシート
: 中は収納
(地域でDIR)



収納

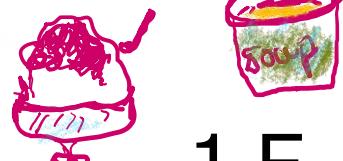
手すり

傾斜をゆるやかに
階段新設

手すり

トイレ
(壁は地域でDIY)

手洗い



かき氷は一年中
食べられていいもの!

1F

平面図

〈完成予想図〉

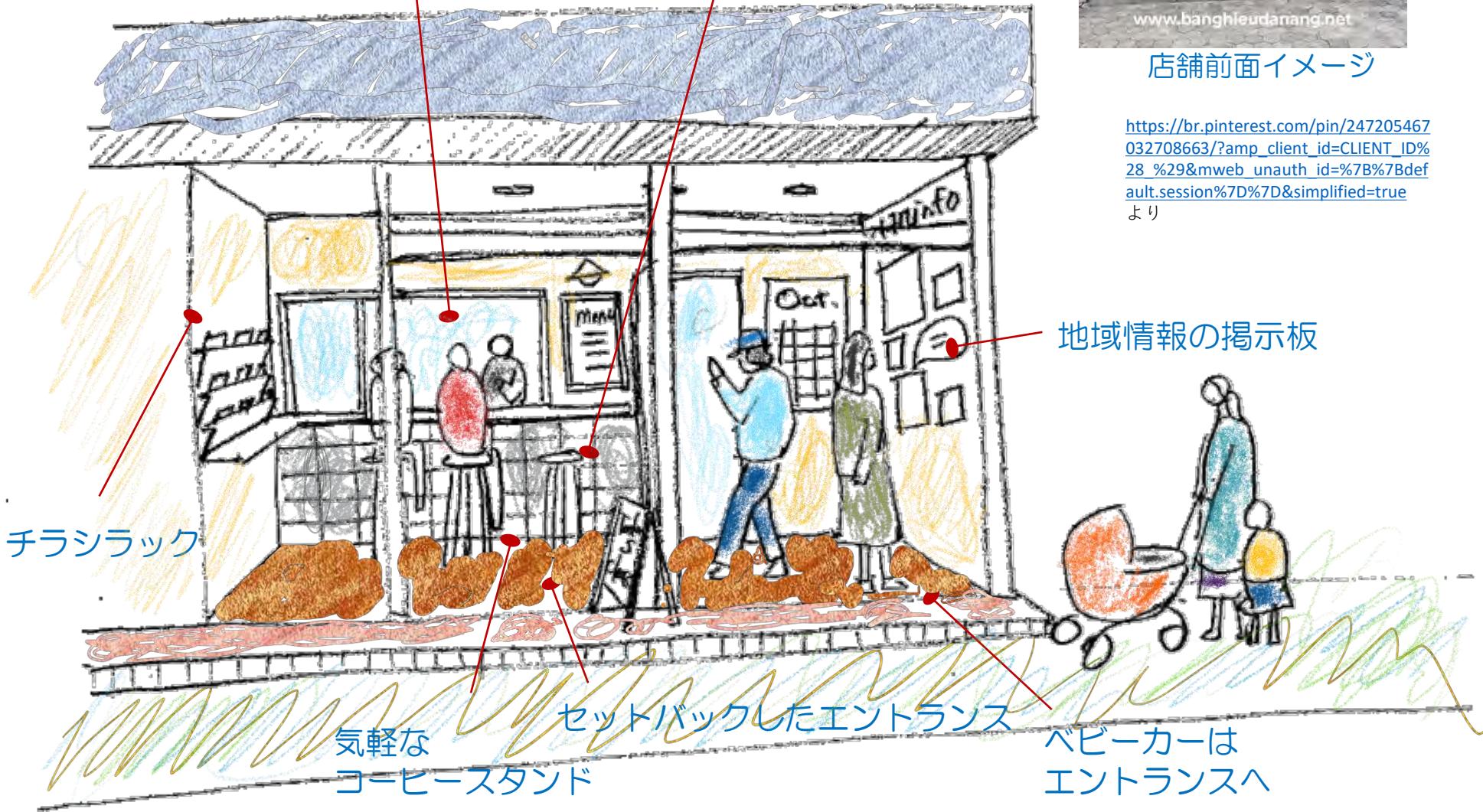


店舗前面イメージ

https://br.pinterest.com/pin/247205467032708663/?amp_client_id=CLIENT_ID%28%29&mweb_unauth_id=%7B%7Bdefault.session%7D%7D&simplified=true
より

「城」がある町のカフェをイメージ

開放窓から
店内とおしゃべり



地域情報の掲示板

チラシラック

気軽な
コーヒースタンド

セットバックしたエントランス

ベビーカーは
エントランスへ



ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
木工事	解体、階段・壁新設	一式		1,500,000	解体片付けを地域で掃除
内装仕上工事	壁、床、天井	一式		800,000	塗装を地域で施工など
厨房設備工事	厨房機器	一式		700,000	
	設備取付工事	一式		200,000	
電気設備	配線、照明器具設置	一式		500,000	
外装工事	エントランス、情報スペース等	一式		550,000	塗装を地域で施工
エアコン設備	1F、2F和室	2台	150,000	300,000	
固定家具類	棚・造作ベンチ・カウンター(内・外)	一式		200,000	造作・塗装などを地域で施工
トイレ設備工事	トイレ・手洗い	一式		150,000	
設計費		一式		180,000	
工事監理費		一式		150,000	
計				5,230,000	
消費税				523,000	
合計				5,753,000	

[一次コンテスト以降の活動内容]

内容	効果・結果
<p>周知活動</p>	
<p>[号外発行] 城郷連合町内会回覧板で回覧(7月)</p>	<p>連合町内会とのつながりができ、鳥山町を超えて城郷地域との連携の可能性が向上した。</p>
<p>[リーフレット発行] リーフレットを作成。(8月) [地域行脚] さまざまな拠点にリーフレット配架をいただけないかとお願いに廻った。 個人・団体の活動の場へ趣き、拠点づくり活動の説明や意見交換を行った。(8月～) 行脚先はメンバーからの推薦のほか、公式LINEから情報提供も受けた</p>	<p>年代問わずプロジェクトの説明が伝わりやすくなった。1900箇所以上での配架が実現した。(11月末時点) 拠点の目的やまち普請について丁寧に説明した結果、リーフレットを配架するだけでなく、プレストミーティング会議に参加するなど、協力者としてプロジェクトに参加してくださる人や団体が増えた。</p>
<p>[専用公式LINE運用開始] 《情報周知》、《アンケート取得》、《参加申請》機能を作り、プロジェクトをダイレクトに応援できるスキームを提供した。(8月～)</p>	<p>リアルな接点がない地域の人の声を受取れた ・新鮮な情報を提供できたので、タイムリーな協力の申し出や情報提供が得られた。</p>
<p>[Instagram運用開始] 若い世代と交流を図る必要性を実感しInstagramでの情報発信を開始(9月～)</p>	<p>・Instagramから、全く接点のないユーザとつながる機会が増えた ・若い層への情報提供が進んだ</p>
<p>[活動紹介] 様々な地域組織で活動の説明や意見交換を行った。(ひっとぷらん推進会議・城郷ボランティア連絡会・港北つなぎ塾・城郷居場所づくり検討会・城郷地区社協理事会)(8月～11月)</p>	<p>・所属する団体を通して当プロジェクトを知る人が増えた。 ・「城郷地域として当プロジェクトを応援しよう」という声も上がり始め、鳥山町を超えた組織から応援をいただけるようになった。</p>
<p>[活動発表] 城郷地区社協理事会にて鳥山ノスタルジアプロジェクトに関する発表を行った(10/22)</p>	<p>・市議員や城子連会長などこれまで面識はなかったがプロジェクトを知ってくださっている方と対面し、直に熱意を伝えることができた。それらの組織がもつ課題や期待も受け取ることができた</p>
<p>[地域交流イベント] 地域他団体や個人が協働してイベントを開催 ・ハロウィン (10/25) ・音楽マルシェ (11/30)</p> <p>地区センターとケアプラザの共催イベントにパネル展示で参加(11/26.11/27)</p>	<p>・SNSや公式LINEのフォロワーが現場に現れてリアルなつながりができた ・共催団体のメンバーから、<u>協力者へ昇華する人が増えた</u> ・物件が決まったタイミングで具体的な内容を周知でき関心を持つ人が増えた</p>
<p>地域での理解を深める</p>	
<p>[地域への説明会] ・プロジェクト進捗報告: 鳥山町自治会 役員(7/27)、城郷居場所づくり検討会(9/14) ・物件オーナーに対する説明会:(10/14、11/4) ・ひっとプラン推進会議:(10/21) ・ひっとプラン地域活性化分科会(8/30,9/27.11/15) ・城郷地区ボランティア連絡会(10/14) ・城郷地区連合町内会(7/31,9/30) ・地域行脚</p>	<p>・それぞれの定例会などを利用して進捗報告を行った。 ・城郷居場所づくり検討会では、鳥山町の居場所づくりをモデルに城郷地区の居場所づくりを検討する流れができた。 ・プロジェクトが目指すものを町を超えて共有できる人が増えた。 ・〈町カフェ〉の協力者が増えアイデア出し会議などが多様な集まりの中で開催できた</p>
<p>[空き家活用勉強会] 中山・co-coyaにて空き家整備の実態や拠点が地域へもたらす影響などについて現地勉強会を行う。(8/10) co-coya関口春江様、地主・斎藤様のご協力で開催</p>	<p>自治会・地区社協・地域の有志、事業者が参加。これから進めたいことのイメージ共有ができた これ以降、整備候補物件が出始めた</p>
<p>ニーズや思いの整理</p>	
<p>[アンケート] 交流イベント、公式LINE、団体行脚などでアンケートや意見交換を行った(8月～12月)</p>	<p>・さまざまな世代のアンケート結果を設計等に反映出来た。</p>
<p>[ブレインストーミング] 地域行脚で理解を得た個人や団体と拠点活用方法のアイデア出し会議を行った(9/14、11/9、11/23、12月、1月)</p>	<p>・さまざまな地域資源を発見することができた ・地域課題の解決となる連携アイデアが沸き運用後の協働体制が見える場面も生まれた</p>



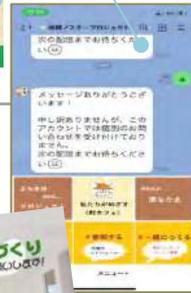
号外



就労継続B型事業所と協働
作成した自慢のリーフレット



リーフ
ここから追加
公式LINE



理事会での発表の様子



〈町カフェ〉
アンケート
小学生も参加!



Co-coya
にて



12 December

2022

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	29	30	1 城まち会	2 シェアカフェ	3 濱なかま
4 休み	5 濱なかま サロン) 小机ギター茶会	6 きらポケ サロン) よみきかせ	7 濱なかま サロン) とりやまの郷	8 地域混合	9 シェアカフェ	10 濱なかま
11 休み	12 濱なかま サロン) こころのほっとカフェ	13 民生児童 サロン) たまりBA小机	14 濱なかま サロン) とりやまの郷	15 地域混合	16 シェアカフェ	17 濱なかま
18 休み	19 濱なかま サロン) スマホ相談会	20 子育て支援者混合 サロン) たまりBA小机	21 濱なかま サロン) とりやまの郷	22 地域混合	23 シェアカフェ	24 濱なかま
25 濱なかま	26 濱なかま サロン) 健康測定会	27 子育て支援者混合 育児相談	28 濱なかま サロン) とりやまの郷	29 休み	30 休み	31 土曜はモーニングタイムがあります。町の人がゆっくりした朝のひとつを過ごしなが、町の中の情報交換を行う時間です。

月曜は、濱なかま関連団体が続けてきた「月曜カフェ」の日。週替わりでさまざまなサロンが開催されます

木曜は地域の様々な団体(事業者)が地域課題を意識した新しいサロンを作り上げます

日祝はお休み。But, 日産スタジアムに大きなイベントがあるときはOPENします!

火曜は子育て支援者・団体が親子サロンを開催。第4週は、複数の子育て支援者が交流しながら地域の課題を意識した新しいサロンを作り上げます。

水曜は濱なかま名物とりやまの郷。サロン参加者が拠点運営に携わる介護予防に挑戦。放課後駄菓子店OPEN!

金曜は城郷地区で居場所を作りたい団体や人、いつか自分のカフェを開きたい人がシェアカフェとして運営します。

その他資料②

収入の部	月	年
	カフェ	300,000
貸しスペース	25,500	306,000
シェアカフェ	12,000	72,000
講座参加費	12,500	150,000
助成金	100,000	1,230,000
会費	3,000	336,000
イベント売り上げ		74,000
収入計	453,000	5,768,000

支出の部	月	年
	家賃	77,000
仕入れ	150,000	1,800,000
水道光熱費	50,000	600,000
通信費	7,000	84,000
事務費	15,000	180,000
消耗品費	20,000	240,000
カフェ人件費	100,000	1,200,000
備品費	26,000	312,000
無利子借入れ返金		150,000
租税等		100,000
保険		58,000
設備費(更新料など)		120,000
支出計	445,000	5,768,000

事業の柱

カフェ事業

- ・キッチンがワンオペ。スタッフはみな傾聴などの研修を受けカフェでの会話を大切にすることを学び活動スタート。
- ・調理は最低限にしぼり、ローソンやおすとあんでるの持ち込みも可能にする
- ・スープメーカーで味の安定感を実現し手間を削減。
- ・ランチに付属するパンは、地域のパン作り講師が提供。
- ・パン、スープ、コーヒーの調理講座を開き、ボランティア獲得の機会も作る。

レンタルスペース事業

- ・2F和室をレンタルスペース
- ・設備レンタルも行い、事業者と市民団体は貸し出し条件を分ける
- ・地域課題を意識した講座やワークショップなどに優先貸し出しする

福祉生活相談ステーション事業

- ・カフェのおしゃべりから必要な場合は相談につなぐ
- ・専門機関や事業者につなぐことで課題解決をサポートする

サロン事業

- ・とりやまの郷
フィットケミカルスープランチ・コーヒーを提供
ランチは地域のお弁当も選べるようにする
多世代交流週は参加者が店主となり駄菓子屋を開店し、地域の小学生と交流する
- ・その他のサロン
月曜カフェ
スマホ教室
パルスシステム神奈川協力講座
発信力UP講座(文章やITによる情報発信技術を学ぶ職講座)

見守り事業

- ・週に1度、地域情報やお弁当をお届けしつつ「会話」を大切にしながら見守りを行う。
- ・また地域の見守り実施団体と連携し手薄な箇所を補足する。
- ・ニュースレター「ゆめなかま」を発行し見守り活動に活用
- ・将来的には有償で、異常検知機器のレンタルや駆け付けサービスも実施する

地域インフォメーション提供事業

- ・町カフェに設置した掲示板やチラシラックに地域情報を配架する
- ・城郷ローカルメディア(Web)の運営を通して、新鮮な地域情報を提供する

地域連携HUB機能

- ・町カフェの中だけにとどまらず、鳥山町や城郷地区のさまざまな施設を利用して交流事業(マルシェ、音楽ライブ)を行う。
- ・地域課題を解決するためのアイデアだし会議(プレスト)を定期的に開催し、既存の地域団体などが協働する機会を創生する
- ・シェアカフェを通して他地区のコミュニティカフェ開設希望者に情報やスキルの提供を行う。

2次コンテスト事前質問集

【提案名（グループ名）】 鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る	
事前質問	回答欄
(朝比奈委員)	
①拠点でのシーンが具体的にイメージされワクワクしました。一方で、活動がここに至るまでには、段階を追って進める必要があると思います。手始めにどうとりかかるか、その後の展開のプロセスをどのように描いていますか。	<p>[サロン運営、相談支援ステーション]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材が揃っておりこれまで活動してきた実績もあるため安定して運営ができそうです。 ・新拠点の大きさを加味して現行の活動プログラムの改善点の洗い出しや利用者へのヒアリングを進めています。 ・プログラム変更等に応じて拠点設計にも手を加えながら丁寧に検討します。 <p>[レンタルスペース]：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査の結果さまざまな利用見込みの個人・団体と出会えています。 ・事前に具体的な設計イメージを伝え、意見も伺います。 <p>[カフェ運営]：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食事業の立ち上げや飲食業務の経験あるメンバーを中心に、キッチンの設計やメニュー作り、オペレーションを確立していきます。 ・カフェ業務(コーヒーの淹れ方、傾聴、町カフェとは 等)の研修を行いつつ、最初は「とりやまの郷」でのみカフェをオープンさせ、スタッフのオペレーションの定着を目指します。 ・カフェ業務に関わる講座を地域に開いて開催し、関わる人を増やしながらカフェの運営を徐々に広げていきます。 <p>[地域インフォメーション提供事業]：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシなどをこれまでの活動で得た協力店舗に配送するスケジュールの策定や体制づくりをします。

	<ul style="list-style-type: none"> ・城郷地区に限定した地域情報検索ができる「城郷ローカルWeb(仮称)」というローカルエリアのポータルサイトシステムを構築します。(今年度中のサービスイン予定)また、まち普請活動中に稼働させた公式 LINE や SNS も引き続き運用します。 <p>これらの仕組みと拠点の情報提供システム(掲示板、チラシラック、相談室)をリンクさせながらの整備や運用を検討し、情報提供のスキームをより強固なものにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [地域連携 HUB] : <p>その他資料に記載の団体と調整を進めています。具体的な連携プロセスについては植松委員の③にてご回答します)</p>
<p>②整備費用や活動が軌道にのるまでの運営資金の見通しをどのように考えていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点開設当初の運営資金の主軸はサービスB 補助金を想定しています。 ・令和 5 年度には NPO 法人化を行いサービスB 以外の補助金・助成金も申請予定としています。法人化後の社員の会費も運営資金となります。 ・《町カフェ》スペースの活用を申し出ていただいている団体もすでに複数あり、彼らのスペース利用料は運営資金となります。 ・拠点を構えることで地域の認知度や貢献度をさらに高め、団体への寄付金が得られるよう活動を推進していきます。
<p>③コスト削減の工夫があれば教えてください。</p>	<p>整備面 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2F 壁塗りやコーヒーテーブルの造作など可能な部分は地域の人たちと DIY 施工を行います。 ・整備機能にメリットを感じる事業者の寄付(共同出資:コーヒー業者に看板設置部分の出資をお願いするなど)で、団体からの出資コストを削減する工夫をします。共同出資についてはすでいくつかの事業者との相談が始まっています。 <p>運用面 :</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が小さな単位(時間や役割)で参加できる《ちょいボラ》を取り入れ人件費の削減をめざします。 ・カフェでの提供メニューを厳選し、食品や機材・資材ロスを防ぎます。
(飯尾委員)	
質問なし	
(植松委員)	
<p>①活動の母体となっている濱なかまの皆さんは、継続的な活動を展開して来られた様子で安心しています。一方で、カフェ業務や、傾聴に関心があるボランティアを募り運営する、としているカフェ運営や週末ボランティア活動などについて、今後の担い手確保の見通しを聞かせて下さい。</p>	<p>加藤委員の回答②のように、すでにカフェをサポートしてくれる支援者は集まっていますが、今後の広がりのための担い手確保について3つの柱を設けます。</p> <p>① 利用者からの昇華 単なるスペース利用者ではなく、《町カフェ》が彼らの“拠点”となるよう活動を支援します。</p> <p>これまでの活動を通じて共に拠点(居場所)を支えてきた「関連団体」が4団体あります。彼らとの関係性をモデルに、その他の地域資源と継続的な町カフェの活用について話し合いを進めています。</p> <p>② 《ちょいボラ》の提供 地域の人が彼らの関心や活動ができる時間に合わせて地域活動ができるように、多様な受け入れパターン(週末だけ、お子さんと一緒に、在宅でなど)を用意します。</p> <p>また、男性の場合「コーヒーを淹れる」など具体的な活動範囲を明確にして募集をするとよいというアドバイスもありましたが、逆に作業範囲を固定せずあえて“余白のある”参加の仕方も準備します。</p> <p>③ 学びを実践にする場の提供 《町カフェ》が中心になりコーヒーの淹れ方講座や傾聴講座を地域のなかで開催します。これらに参加した人が学びを実践する場として《町カフェ》での活動を提供します。講座では《町カフェ》に留まらず、城郷地域の他のコ</p>

	<p>コミュニティカフェや支援団体での活動についても紹介するという内容で講座の企画が具体的に進んでいます。</p>
<p>②平坦な場所に集える所を、との思いが実るよい企画だと思います。小机駅近くの幹線道路沿いに敢えて小さなスペースを拡充させるとのことですが、歩道は狭く、セットバックした分手狭となり、また、やりたい活動は盛沢山なので虻蜂取らずになる恐れはないでしょうか。</p>	<p>私たちが実現したいのは「地域連携 HUB」です。これは拠点の中だけで収まるものではなく、人や情報を拠点から外(町・地域)へつなげていくものだと考えています。ですから《町カフェ》に必要なのは広さ(収容人数の多さ)ではなく、情報が町へ循環していくポンプの仕組みだと考えています。</p> <p>《町カフェ》には“おしゃべり”“掲示板”“チラシラック”など「情報を得る仕組み」が備わり、“サロン事業”や“福祉生活相談ステーション事業”など「人に伝えてあと押しする機能」があります。そして情報が広がる先は町の中に点在しすでに連携が始まっています。《町カフェ》に立ち寄って新鮮で魅力的な地域情報を得た人は、《町カフェ》だけに留まらずさらに地域へ広がっていくと考えます。</p> <p>広がる先はまち普請活動を通して強化・拡充を進められています。</p> <p>《町カフェ》で実施する事業は「地域連携 HUB」を実現するために意味のあるもの「How(手段)」で、町カフェを通じてそれぞれが連携して作用していくことで虻蜂取らずにはならないと考えています。</p>
<p>③鳥山町の地形を考えて、様々な場所に小さな拠点が点在している状況を作ってそれらを繋げることで、活動を発展させていくという意図は素晴らしいと思います。その「繋がる・繋げる」方法や見通しを教えてください。</p>	<p>これまでの活動から既に多くの地域資源(ハード・ソフト)とつながっています。(提案書その他資料①)今後さらに繋がる・繋げていくために以下の方法などが、地域の方たちで行った「ブレストミーティング」の中で挙がっています。</p> <p>① マルシェと音楽： 誰でも気軽に立ち寄る・参加することができ地域とつながる入口となる。</p> <p>② 城郷ローカル Web： IT を通して地域を「知る」ことで地域とつな</p>

	<p>がるきっかけとなる。</p> <p>ひっとプラン(港北区地福計画)施策と関連させながら稼働させるシステムなのでさまざまな団体がこのシステムを利用することが期待でき、その経過で多くの地域資源とつながることができます。</p> <p>③ コラボイベント :</p> <p>win-win 関係を超え、地域資源の strong ポイントの掛け合わせで新たなイベントや企画から新しいつながりを作る</p> <p>提案書その他資料①の“すごろく”でも示した通り、まずはビジョンの共有でつながっている地域資源と、マルシェと音楽イベントを軸に現実の場で関係性を深めて小さな拠点同士の連携を重ねていきたいと考えています。</p> <p>音楽イベントは可能な場合、マルシェと同時開催を行っていきますが、そのほかにも、城郷地区で音楽イベントができる場所を複数確保できたので、多様な音楽イベントを開催し、音楽を通して人や資源のつながりが実現できると考えています。</p>
(加藤委員)	
①階段の傾斜を緩やかにし、新設とありますが、スペース的に実現可能なのでしょうか。	福祉のまちづくり条例を参考に階段の設計をしています。
②カフェ運営に必要なボランティアさんは現在どれくらい集まっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・濱なかまの 10 名、コーヒーボランティア1団体、個人のボランティア3名がいます。 ・子育て世代を対象に開く日には、子育て支援団体からカフェへのサポートが得られる方向で話が進んでいます。
③地域の様々な場所との連携についてですが、現在はどの程度連携が見込まれていますか。(その他資料①がおそらくその説明だとは理解していますが、どこまでが連携済みで、どこからがこれからの予定なのか教えてください)	<p>その他資料①に示す示した資源とは、ビジョンや連携のアイデア共有が行われており、施設(ハード)利用について了承を得られている状況で、既にいくつかの連携計画が進んでいます。</p> <p><連携の仕方></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ホットカフェ提供のお弁当を町カフェのランチとして提供する計画 ・複数拠点での地域をまたいだ音楽イベント開催 ・子供の放課後の居場所づくり団体の町カフェでの新規居場所事業開催計画 ・手作りパン教室講師の町カフェでのパン提供とスタッフへの講座開講 ・地域の歴史研究会と地域の探索地図製作を手掛けた団体で地域の歴史探検コースの開発をし、コンビニの自転車レンタル事業がコラボする など
④ 2階スペースでのサービスBは実現可能なのでしょうか。(広さと、階段の昇降)	<p>階段は安全性を考慮し福祉のまちづくり条例を参考に新設しますので昇降については問題ないと考えます。</p> <p>収容人数などについてはサービスBの条件を満たしているため問題ありません。</p>
(川原委員)	
質問なし	
(後藤委員)	
① 500万円を超過する部分はどのように賄いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・過去まち普請でクラウドファンディングを経験した方々にノウハウを教授いただきクラウドファンディングに挑戦する考えがあります。 ・これまでのまち普請活動のなかでさまざまな事業者より協力のお申し出がでています。これらの事業者と互いに win-win の関係を調整しながら、整備費用の寄付や協力を得られないか相談をしています。
② いろいろな活動案が盛り込まれていますが、どの活動が核でしょうか。一番やりたい活動を教えてください。	<p>私たちが実現したいのは「地域連携 HUB」です。</p> <p>植松委員②への回答にも記載させていただきましたが、《町カフェ》で実施する事業は「地域連携 HUB」を実現するために意味のあるもので How(手段)ですので、それぞれが連携して作用してくものだと考えています。</p>
③ 活動案に対して、空間が狭くはないでしょうか？	<p>植松委員②の回答をご覧ください。</p> <p>今回の提案はこの拠点ですべてを賄うのでは</p>

	<p>なく、この拠点がポンプの役目となり人や情報が町へ循環していく仕組みとなることが目的で空間の広さは問題になりません。少人数であってもその方と丁寧につながり魅力的な情報を提供し地域へ送り出す機能整備ができていれば十分と考えます。またより多くの方に興味をもってもらえる仕掛けとして、セットバックスペースは大変有効とも考えています。</p>
<p>④ ベビーマッサージなども活動に入っていますが、おむつ替えスペースなどは必要ないでしょうか。</p>	<p>・おむつ替えスペースは、2階の相談室を利用していただくことを想定しています。相談室が利用中の場合は2階和室を仕切り対応いただくことになる場合もあります。</p> <p>*ベビーマッサージだけでなく、読み聞かせ、や産後ママのためのストレッチなどを提供する子育て支援者・団体にも関心をもっていたきたくさんのご連絡をいただいております、みなさんで行った「ブレストミーティング」で子育て中の方の利用を想定した場合必要になる設備について意見を出し合いこの案としました。</p>
<p>(杉崎委員)</p>	
<p>① 1階部分の車いす利用者の利用は想定しているでしょうか。</p>	<p>・1階の利用を想定していますが具体的な利用範囲については調整中です。</p> <p>・トイレはスペースや段差の関係で完全に対応することが困難と考えており、近くのコンビニエンスストアでトイレ利用が可能か調整中です。</p>
<p>(松村委員)</p>	
<p>① 「町を故郷に」感じてもらいたい人として想定しているのは、どのような人たちでしょうか。提案に関わっている人たちでしょうか。それとも、何か気になるターゲットがありますか。</p>	<p>鳥山町の住人すべてといえます。</p> <p>特に今回は、拠点候補地のポテンシャルの高さから、地域につながっていない人(自治会に所属していない方、定年や産休などでこれまでつながっていた社会と途切れてしまった方、外国にルーツのあるご家族など)が地域に入る最初の一步を開くことができる可能性を大いに感じています。地域につながっていない住人は、新しい住人だけでなく、古くか</p>

	<p>らいる人も含まれています。また町内会や社協などとすでにつながっている人もふくめ、《町カフェ》がすべての人にとって新しい地域とのつながり方になればと思っています。</p>
<p>② 多様な機能が盛り込まれていますが、サロン、カフェ、レンタルスペース、相談支援、情報提供、地域連携ハブの優先順位を付けるとしたら、どのような順番になりますか。</p>	<p>① 地域連携 HUB</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) カフェ・サロン (2) 情報提供 (3) 相談支援 (4) レンタルスペース <p>あえて順位をつけるとすれば以上の通りです。地域連携 HUB を実現するための(1)(2)(3)(4)だと考えます。</p>
<p>③ 「町カフェは、はじまりの一步」とありますが、この拠点を地域のハブとしてどのように機能させる計画なのか、実現可能性が高いものがあれば、具体的に補足説明いただけますか。</p>	<p><機能のさせ方></p> <p>この拠点から人や情報を循環させるポンプの役目を果たします。具体的には植松委員の回答②を参照ください。</p> <p><実現性の高いもの></p> <p>○より新鮮で魅力的な地域情報の提供チャンネルの展開をします。</p> <p>-《城郷ローカル WEB(仮称)》という城郷地域に特化した情報提供サイトを構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申し込み機能の提供 ・写真や動画でより詳細な情報を提供 ・地域への参加の後押し <p>-公式LINEなどSNSの運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の適時提供 ・より広いユーザとのつながりづくり ・PUSH 式情報提供で地域情報にふれる機会を増大させる <p>○新たな地域資源の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> -多様な参加者でまち普請活動でも実施してきた新たな地域資源開発のプレストミーティングを開催 -拠点周辺でマルシェ、音楽イベントの開催 徐々に規模を広げ地域に関わる人を増やす -近隣地域でマルシェや音楽イベントを開

	<p>催する小さな拠点を開発 (今回は見送られた空き家の活用視野に) -マルシェを開催しながら地域連携HUBと なる第二の《町カフェ》候補を発掘していく</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名	山本助産院 笑楽幸プロジェクト運営委員会
整備場所	金沢区 六浦二丁目
提案名	笑楽幸プロジェクト（多世代型交流拠点事業）
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 （具体的な整備内容※1を工夫した点※2にも触れて記入してください） ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>既存の空き家の一階部分を利用範囲とする。整備にあたっては、①利用者の安全を保つことができるようにする＝目が行き届くようにすること、②利用者にとって気持ちよく過ごせる環境にする＝心地の良さを大切にすることに留意した計画とする。</p> <p>① 利用者の安全を保つ</p> <ul style="list-style-type: none"> 目が行き届くよう、できる限り仕切り壁をなくした死角のない間取りにする。 <p>② 利用者にとって気持ちよく過ごせる環境にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰でも気軽には入れるよう、開所時間内は縁側をメインの出入りとし、工作教室(絵具の利用)など水場を利用する活動にも対応できるよう、衛生面を考慮して手洗い場を3か所(玄関/縁側/トイレ)に設ける。 床面に近い子どもたちにとって衛生的な床の重要性は高く、朽ちた床面の補修及び畳部分をフローリング化する。 既存の設備ではトイレ洗面が非常に狭いため、子どもから高齢者まで使いやすい広さのあるトイレ洗面に改修する。おむつ替え用ベッドを設置する。 現地見学会で「日当たりが良く気持ちよい」と声の上った縁側は、利用者にとって心地良さを感じるポイントである印象を強く受けたため、縁側の整備及び常設の屋根を設ける。 カフェ開設のため、キッチンに手洗い器を設置する
施設の活用・活動内容 （具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください） ※第1次提案書より具体的に記入してください	<p>① ランチやカフェなどの飲食をメインとした集いの場</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日の日中は、ランチ及びカフェを運営。 持続可能な地域支援を目指し、施設の運営の収益の柱となる。 外国籍の方、独居の高齢者、軽度の認知症を抱えている方など、行き場がなくひきこもりがちになる生活で、気軽に来られて、安心して交流できる場があるとうれしいとの声が近隣住民よりあった。 <p>② 地域住民の特技や才能を発揮・挑戦する場</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民が個人の特技等を発揮する場として、持ち寄り企画を実施。 午前/午後/夕方/夜の時間帯で枠を分け、企画を募る。教室等、参加者から参加料を取るものに関しては、教室等の主催者から施設運営のための使用料を徴収する。 ワークショップ(以下、WS)では、各種教室(料理、裁縫、エステ、ヨガ、工作教室、リトミック等)のアイデアが上がり、それぞれの特技が他者からのニーズに応えることができる(循環が生まれる)ものであることが分かった。 <p>③ 医療、福祉職による「なんでも相談所」</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療職、看護職、福祉職が出入りする山本助産院に隣接する強みを生かし、地域住民を対象とした「なんでも相談所」や健康チェックの実施。さらに区保健センター等の行

	<p>政や地域の民生委員、児童主任委員につなぐ橋渡しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WSでは、子育てや介護等、日々の悩みを相談できたり、話を聞いてもらえる場所が欲しいとの意見が上がった。 ④ 親と子のつどいの広場「たんぼぼ」を卒業した親子への子育て支援の拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・平日夕方は、就学児向けのイベントや小中学生の放課後の居場所として開放。 ・学生ボランティアに協力を得て、学習支援や自習スペースを運営する。 ・WSでは、就学児とその親を対象とした子育て支援の場を求める声が多く上がり、また小学生向けイベントを開催したいという近隣の方もいた。 ⑤ 地域住民のつどいの場 ～坂の上の町内会サテライト的役割～ <ul style="list-style-type: none"> 町内会館から遠く町内での集まりに参加しづらい地域であるため、町内会館とは別に地域の方が気軽に集える場として坂の上の町内会サテライト的役割を担う。また近隣の市大第2グラウンドは地域住民や子供たちが多く利用することから、その帰りに立ち寄れるマルシェやカフェを通じて近隣住民との交流を促す。 ⑥ 子育て支援を統合する拠点と生活拠点 <ul style="list-style-type: none"> 隣施設で行っている妊産婦乳幼児支援や未就園児支援と、施設で行う就園児、小中学生以上の子育て支援を統合する機能を担う。また当地区は商業施設のない不便な地域のため、お茶をしたりパン、菓子、野菜やお惣菜を購入できる生活拠点となる。
<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>金沢区六浦地区は、①高齢者が多い(独居/認知症等)、②子育て世代と高齢者との交流が少ない、③山坂が多く駅や商店まで遠いため、買い物するのもバス停まで下らなければならない、④地区が大きく全体でのコミュニティが希薄になりがち、⑤空き家が多い等の問題・課題がある。一方で、第一次提案書提出以降に重ねたWSのなかで、「誰でも気軽に参加できる交流の場がほしい」「自分たちのもつ能力を発揮できる活動の場がほしい」「高齢者、子育て世代、外国籍の方、独居の住民が安心安全に暮らせる地域にしたい」というニーズが挙げられた。</p> <p>それを実現するため、地域にある助産所、訪問看護ステーション、子育て支援広場と連携した「多世代型交流拠点」の整備と開設が望まれている。古くから住む住民の繋がりがあり、隣近所のために助け合う土壌があるので、その思いを発揮できる場を作り、人も地域も人も生き生きと輝いて暮らせる地域にしたい。</p>
<p>整備プロセス (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>①整備プロセス(スケジュール)</p> <p>2023年上半期:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)カフェ・ランチ提供の詳細確定やスタッフの役割分担とシフト調整 <ul style="list-style-type: none"> ※スタッフは、近隣の方を中心に申出あり ※プロジェクトリーダーや調理師免許を持つスタッフを中心に構成 (2)イベントスケジュールの確定:平日/休日の昼、夕方、夜間のイベント開催希望あり。講師と相談し、日程や時間の調整をしていく。 (3)耐震のため横浜市空き家の改修等補助金等申請 <p>2023年11月～12月:耐震改修に合わせ整備 2024年:事業開始</p> <p>②活用する地域資源</p> <p>【ヒト】地域の方による活動スタッフ登録(LINEグループを立上げ済み) 整備計画は、地域の設計専門家に依頼する つながりのある美術専門家と協働で壁面内装整備ワークショップ開催</p> <p>【モノ】キッチンと比較的狀態が良いことからほぼ改修はせず、既存の設備は現状のまま利用する</p> <p>【カネ】ボランティア精神でできる限り格安で依頼 活動趣旨に賛同する方から資金を募る(事業で還元する:優待制度)</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するときに連携する仲間の役</p>	<p>【ヒト】維持管理/運営計画は責任者を中心に以下のメンバーと連携する。</p> <p>広報周知担当:プロジェクトメンバー、町内会と協力</p> <p>キッチン担当:調理師のメンバー、整備場所周辺の住民</p> <p>イベント担当:整備場所周辺の住民、たんぼぼ利用者、プロジェクトメンバーおよびその知人等。⇒その他資料参照</p> <p>何でも相談所担当:山本助産院スタッフおよび訪問診療医師</p>

<p>割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>持ち寄り企画:地域住民の特技を活かしたイベント(裁縫、写真撮影など)。週に何枠か、住民が持ち寄り企画を提案し実施できる枠を用意。</p> <p>学生ボランティア:学習支援、活動スタッフ、広報等</p> <p>【モノ】整備場所に既に備えてある物品、地域住民からの寄付品を出来る活用</p> <p>【カネ】施設内カフェをメインに収益を出すことで運営する。サブとして、スペース貸しや地域住民の得意なことやスキルを活かせるイベントを企画し収益を得る。その他、地域住民によるフリーマーケットを開催。</p>
<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料(任意様式)に記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10/26子育て世代向けWS(整備場所での活動アイデア) ・11/1町内会向けWS(整備場所での活動アイデア) ・11/9近隣住民を招いた、カフェ試食会およびWSの開催 ・11/16「ジブンゴト」WS(整備場所で自分が何ができるか) ・WS各回にて:協力者(予定)の方が作成したクッキー試食とアンケート ・社協協力による社協広報誌での整備内容周知(六浦地区5000世帯全戸配布) ・町内会の回覧板および掲示板にて活動内容を周知
<p>関係者の合意・調整状況 (地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください)</p>	<p>【地権者】密に連絡を取りプロジェクトの進捗状況を共有している。</p> <p>【近隣住民】山本助産院内で試食会及びWSを開催し、施設の整備と活動内容に関して合意形成を図った。</p> <p>⇒ぜひ開設してほしい、自分もカフェやランチの手伝いやバザーなど協力したい、みんなで活動できる場ができれば親睦が深まる等積極的な意見が多かった。プロジェクトを好意的に受け止められ、地権者および近隣住民の合意を得るに至った。</p> <p>【自治会町内会】六浦陸町内会館にて町内会役員の方へ趣旨説明をし、さらにWSを開催して地域住民の方から地域の課題、活動アイデア、関わり方などについて意見を聞くことができた。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>地域から多く上がった子育て支援(放課後の小中学生の居場所)や介護の悩み等、個々に抱えてしまいがちな悩みであるが、地域の助産所、診療所、訪問看護ステーション、子育て支援者、周辺大学等の専門職が集まる特徴を活かし、これらの人材が中心となり地域で支え合うというモデルが他の地域でも活用できると期待している。</p>
<p>目指す地域の将来像 (施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください)</p>	<p>「笑楽幸プロジェクト」は、六浦地区の住人と来訪者の方が「笑」って「楽」しく「幸」せになる、そんなキッカケが生まれる場を目指す。</p> <p>① 坂の上の町内会サテライトとして山側と平地側の住人を繋がる 面積が大きく山坂が多い六浦地区は、山側と平地側の住人の交流を減らす要因である一方、近隣の市大第二グラウンドは、地区住民が日常的にソフトボールやサッカー等の利用で訪れている。その立地を生かし、地区北側の住人の方や市大第二グラウンド利用帰りの人が気軽に立ち寄れる「<u>坂の上の町内会サテライト</u>」として山側と平地側の住人が交流し繋がる場を目指す。なお、市大第二グラウンドは広域避難場所にも指定されているが、その鍵の管理はグラウンドから少し離れた個人宅であるため、<u>有事に備えて近隣である当該施設にて鍵を管理を担うことで、地域住民の防災に貢献</u>していきたい。</p> <p>② ちょっとした悩みも気軽に相談できる支えあうまち 子育てや介護など、一人で抱えてしまいがちな悩みも、<u>各分野の専門職や地域の先輩ママなどがある場</u>があることで、<u>気軽に相談ができる、地域の住民同士で支えあえるまち</u>を目指す。</p> <p>③ 年齢層や職種を問わず自分の能力や経験を活かし挑戦できるまち 時間帯によりスポットで自主企画ができるなど、より多くの人が当該施設に主体的に関われる仕組みを整え、<u>年齢層や職種を問わず能力や経験を活かし挑戦できるまち</u>を目指す。</p>

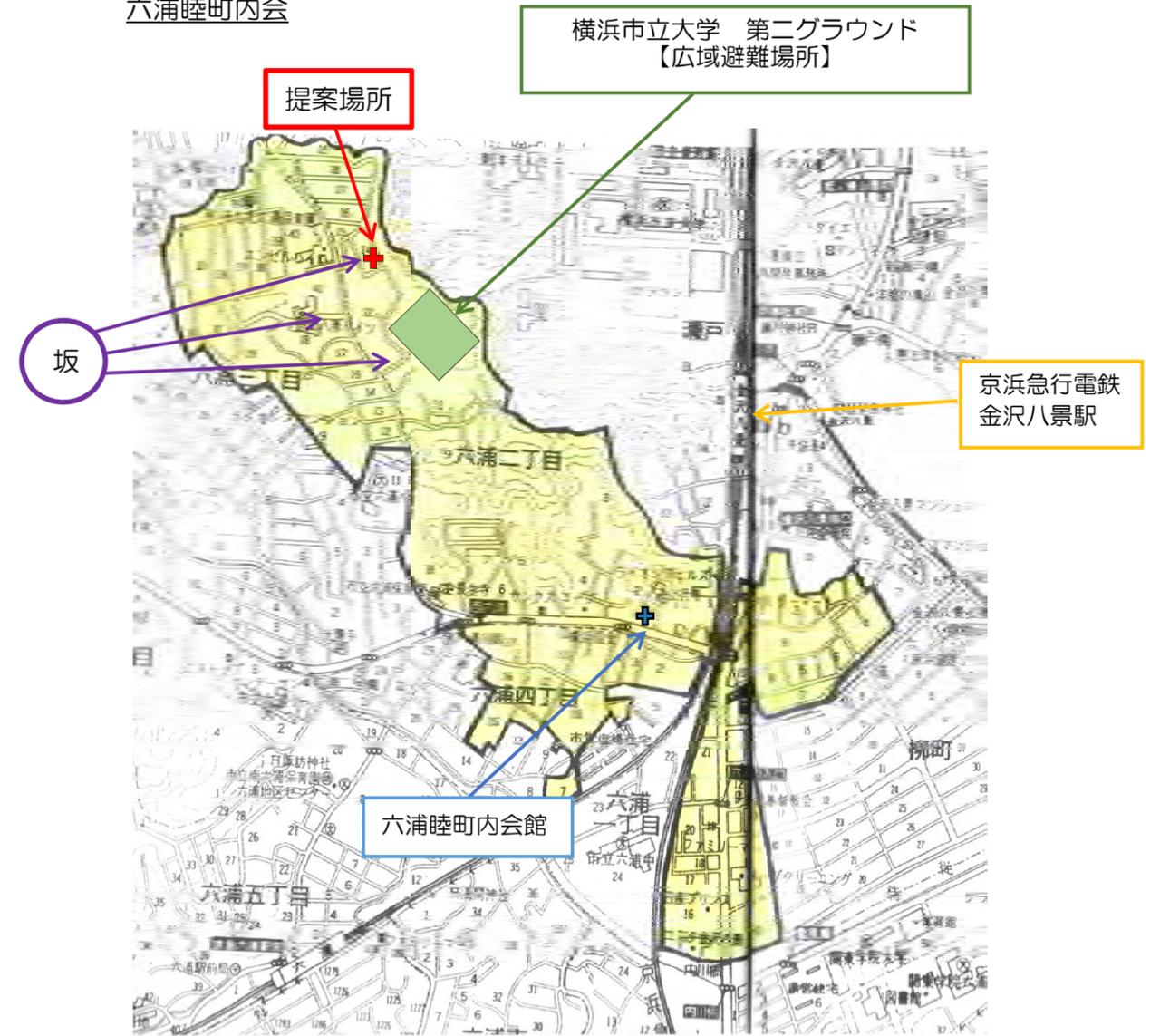
記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置図



六浦睦町内会



町内会提供

太枠内が、六浦睦町内会

周辺の状況



なんでも相談室	押入解体
壁天井	既存のまま
床工事	既存のまま
カウンター工事	修正板木製引き違戸
押入解体扉取り付け	天井同上

リビングC	既存のまま
壁天井	既存のまま
床工事	フローリング合板
収納	既存量

リビングB	既存のまま
壁天井	既存のまま
床工事	フローリング合板
収納	引き違い木戸

リビングA	既存のまま
床壁天井工事	既存フローリング
壁工事	東一面絵画用
	フラスターボード左官
	北壁1800解体
	開口枠

部屋名	面積	㎡(坪)
リビング	38.92	(11.77)
合計	38.92	(11.77)

丸め 四捨五入

部屋名	面積	㎡(坪)
トイレ	5.71	(1.73)
合計	5.71	(1.73)

丸め 四捨五入

部屋名	面積	㎡(坪)
なんでも相談室	8.28	(2.50)
合計	8.28	(2.50)

丸め 四捨五入

水回り	床壁天井工事
トイレ工事	引き戸1650*1800
	ペーパー1
	洗面器1
	便器1
外部	洗面器1
玄関ロカ	洗面器カウンター

玄関	フローリング合板
床工事	洗面器カウンター
	壁一面構造合板

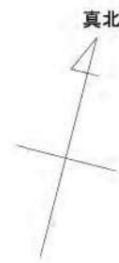
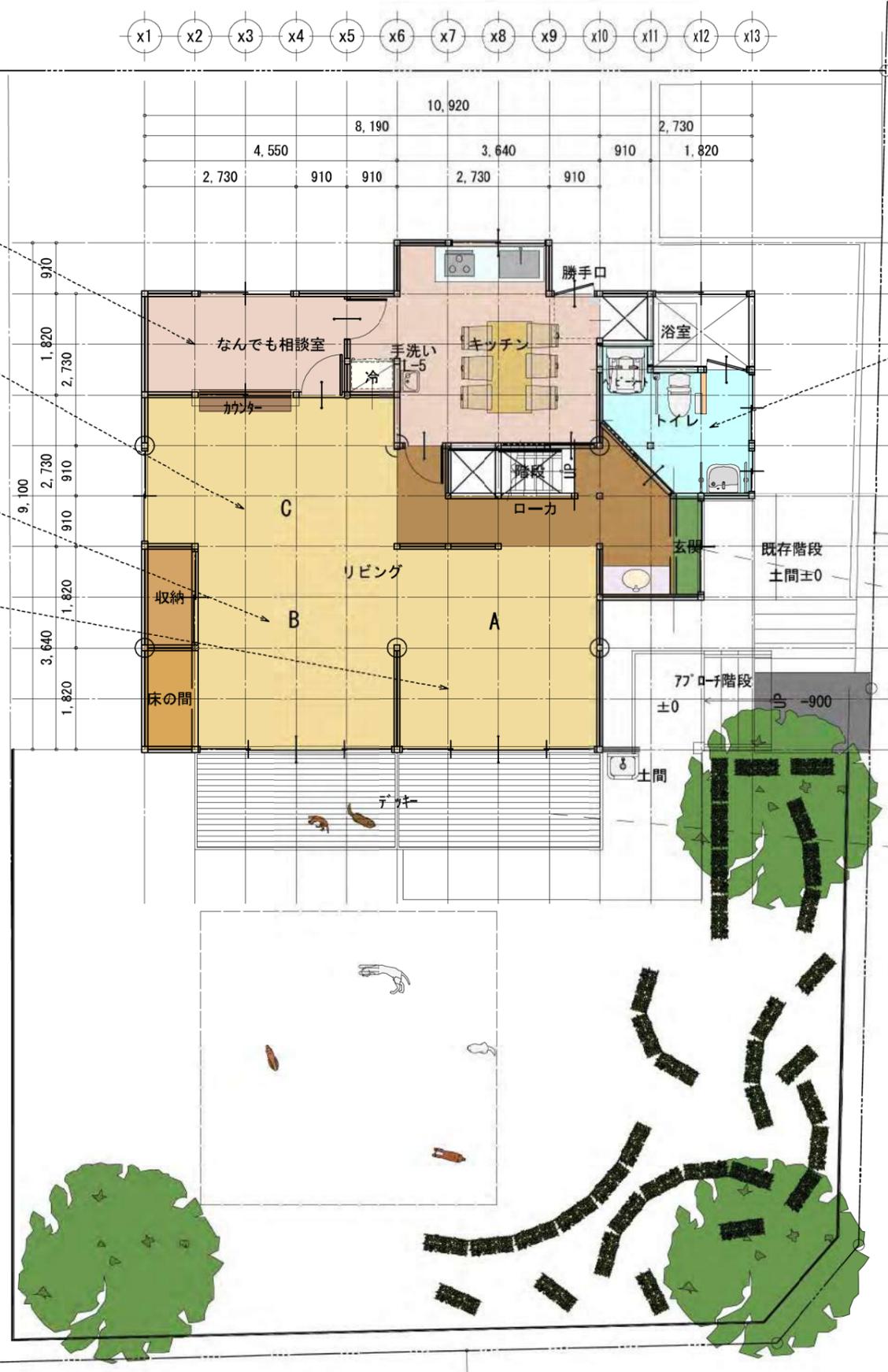
外構工事	防水性木製
デッキ	
デッキ77ローチ土間	土間コン
77ローチ階段	RC土間コン
	洗面器1

部屋名	面積	㎡(坪)
デッキ	12.78	(3.87)
合計	12.78	(3.87)

丸め 四捨五入

部屋名	面積	㎡(坪)
土間外階段	12.39	(3.75)
合計	12.39	(3.75)

丸め 四捨五入



2022/11/16

22.11.18



+ misou

株式会社 三創建築都市設計
 Architects Group + 21century Space
 1級建築士事務所 東京都登録 第10030号
 1級建築士登録番号 第59008号 五十嵐 正紘



DRAWING TITLE
 1階リフォーム 平面図

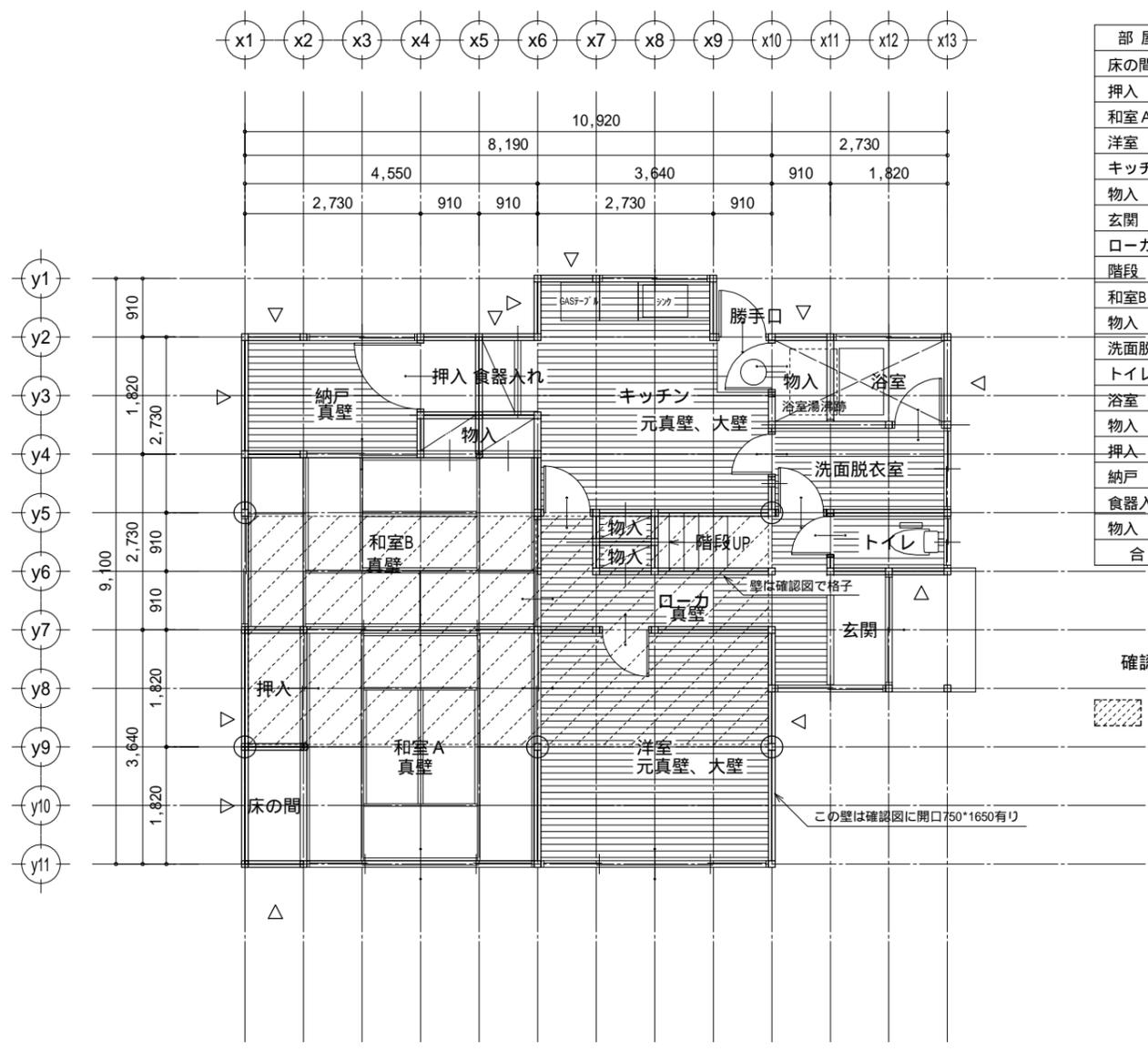
PROJECT TITLE
 笑楽幸フプロジェクト
 SCALE 1/100
 DATE 2022/11/12
 CHECKED

SHEET NO

6.600



38

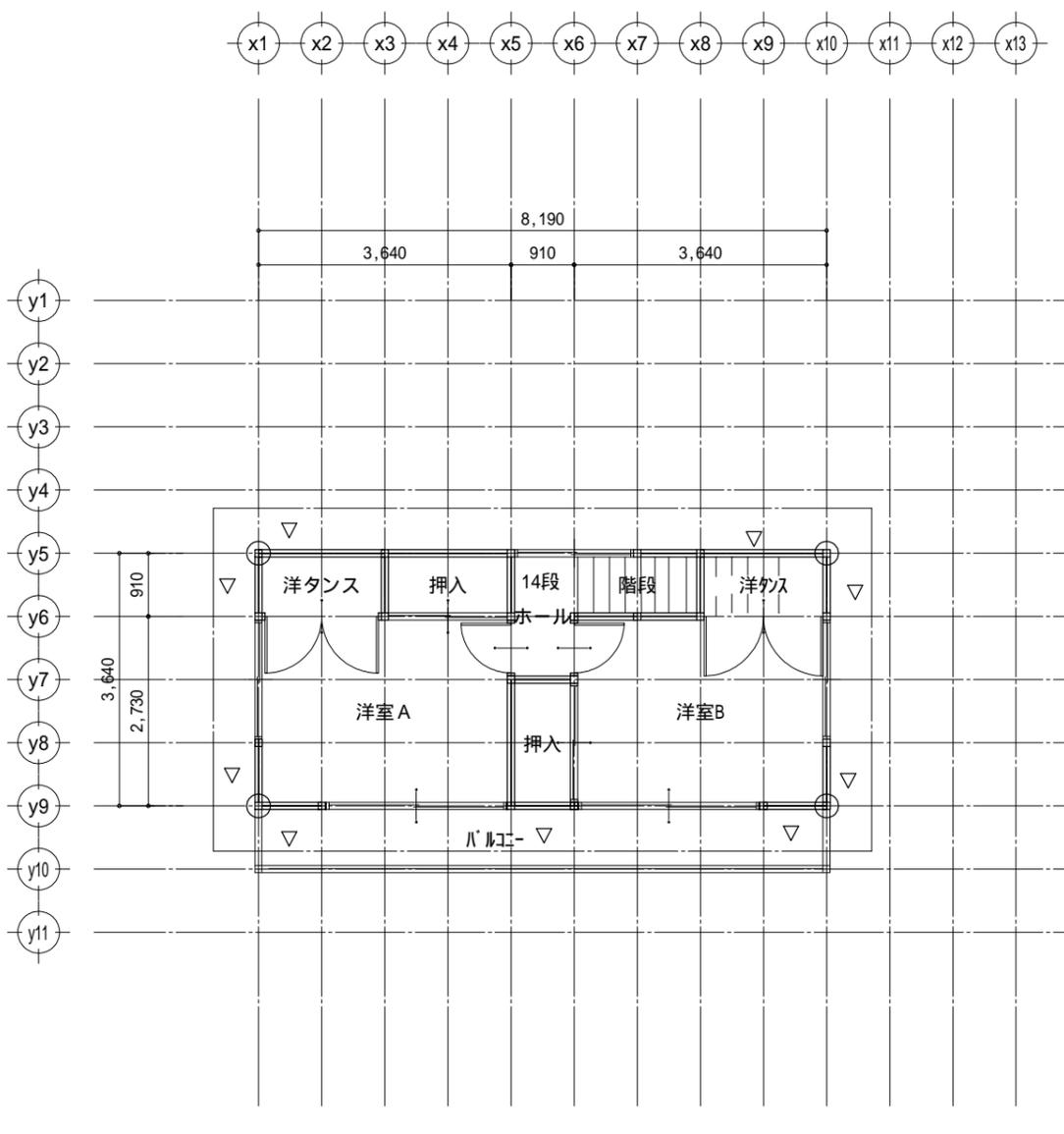


部屋名	面積	㎡(坪)
床の間	1.66	(0.50)
押入	1.66	(0.50)
和室A	13.25	(4.01)
洋室	13.25	(4.01)
キッチン	12.42	(3.76)
物入	0.41	(0.13)
玄関	1.66	(0.50)
ローカ	6.62	(2.00)
階段	1.66	(0.50)
和室B	12.42	(3.76)
物入	0.41	(0.13)
洗面脱衣室	3.73	(1.13)
トイレ	1.66	(0.50)
浴室	2.48	(0.75)
物入	1.24	(0.38)
押入	1.10	(0.33)
納戸	4.97	(1.50)
食器入れ	1.10	(0.33)
物入	1.10	(0.33)
合計	82.80	(25.05)

丸め 四捨五入

確認図の筋違位置
 2階屋の位置

1階既存 平面図 S:1/100



2階既存 平面図 S:1/100

ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
撤去工事	リビング畳撤去 (23.5畳) トイレ壁、設備 撤去 相談室押入撤去	一式	620,000	620,000	
木工事	リビング床下 地、フローリン グ張り (38.92 ㎡) トイレ壁下地、 柱移設 相談室壁下地	一式	890,000	890,000	
内装工事	トイレ・相談室 天井・壁 ビニルクロス+PB 床 ビニルシート+合板	90㎡	5,000	450,000	
建具工事	リビング引き違 い戸設置 相談室ドア 2 引き違い戸1 カウンター1	一式	650,000	650,000	
電気工事	相談室	一式	70,000	70,000	
設備工事（材工 共）	便器 1 洗面 3 ベビシート 1 電気水道工事含 む	一式	1,300,000	1,300,000	
外部デッキ工事	デッキ新設 (12.78㎡) 手洗い場新設	一式	490,000	490,000	

左官工事	土間、外階段RC 鏝仕上(12.39㎡)	一式	500,000	500,000	
鋼製建具工事	外部庇設置工事 12.78㎡	一式	500,000	500,000	
リビング壁整備	リビング装飾用 下地、壁紙クロ ス張り8.64㎡	一式	90,000	90,000	
材料費	リビング壁面装 飾	一式	10,000	10,000	ワークショップを 開催し、地域住民 とDIYを行う
合 計				5,570,000	

1次コンテスト以降の活動状況

地域住民のニーズ把握と活動の計画づくり

① 世代別アイデアワークショップの開催【10月26日、11月1日】

- 子育て世代と町内会を対象に、多世代交流拠点でやりたいことについてのアイデア出しワークショップを実施
- 子育て世代の会では現地見学会も行った
- 山坂ある地形や大きい町内会など、地区の課題についても把握



② ジブンゴトワークショップの開催【11月16日】

- イベント企画等で主体となって活動いただける方々中心に集まり、企画の提案（内容と活動時間）をもらいながら活動スケジュールをまとめた
- 多世代交流拠点で販売予定のクッキー試食を配布しアンケートを実施



③ 近隣住民を対象とした試食会ワークショップの開催

- 近隣住民の方を対象に、ランチの準備、配膳作業、片付けまでの一連の作業をデモンストレーションしながら試食会を行い、ランチのボリュームや価格等についてニーズを把握



地域住民への活動周知

① 社協広報で活動内容紹介【9月15日】

- 社協協力のもと社協広報「令和4年度社協むつうら第31号」にて活動内容と一次コンテスト通過の周知をしました。
- 六浦地区（六浦睦、瀬戸、柳町、八景東、アネックス、塩場）約5,000に全戸配布



② ワークショップの告知チラシ【9月15日】

- ワークショップの告知チラシを町内会掲示板に掲示。

③ 周知チラシの作成及び掲載【12月掲載予定】

- 一次コンテスト以降の活動の様子をチラシにまとめ、六浦地区の回覧板及び掲示板で周知予定。



グループ定例会

月に1～2回程度、運営委員会メンバーやコーディネーター、市大三輪先生、市職員の方々等で整備内容の具体化、2次コンテストに向けての打ち合わせを実施

活動スケジュール (案)

企画 【実施主体】	月	火	水	木	金	休日
朝 		ラジオ体操				
午前 	週替わり 親子教室	ランチ カフェ	ランチ カフェ	ランチ カフェ	ランチ カフェ	週替わり イベント
午後 	週替わり 教室	撮影& 写真講座 【Sさん、Nさん】	まちたんけん 他 【大学】	ITサポート 【Sさん】	不登校児支援	マルシェ フリーマーケット
夕方 		小学生遊び場 【大学生、 地域の方】	リコーダー 教室 【Oさん他】	学習支援 【たんぼぼ】	小学生向け 工作教室 【Oさん他】	
夜 					持ち寄り バー	

- 自主企画
- 自主企画
月1・2回程度
- 持ち寄り企画

【月・午前】週替わり親子教室プログラム

- 親子でわらべうた (Oさん)
- フラダンス教室 (Tさん)
- 体操教室 (たんぼぼ連携)
- プレイバックシアター (たんぼぼ連携)

【月・午後】週替わり教室プログラム

- 英会話教室 (Oさん)
- ウクレレ教室 (Sさん)
- 書道教室 (Kさん)
- 編み物教室 (Sさん)

【土・午前】週替わりイベントプログラム

- 親子でわいわい体づくり (Yさん)
- 親子ストレッチ (Oさん)
- 親子向けライブ「たんぼぼげきじょう」(Kさん)

11/16「ジブンゴト」ワークショップで

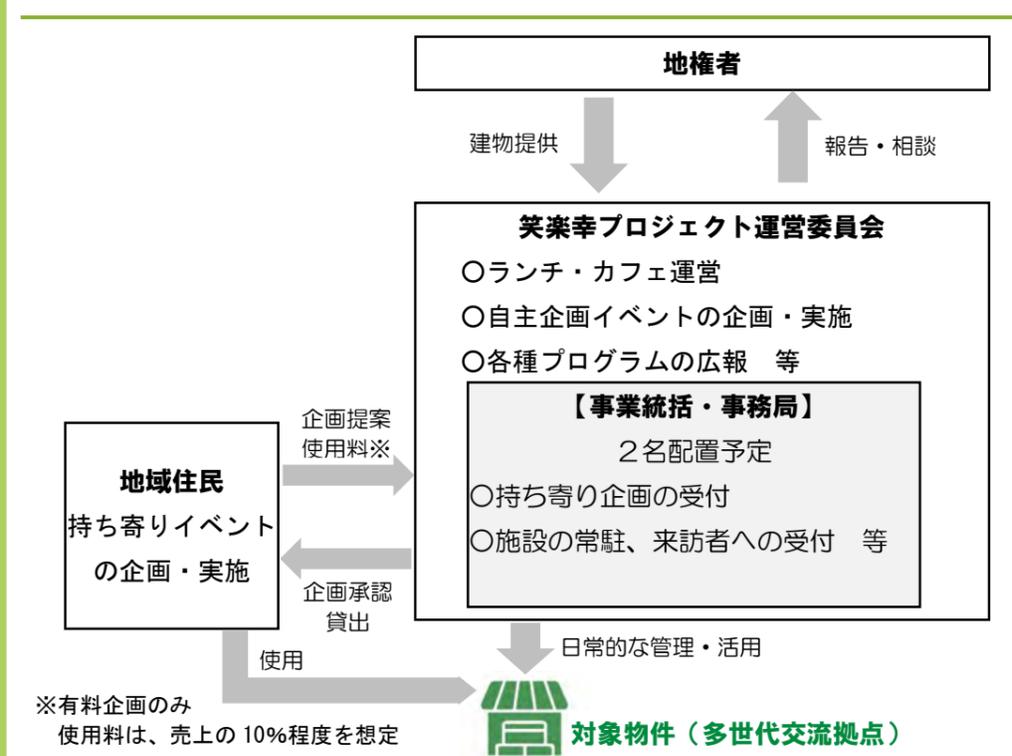
地域住民の方々から活動提案いただきました！

活動内容を具体化していくため、11月16日に開催したワークショップでは、運営の主体となっていただく方々を中心にお集まりいただき活動スケジュールの作成していききました。

運営メンバーとして毎日、携われる方もいれば、週に1度や隔週などスポットで携われる方等、それぞれのライフスタイルにより様々な関わり方のニーズがあるため、週替わりで企画を持ち寄れる枠を作るなどして、少しでも多くの方が主体的に関われる仕組みを整えていく方向で検討を進めています。



運営体制のイメージ



活動周知チラシ (アイデアワークショップの結果とランチ・クッキー試食アンケートの結果)

ヨコハマ市民まち普請事業 笑楽幸プロジェクトからのお知らせ

六浦地区の新たな多世代交流拠点実現に向けて!

現在、山本助産院では地域の方々と一緒に、六浦2丁目14番地にある山本助産院/親と子のつどいの広場「たんぼぼ」に隣接する空き家だったお家を地域のこどもから子育て世代、お年寄りまで、多世代が交流できる多世代交流の場として整備するための検討「笑楽幸プロジェクト」を進めています。

実現に向け横浜市まち普請事業に申請し、7月9日に実施された1次審査を通過しました。現在、令和5年1月に予定の2次審査に向けて準備中です。



アイデアワークショップを開催しました!

地域の方々へのプロジェクト周知と多世代交流拠点での具体的にやりたいことのアイディア出しを目的に、アイデアワークショップを開催しました。

子育て世代や町会の方々や多世代交流拠点でやりたいことのアイディア出しを行い、まとめの会では実際に活動の主体となる地域の皆さまにお集まりいただき、アイデアに基づき具体的な活動スケジュールの案を組み立てていきました。



主なアイデア

朝	ラジオ体操、ヨガ、自転車乗り方指導 など
日中	料理教室、楽器教室、ママ英会話、リトミック、工作教室、絵本の読み聞かせ、コーラス、読書、囲碁・麻雀、マッサージ・美容鍼、SNS講座、YouTube撮影、ギャラリーDIY、ミシン貸出、コワーキング、子どもの一時預かり、子育て・介護相談所 など
夕方	駄菓子屋、学習塾、自習スペース、小中高校生の居場所、子ども食堂 など
夜	映画鑑賞、お月見会、バー など



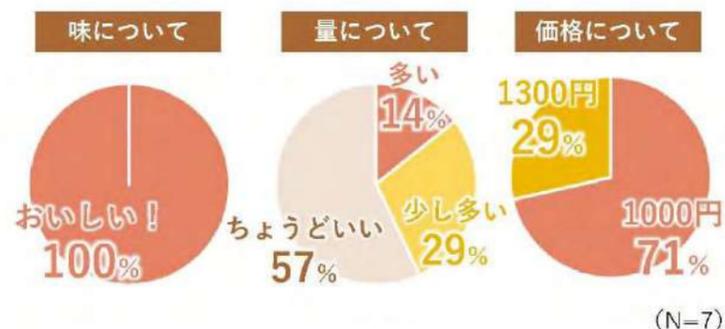
オーガニックおやつに関するアンケート結果

多世代交流拠点での活動の一つとして予定しているオーガニックおやつの販売に向けて、ワークショップ開催時に試食会を行いました。



ランチ試食会を行いました

多世代交流拠点でのランチ提供に向けて、試食会を実施しました。



仲間大募集 多世代交流拠点で一緒に活動していきませんか?

笑楽幸プロジェクトでは、多世代交流拠点の実現に向け、一緒に活動していくメンバーを募集しています!
運営メンバーとして多世代交流拠点での活動を企画していきたい!
自分のちょっとした趣味で教室を開いてみたい!
趣味で作っているお菓子を週に1度だけ販売してみようかな!
など関わり方は人それぞれ。それぞれの関わり方で多世代交流拠点の場を一緒に盛り上げていきませんか?少しでも活動に興味のある方は、是非、お問合せください!



【お問合わせ】山本助産院 笑楽幸プロジェクト運営委員会 (山本・長澤・草柳)
住所: 六浦2-14-12 電話: 045-788-6601

2次コンテスト事前質問集

【提案名（グループ名）】 笑楽幸プロジェクト（多世代型交流拠点事業）	
事前質問	回答欄
（朝比奈委員）	
①プログラムごとにどの場所をどのように使うイメージですか。午前・午後の入替え、物品の収納場所など空間の使い方について具体的に教えてください。	<p>別紙①②③参照：図面および活動予定カレンダー</p> <p>まず、室内のレイアウトに関しては、耐震のため構造上抜くことのできない壁以外を全て取り払い、「なんでも相談所」以外を、一室にしたいと考えています。それにより、全体を見渡すことができ、安全に配慮できることはもちろん、広々と気持ちよくご利用いただけたらと思います。そのため、プログラムについては、同時にいくつかのプログラムを運用せず、単一プログラムで運用したいと考えています。</p> <p>このような運用方法を考えているため、プログラムの前後（入れ替え時）に、それぞれの参加者同士の交流が発生することを狙い、共に掃除や片付けや準備をする時間を設けることを考えます。</p> <p>物品の収納場所に関しては、別紙の図面を参照ください。なお、プログラムの運用に際して必要となる小物類（例：習字教室開催時での習字道具）については、講師または参加者持参を原則とします。</p>
②誰が何を担うのか、組織体制について教えてください。	<p>別紙④参照：組織図</p> <p>近隣在住の責任者 K(事業統括)を中心とし、組織全体の企画運営をしていきます。</p>

	<p>また、「カフェ」「なんでも相談」「シニア世代」「パパママ世代」「こども世代」など、部門に分けて、それぞれにリーダーを設置し、部門内の統括をしていただくかたちで組織を運営していきます。</p> <p>「カフェ」については、近隣のお料理上手な方を中心に、「なんでも相談」については、助産院の助産師を中心に、「シニア世代」については、数件隣の元婦人会の方を中心に、「パパママ世代」「こども世代」については、それぞれ、子育て広場たんぽぽのメンバーに中心を担ってもらいたいと考えています。各部門のリーダーを中心に、新規プログラムの企画や運営と振り返りや地域住民のニーズの抽出を繰り返し、各部門の活動を盛り上げていきたいと考えています。</p> <p>また、プログラムの企画運営などの中心メンバーに属さなくとも、気軽に顔を出すなど、町内会館への伝達、打ち合わせの参加等々「地域の応援隊」といった、個々に合ったかたちで参加を促すことも地域の新たな繋がりを生みだし、また強化してゆくことができると期待しています。</p>
<p>③開設後の大まかな収支計画を教えてください。</p>	<p>別紙⑤：収支計画</p> <p>ランチ・カフェを収益の主軸と考えています。金額は検討を重ねる必要がありますが、1000円/食で販売をする場合、多くて15名/日の集客を見込み、収入15000円。うち、50%を人件費とする。材料費は約350円とし、残りで光熱費の支払いをする。という大まかな収支計画を立てています。一食あたりの値段は検討段階ではあるものの、地域住民を招いた試食会にて提供した食事のボリュームや内容を踏まえ、アンケート調査を実施し、1000円/食は妥当かと考え、設定いたしました。</p>

	<p>プログラム運用による場所貸での収益については、複数の貸メニューを用意したいと考えています。一つ目は、月額で場所使用料を固定費とする案。二つ目は、単発で一枠を利用いただく案。三つ目は、一回のプログラム費用のうち 10%をお支払いいただく案。このように、利用者の方にとっても利用しやすく、また、選択権のある利用方法を設けることで、場所を提供する側にとっても、利用する方にとっても、気持ちよくこの場を活用していく方法を検討したいです。</p> <p>さらに、クッキーなどの委託販売(レンタルボックス)も考えています。</p>
<p>(飯尾委員)</p>	
<p>①多世代の交流⇨参加⇨支え合いへの流れへの工夫点が有れば知りたいです。</p>	<p>この地域には、それぞれの世代でコミュニティが既に形成されています。新しくコミュニティを創るのではなく、既存のコミュニティ同士が繋がっていく場所となることを期待しております。朝比奈委員のご質問①での回答にあるように、プログラムの運用にあたり、プログラム前後で掃除などを協働することで、それぞれの参加者が自然と関わり合うキッカケを作ります。プログラムそのものは、同世代の参加者が集まる可能性が高いとは思いますが、プログラムの前後での関わり合いは、世代の垣根を超える繋がりを生むと考えます。足を運んだ方みなさんが「気持ちいい場所だね」と話していた縁側は、そのような関わり合いが生まれる中心地となると期待しています。</p> <p>また、プログラムの内容によっては、講師の方と参加者とが自然と繋がりを得られることもあると思います。例えばそろばん教室や昔遊び体験では、町内会の高齢の方に講師をしていただき、学校帰りのお子</p>

	<p>さんが参加者となるなど。</p> <p>そのような多世代での交流⇒参加が発生するなかで、例えば新規プログラムとして、各世代が抱えている事柄を共有する時間と場所を設け、多世代での意見交換をするといった工夫ができると、支え合いへの流れが生まれると期待しています。</p>
(植松委員)	
<p>①提案の当初は、古民家の風合いを出来るだけ生かすために傷みの少ない座敷部分の畳などは残す、とのことでしたが、それをフローリングにする、と切り替えた理由を教えてください。</p>	<p>衛生面と安全面を考慮した結果、フローリングにすると切り替えました。多くの方にお越しいただく場所にしたいと考えたときに、清潔感があり、清掃がしやすい床材など、衛生面に配慮した設えが重要と考えます。また、ご高齢の方にもお越しいただきたく、足元の段差は高いものより案外、目に留まらない低い段差の方が躓きやすいものということもあり、安全面を考慮しました。</p> <p>ただし、古民家の風合いを感じられる縁側や床の空間は出来る限り残していくことで、落ち着く空間づくりを心掛けていきたいと考えています。</p>
<p>②助産院さんが主導していらっしゃるの で、専門性が高く、完成の暁には地域の人々が安心して利用できる施設になるものと思われま。一方で、専門的な活動拠点、という色合いが濃いように思われますが、地域と共に作り上げる工夫はありますか。</p>	<p>専門的な活動拠点(助産の提供場所)は助産院にあり、助産活動は助産院でこれまで通り実施します。</p> <p>笑楽幸プロジェクトでは、助産師も携わりますが、いち地域住民として企画運営に参加したいと考えています。そのなかで時に専門性を発揮できる場や機会があれば、もちろん専門性を発揮したいと思いま。</p> <p>地域の方々と共に創り上げる工夫としては、既にワークショップの実施をしたり地域住民を招いた試食会や餅つきの実施をし、地域の方にも提案時点から関わっていただいております。</p> <p>さらには、町内会へのプロジェクト内容の案内や会長を含めた方々とのワークシ</p>

	<p>ヨップを実施し、地域の課題やニーズを把握してきました。</p> <p>他にも、社協の協力を得て、笑楽幸プロジェクトについて広報誌に掲載し、六浦地区への全戸配布もしました。実際にワークショップや試食会や餅つきにお越しいただいていない方にも、お知らせができていますかと思えます。</p> <p>実際に稼働し始めたときには、これまで実施してきた町内会との連携や、地域住民のニーズの抽出（ヒアリングやアンケート調査）を継続して実施します。</p> <p>朝比奈委員のご質問②での回答の通り、中心メンバーに地域の方も入っていただくため、一緒に企画会議などを行い、地域のニーズに合ったプログラムなどを提供していけると考えています。</p> <p>また、地域住民個々のニーズに合ったかたちでプロジェクトに携われるよう工夫していきたいと思えます。プロジェクトに積極的に関わりたい方や、プロジェクトを応援している、あるいは、見守りをしたい方など、関わり方の幅をもたせたいと考えています。</p>
<p>③学生ボランティアによる学習支援なども企画されているようですが、学生は2年ほどしか継続できない（卒論や就活のため）ので、それを継続的に確保する仕組みづくりの見通しはあるでしょうか。</p>	<p>横浜市大の先生方と連携し、先生方のゼミ生に学習支援をお願い致します。ゼミ生は、毎年卒業しますが、入学もしますので、継続的に確保する見通しはあります。</p>
<p>④地形的に坂の上の住宅街の一角で、高齢者や身重の方、ベビーカーを押している人々にはなかなか足を向けにくい立地であるように思われますが、その課題を解消する手立てはあるでしょうか。</p>	<p>この土地に助産院を開業して既に29年になります。地形の懸念点はある一方で、遠方より妊婦さんや子連れの方に多くお越しいただいています。そのような経験から、ニーズがあれば、そこに人は集うと確信しています。</p> <p>地形の課題については、町内会とのワークショップの際にも六浦地区の課題とし</p>

	<p>て挙げられ、町内会が坂の下にある六浦地区ですが、この多世代交流拠点が坂の上のサテライト的な場所としてなれば良いとの議論もなされました。このように今ある施設と役割分担をしながら、坂の上で暮らす方々にとっての場を作っていけたらと考えています。</p> <p>ご指摘の通り、地形の懸念点がありますが、そのような場所でも「行ってみたい」「また来よう」と思っただけのような場所にします。</p>
(加藤委員)	
<p>①ニーズとして出てきた、外国籍の方、独居の住民とのつながりは、どのように設ける予定ですか。</p>	<p>外国籍の方のニーズについては、助産院の近隣にお住まいの方が外国ご出身の方で、外国籍の方々に形成されている既存のコミュニティがあるとお聞きしています。まずは、その方々が集える場所として、この場所を利用していただき、そこから繋がりを広げていきます。ワークショップで上がったアイデアの一つとして、多文化料理教室というアイデアがありましたので、そのようなプログラムを通してさらなる縁を紡いでゆけたらと考えています。</p> <p>独居の住民の多くは高齢者です。既に繋がりのある民生委員の方に声を掛けることで、町内会単位で繋がりを得ていくことができると考えています。</p>
(川原委員)	
<p>① 地権者の方は直接運営に関わらず、運営メンバーは助産院およびその元にある既存事業チームであると読み取れます。提供していきたいサービスの内容や対象者を鑑みると、地域の社協や自治会他、地域のボランティア団体などにも共感される内容であると感じます。そうした団体がサポートメンバーになれそうですが、連携に向けた議論</p>	<p>積極的に連携を組んでいきたいと考えています。</p> <p>町内会との連携については、プロジェクトの説明会やワークショップ開催をしてみました。</p> <p>社協との連携については、笑楽幸プロジェクトについて広報誌に掲載して、六浦エリアの全戸配布をしました。</p> <p>それぞれ、「協力したい」「楽しみにして</p>

はされているでしょうか。現時点で積極的に連携を組まない、組めない理由がありましたら教えてください。

いる」との話をいただいておりますので、実際に事業がスタートしてからも広報や時にはプログラムの実施等で連携していきたいと考えています。

植松委員のご質問③と重なりますが、横浜市大の学生との連携が確立しています。既にワークショップで、ファシリテーターを担ってもらうなど、積極的に関わってくださっています。

ボランティア団体との連携については、金沢八景ロータリークラブとの連携があります。そのほかの団体とも今後ぜひ連携を組んでいきたいと考えていますので、事業開始にあたり、社協との連携のなかでボランティアセンターを活用していきたいと思っております。

②まち普請で整備、実施していこうとしている活動の中心メンバーが助産院なので、助産院本体事業とどのように事業・運営費を切り分けるのか否か、どこまでがボランティアな活動で、どこまでが助産院の事業として、どこまでが今回立ち上げる運営事業なのかを明確にしたいです。

可能なら、現在の助産院における活動のどの部分はボランティアな活動なのか、まち普請で整備する事業ではその延長で行われるものがあるのかもご教示ください。

まず助産院本体事業(収益に関わる医療的事業)は、助産師が助産院で実施します。

笑楽幸プロジェクトでは、助産院メンバーが活動に携わるものの、助産院事業とは別です。そのため、活動資金は助産院とは別にします。

また、助産院で既に実施している子育て支援事業のほとんどがボランティア活動です。(収益に関わらない事業) 例えば、育児サークルやママサークルの支援、活動場所の無償提供、「ママたちの文化祭」などのイベント開催、電話や対面での育児相談などです。まち普請で整備する事業のうち、助産院で実施してきた子育て支援事業が一部その活動の延長になる可能性はありますが、今後は更に地域の方々と協働して活動を拡大していきたいと考えています。助産院で実施している「たんぽぽ」では、主に二歳までのお子さんとその親を対象としておりますが、それ以降の子育て世代や学童など、またシニア世代を対象にし

<p>③「母子訪問ステーション」「たんぽぽ」が、すでに組織化された地域の人たちで構成されたチームなのではないでしょうか。この組織について、その成り立ちやこれまでの取り組み、そこからの気づきと今回の提案との関連性について知りたいです。</p>	<p>た活動をしていきたいと考えています。</p> <p>「母子訪問ステーション」は医療施設としての取り組みで、助産師と看護師で構成された医療体制です。地域の母子を支援したい助産師と看護師が集まり、訪問看護の制度のもとに活動しています。分娩施設を退院した母子が、暮らしを営むなかで看護が必要な方が地域には多数いて、専門職としてその方々のニーズを捉えてきました。</p> <p>「たんぽぽ」は、横浜市の子育て支援広場事業として立ち上げ、活動が広がっており地域の方々に構成された組織です。</p> <p>助産院や訪問看護ステーションという医療提供のなかから、利用者ニーズを捉え、「たんぽぽ」や「双子の会」などのボランティア活動に繋がりました。</p> <p>様々な取り組みを行ってきましたが、「たんぽぽ」では、その対象が二歳までのお子さんとその親に限られています。活動を行っていくなかで、就学以降の親子までを対象とできないもどかしさや、実際に耳にする、親子が抱えているニーズがあるという気づきを得て、今回の提案に至っています。また「訪問看護ステーション」では、その対象は母子であり、かつ医療(看護)を必要とする方々です。医療は人が生きるうえで必要な一要素であることは間違いありませんが、暮らしのなかに「笑って」「楽しく」「幸せ」なひと時を作り出すことを医療だけで成し遂げることはできないと限界を感じる場合があります。加えて、訪問看護の対象である、医療(看護)を必要とする母子でなくとも、すべての母子が「笑って」「楽しく」「幸せ」なひと時を必要としています。このような気づきもまた、今回の提案に至った背景にあります。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(杉崎委員)	
① 助産院と大学関係者以外で整備後の活動に参加する予定の人はいますか。	<p>町内会やママグループなど、参加予定の方がいます。ワークショップを通して、参加者ご自身(地域の方)からプログラムの提案が多数ありました。そのような方々の参加が期待できます。</p> <p>朝比奈委員のご質問②での回答の通り、各部門で担当責任者を設置し、近隣の地域の方々も入っていただく予定です。</p>
(後藤委員)	
① ランチカフェはどのような内容を想定していらっしゃいますか？	<p>定食で、栄養バランス良く、またご家庭でも再現できるような、お食事にしたいです。助産院で行った試食会ではボリュームや金額等についてアンケートを実施して、好評いただきました。アンケート結果を踏まえ、定食一食の値段は1000円程度を考えています。</p>
② 庭の活用についてはどのように考えていらっしゃいますか？	<p>庭の活用は、所有者のご意向を第一にしています。活用は致しません。縁側までは利用させていただき、美しく広がる空と庭を眺め、お茶をするなど、考えております。</p>
(松村委員)	
① 拠点運営していく際に、運営委員会のような組織をつくる予定でしょうか。そのような委員会に参加してくれる人は、提案グループのメンバー以外にいらっしゃいますか。	<p>朝比奈委員のご質問②への回答と同じです。</p>
② この拠点では、「主」となるような人がいる予定でしょうか。いるとしたら、どのような人が想定されていますか。	<p>近隣在住の責任者K(事業統括)です。中学校の保健体育の教員をしてきた経験があります。</p> <p>また各世代の窓口として、世代ごとに部門に分け担当リーダーを置く予定です。</p>
③ 助産院の社会貢献活動という側面が強いのでしょうか。それとも、今後はできるだけ多くの地域住民の参加を募り、助産院は多様なアクターの1つへと役割を小さくしていくのが理想なのでしょうか。	<p>これまでも山本助産院では、29年の歳月をかけて地域に根差してきた場所です。助産院に集う親子のニーズを捉えて、様々な活動に繋げてきました。具体的には、地域住民を対象とした「元気講座」や「ランチ</p>

<p>ようか。</p>	<p>会」や「餅つき」などを通して、助産院にお越しいただき、六浦地区で暮らす人々のニーズを捉えてきました。そのなかで、笑楽幸プロジェクトが目指すかたちを切望されているということを知りました。そのようなニーズを具現化する場所を作りたいと考えています。</p> <p>地域の方々の参加を増やしていきながらも、このプロジェクトが持続的なものとして地域で育っていくよう、継続的に山本助産院が運営を支えていきたいと考えています。</p>
<p>④ 拠点の運営に関してですが、家賃はどの程度かかりますか。サービス B 事業をおこなうような予定はありますか。</p>	<p>拠点の運営に関しては、持ち主からの家賃無償提供です。</p> <p>サービス B 事業については、今現在は予定しておりませんが、将来的には活用することも積極的に考えたいと思います。</p>

別紙①【イメージ図】



別紙③【活動スケジュール案】

別 紙

	月	火	水	木	金	休日
午前 9:00～10:30	週替わり 親子教室					週替わり イベント
入替え時間 10:30～11:00		ランチ・カフェ営業				
ランチタイム 11:00～14:00						
入替え時間 14:00～14:30	週替わり 教室	撮影& 写真講座 【Sさん、Nさん】	まちたんけん 他 【大学】	ITサポート 【Sさん】	不登校児支援	マルシェ フリーマーケ ットなど
午後 14:30～16:00						
入替え時間 16:00～16:30		小学生遊び場 【大学生、 地域の方】	リコーダー 教室 【0さん他】	学習支援 【たんぽぽ】	小学生向け 工作教室 【0さん他】	
夕方 16:30～18:00						

持ち寄り企画 : 地域住民の方による企画。スペース利用料を支払い利用できる。利用者からの参加料の徴収等は、実施者に自由に設定いただく。

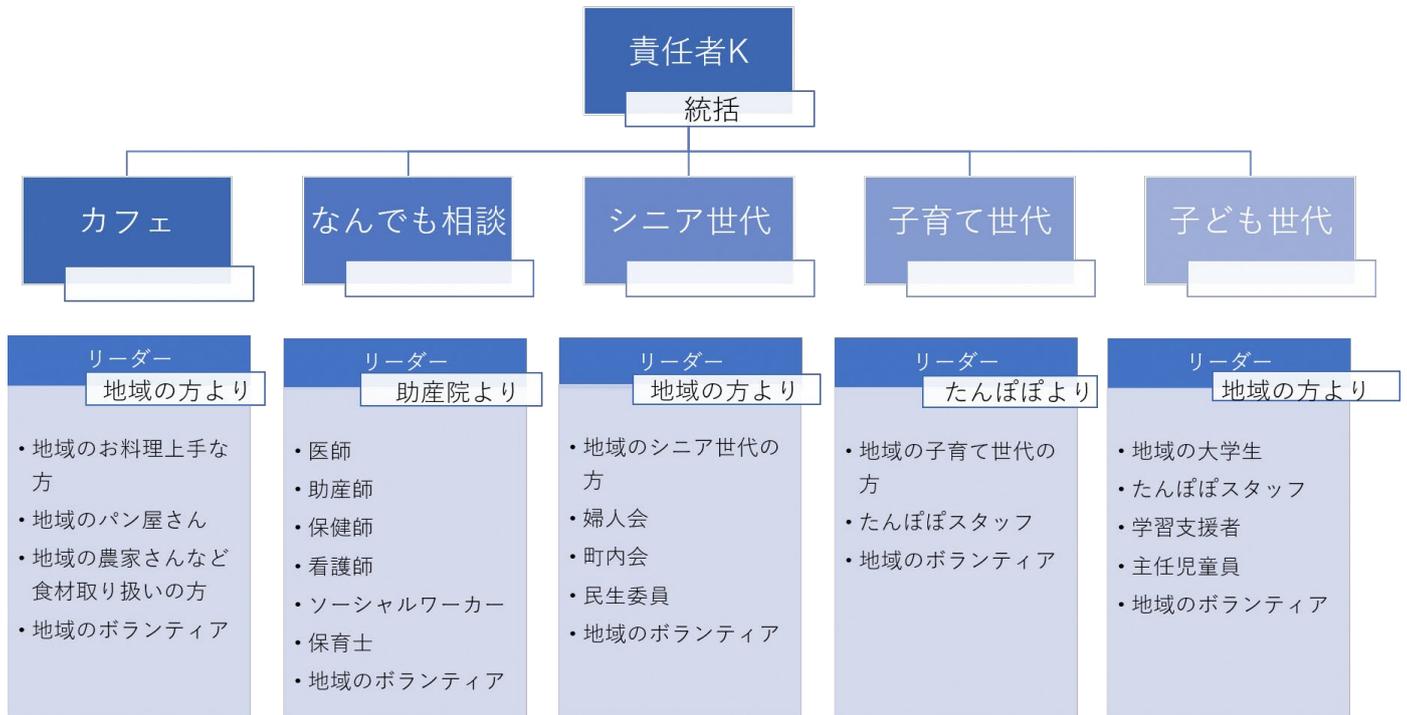
自主企画（固定） : 運営メンバーによる企画。基本的に毎週同じ時間帯で実施されるプログラム。

自主企画（単発） : 運営メンバーによる企画。月1・2回程度、主に休日にイベントプログラムを実施。

入替え時間 : 入れ替え時間として、前後の利用者が重なって利用できるバッファの時間帯。片付けや清掃、次の枠の準備を行うとともに、利用者同士の情報交換の時間帯として自由に利用いただく。

別紙④【組織図】

二次提案書の「維持管理・運営計画及びその実施方法」にあたる組織図です。



各部門で、広報周知、プログラムの企画運営、ヒアリングやアンケート調査を実施する。

各部門のリーダーが取りまとめをするが、プロジェクトメンバーもそのサポートをする。

【収入】

項目	内容	月			年間	備考
		単価	数量	金額	金額	
1) 自主事業	ランチ・カフェ	¥ 1,000	200	¥ 200,000	¥ 2,400,000	・1日15食用意、営業は平日のみ ・平均して10食が出るイメージ
	イベント	¥ 20,000	2	¥ 40,000	¥ 480,000	・マルシェやバザー
2) 場所貸し	月利用	¥ 8,000	7	¥ 56,000	¥ 672,000	
	単発利用	¥ 2,500	2	¥ 5,000	¥ 60,000	
	売上率	¥ 500	10	¥ 5,000	¥ 60,000	・売上の10%を支払いいただく
3) 助成金等	金沢区空き家等を活用した地域の「茶の間」支援事業補助金			¥ 41,667	¥ 500,000	・3年目まで申請することを想定
				¥ 347,667	¥ 4,172,000	

【支出】

項目	内容	月			年間	備考
		単価	数量	金額	金額	
1) 自主事業	ランチ材料費	¥ 350	300	¥ 105,000	¥ 1,260,000	・1日15食用意、営業は平日のみ
	ランチ営業スタッフ人件費	¥ 4,000	40	¥ 160,000	¥ 1,920,000	・スタッフは1日2人(40人/月)
2) 運営費	光熱費	¥ 40,000	1	¥ 40,000	¥ 480,000	
	雑費	¥ 20,000	1	¥ 20,000	¥ 240,000	・チラシ印刷など
				¥ 325,000	¥ 3,900,000	

※場所貸しについて

場所貸しは、プログラム内容によって複数パターン用意し、利用者がニーズにより選択できることで利用のハードルを下げていくとともに、安定的な収入が得られるようにしていく。

①固定払い：

- ・毎週、決まった時間帯にプログラムを実施していただく方向け。
- ・プログラムの参加費等は、実施者に自由に設定いただく。
- ・月額8,000円程度を想定
- ・その他、お試し利用のための単発利用も検討。

②売上率払い：

- ・クッキーやハンドメイド商品等を多世代交流拠点の一部で販売する方向け(レンタルボックス)。
- ・利用料は、売上の10%を想定。

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

注1)2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。

注2)2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3)添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1~3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	弥生台市有地活用建物における地域貢献施設活用委員会
整備場所(町名 又は丁目まで記入)	横浜市泉区弥生台
提案名(25字以内)	地域キッチンを「食学話」で子どもから世代間交流
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容*1を工夫した点*2にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	相鉄弥生台駅北口自転車駐輪場跡地に建設予定の6階建て賃貸マンションの1階(109.91㎡)部分に孤食を防ぐ地域キッチンを整備します。 〈整備する施設〉 ・オープンキッチン・厨房設備(ガスコンロ・シンク2か所・業務用冷凍冷蔵庫・換気扇・製氷機・食洗器・ガスオープン・コールドテーブル(フラットなテーブル)・食器棚・吊戸棚・給湯器・腰壁等) 〈整備内容を工夫した点〉 ① 話すきっかけは、みんなで作って食べること。オープンキッチンを空間の中央に置いた。 ② カフェ、交流スペースに食事提供ができると同時に料理教室(親と子どもやシニア等)を開くことができるレイアウトにする。 ③ フラットな天板を広く工夫したオープンキッチンによって、規格外の野菜など食品ロスを防ぐための取り組みとして、地元農家、里山夢プロジェクト(畑を囲んだ多世代の会)・創業100年を超える豆腐屋・地元スーパーと提携し、季節感を味わえる食材を使った郷土料理をみんなで作り食べることができる。今後たくさんの食材を提供してもらえる可能性があるため、業務用冷凍冷蔵庫で設置する。 ④ 孤食を防ぐ一助としてオープンキッチンで地域の方が参加し、会話をしながらその場で温かい食事を食べられるようにする。たとえば「今日は、タケノコ料理の日」などのテーマを設けて会話のきっかけづくりを行う。ひとりで来てもオープンなので話しやすい空間になる。 ⑤ シンクを両面に配置し、食事後子ども達がシンクを使って踏み台等を使用して食器等の後片付けをして食の大切さや生活習慣を学べる。
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) ※第1次提案書より具体的に記入してください	キッチンでの活動を通して、シニアや親世代・子ども達の会話が広がり、人と人がつながりを大切に、毎日が楽しく送れるようになる。 【食】 地域食堂・ファミリー食堂・子ども食堂・シニア教室への食事提供等のなかで、食べるだけでなく、今日の食材や栄養素等のテーマで会話が生まれる。 【学】 地元農家、里山夢プロジェクトと連携した食育を行う。農家の方に来ていただき、多世代の方が学ぶ。子ども学習塾・シニア大学・シニア塾・ママパパ塾(料理合)を開催し、シニアの方と子ども達、互いに学びあう。子どもたちには、ポイントカードを導入し片付けなどのお手伝いでポイント貯め、ここで好きなものと交換ができる。 【話】 話すきっかけはみんなで食べること。作ること育てることあらゆる方向からみんなで話すことで会話が生まれ話すきっかけとなる空間を作る。車座になって話し合うことで個々が豊かな生活を送れる。
提案の背景	【地域のニーズ】

<p>(なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>どの世代からも第三の居場所が欲しいとの声があった。 【地域の魅力】 緑地が多く家庭菜園や農家と連携して規格外など食品ロスの野菜を使用した食のイベントを、継続的に実施できる。駅近でアクセスがよく、子育てママや高齢者も利用しやすい立地。 【この地域の子どもの放課後の背景】 この地域は3つの小学校にまたがり1,500人ぐらいの小学生がいる中で、小学校のキッズクラブ登録人数は約500人だが、利用者数は5%未満である。学童保育やキッズクラブ、学習塾、地域クラブに属さない子どもたちの居場所が求められている。 【人の力】 子育て世代ママが子ども達の孤食に関心を持ち、ファミリー食堂を新規事業として立ち上げた。地域活動の楽しさや喜びを発見体験し、子ども達だけでなく、高齢者やヤングケアラー等にも関心を寄せ地域の課題解決に向けて活動する住民が多い。 また、多くのシニアの方が子どもの環境に関心を寄せており、自分の特技を披露することや参加することで地域に役立ちたいとの思いを強く思っている。 【社会的背景】 ・全国で7人に1人がヤングケアラーである。 ・泉区では学校に行かないと選択した子どもが小中高で300人いる。 ・国勢調査では、ひとり親世帯が約10%であり、子育ての負担の大きい世帯が多い。</p>
<p>整備プロセス(スケジュール、つくる時に連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>設計・施工段階で地域住民の参加 (設計:2023年5月初~8月末、施工:2023年12月初~2024年2月末頃) →デザインを考える段階から、子どもや親御さん、地域の方等が参加をしている。具体的には、オープンキッチンの腰壁の木ピース貼や、一部の壁の塗装、家具づくりなど地域の工務店さんの協力が得られている。 →店のネーミング募集等や、建設後の運営も、地域住民の参加で進める予定。 →地元企業の相鉄にも、建設費高騰の折ではあるが、床壁天井仕上・WC・空調・照明の負担や、家賃も通常の6割等、様々な協力を得ている。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>【運営の体制の工夫】 ・一人がマネージャーとして全体の業務運営にあたる。他 1名シフトローテーション。 ・ランチ・カフェ・教室・イベント・こども食堂・ファミリー食堂・不登校の会などの企画担当者が主体的に、マネジメントしてボランティアさんと共に活動する。 ・現在30名のボランティアが参加しており、さらに企画ごとに集めていく。 ・月に一度全体の会議を行ない活動状況や運営、イベント等の企画を話し合う。 ・60歳以上のシニア世代は 地域に役割をもって主体的に活動したい方が多くおり、その方達の力を借り、毎日の食事提供やカフェの活動、こどもの居場所や学習応援、にあたる。 【事業計画の工夫】 ・サービスB事業を行い、家賃と光熱費の一部を捻出する。 ・こども・ファミリー食堂を開催することでふれあい助成金を申請しボランティア資金にあてる。 ・クラウドファンディングやバザー等で資金を獲得する。 【食材確保の工夫】 ・規格外や、余った食材を農家から提供してもらう。 ・県の子ども未来助成金を申請し食材費にあてる。 【集客の工夫】 ・地域の方のための移動手段としてタクシー会社と連携しバス代金ほどで送迎をもらえる「相乗り」の仕組みを作る。 ・地域の方達が来なくなる仕組み(ポイントカード等)を作ることで継続的な集客・収益につなげる。 ・多彩な教室(料理・デジタル・学習応援等)を開くことで多世代に魅力的な時間を提供する。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料(任</p>	<p>元気な地域を目指して ・月一回定例会(話し合い)とコア会議を月2~3回行い二次コンテストにむけて活動を話し合った。 ・食べること、学ぶこと(死ぬまで学ぶ)、話すことなど活動の方向性が見えてきた。</p>
------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>意様式)に記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリを使いメンバー間でデータや資料アンケート等1000以上のやりとりを実施しデザインやレイアウト等議論している。 ・新施設開設のためにシニアと子育て世代の親子の多世代交流会を企画し開催し新たなメンバーを募った。 ・地域の方に活動を理解していただくためにプレートを作り、自宅の門に貼り、仲間を集めた。 ・子ども・親の参加を呼び込む企画として、プレイパークの協力を受け大きな遊具を設置するイベント企画と同時に幅広くニーズを得るためのアンケート実施する予定。PRチラシは、中川地区社協さんの協力により学校から各家庭に配布することになった。 ・小学校の総合学習と連携した応援を継続的にできるよう働きかける。 <p>〈ヒヤリングやアンケート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども・ファミリー食堂・公園遊びで孤食と居場所の期待に関するアンケート調査を実施した。 ・地域の工務店さんのサポートを得ることができ、さまざまな協力を得ている ・近隣保育園・幼稚園・小学校周知を行う。そこで自分たちの活動を知ってもらい、どんな風に関わり参加してもらえるかについて聞き取りを行う予定。
<p>関係者の合意・調整状況 (地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください)</p>	<p>〈中川地区・新橋地区・和泉北部地区の連合-地区社協の定例会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中川地区のお祭りにPRできるブースをいただき多くの方にお知らせすることができた。 その結果、活動メンバーが増え、里山夢プロジェクトと連携してキッチンスペースを使ったイベントを行えるようになった。また、近隣の小学校3校にチラシの配布が可能になった。 ・新橋地区のお祭りで模造紙を張り説明理解を深めたことにより活動メンバーが増えた。活動仲間が今年から主任児童委員になったことにより、地域と連携して運営していくことができる。 <p>〈建築主〉</p> <p>2024年2月に竣工予定であるが、私たちの空間を同時並行で工事ができることになっている相場より家賃を6割まで安くしていただき、私たちの希望を取り入れ、トイレ・洗面所の配置・窓の大きさの変更に同意し、協力をしてくれた。(公園、広場の隣に位置しているので、入り口近くにトイレを設置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来、商業施設はスケルトン貸しであるが、トイレ・床・壁・天井工事・空調設備を整備してくれるとともに壁や床の色・素材を調整していただけることになった。 エレベーターを高齢者や乳幼児の親子のために、設置することになった。 <p>〈地元企業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に貢献している地元工務店さんの協力を得て、私たちの細かいニーズに対応し、私達の集まりに参加し思いを汲んで協力してくれている。 フラットなテーブルの天板等の材料を提供し、地域の人と一緒に作れるように工夫してくれている。
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・孤食を防ぐ居場所に必要な要素である『人とのかかわり』や『人の温かさ』を強力に推し進めるために私たちには心強いメンバーがいます。 ・メンバーは保育士6人、介護予防運動指導士4人、教員5人、学校給食関係4人、高齢者施設調理員2人、看護師、保健師、社会福祉士、主任児童委員がおり、セーフティーネットに対応し行政と連携発展する基盤がある
<p>目指す地域の将来像 (施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください)</p>	<p>地域キッチンから～人となかかわりを通してお互いさまの心を大切に育む元気ある元気な地域～になることができると確信を持っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの成長に伴いライフステージが変化していく中で、地域で切れ目のない応援のできるまちになる。そのことにより、子どもやその家族が孤立せずに安心して暮らせる地域となる。 ○妊娠中から、乳幼児、小中学生、高校生、子育て中の親御さん、シニアの世代の居場所。 ○地域の中で、自分の居場所を見つけ地域の方と共に地域課題にチャレンジしていく事から「助け合い支え合い育む」元気な大好きな街にする。 ○活動を通して次世代の担い手を育てていく。 ○仕事とボラ活動を発信していく講座(世代間なく)を作る。 ○課題を抱えている親子を支えられる地域になる。 <p>みんなが住みたくなくなるような未来の日本のリーダータウンを目指し、子どもを中心とした『食・学・話』が生まれるキッチンから地域のセーフティーネット網が充実したまちとなる。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

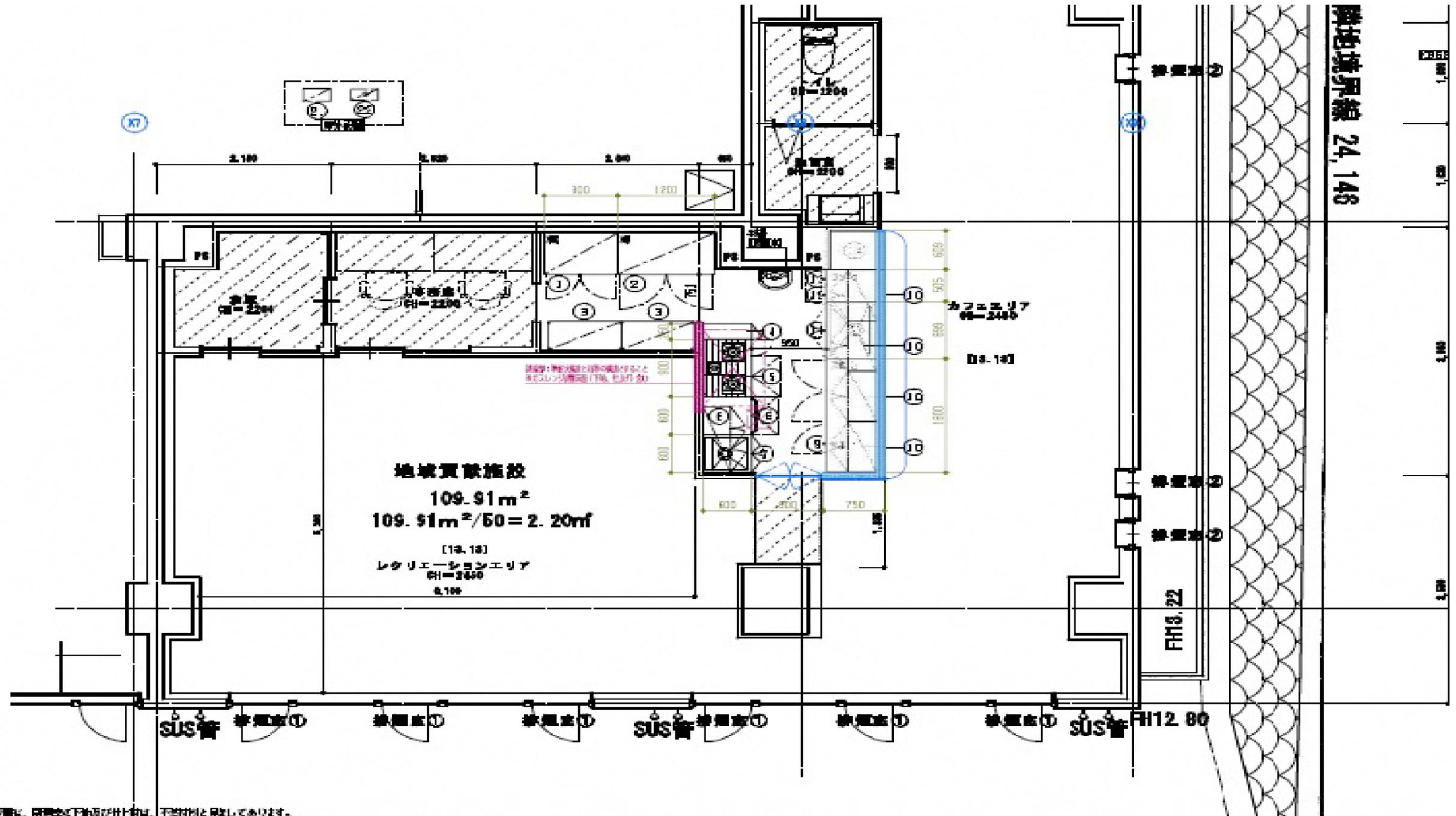
- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置図



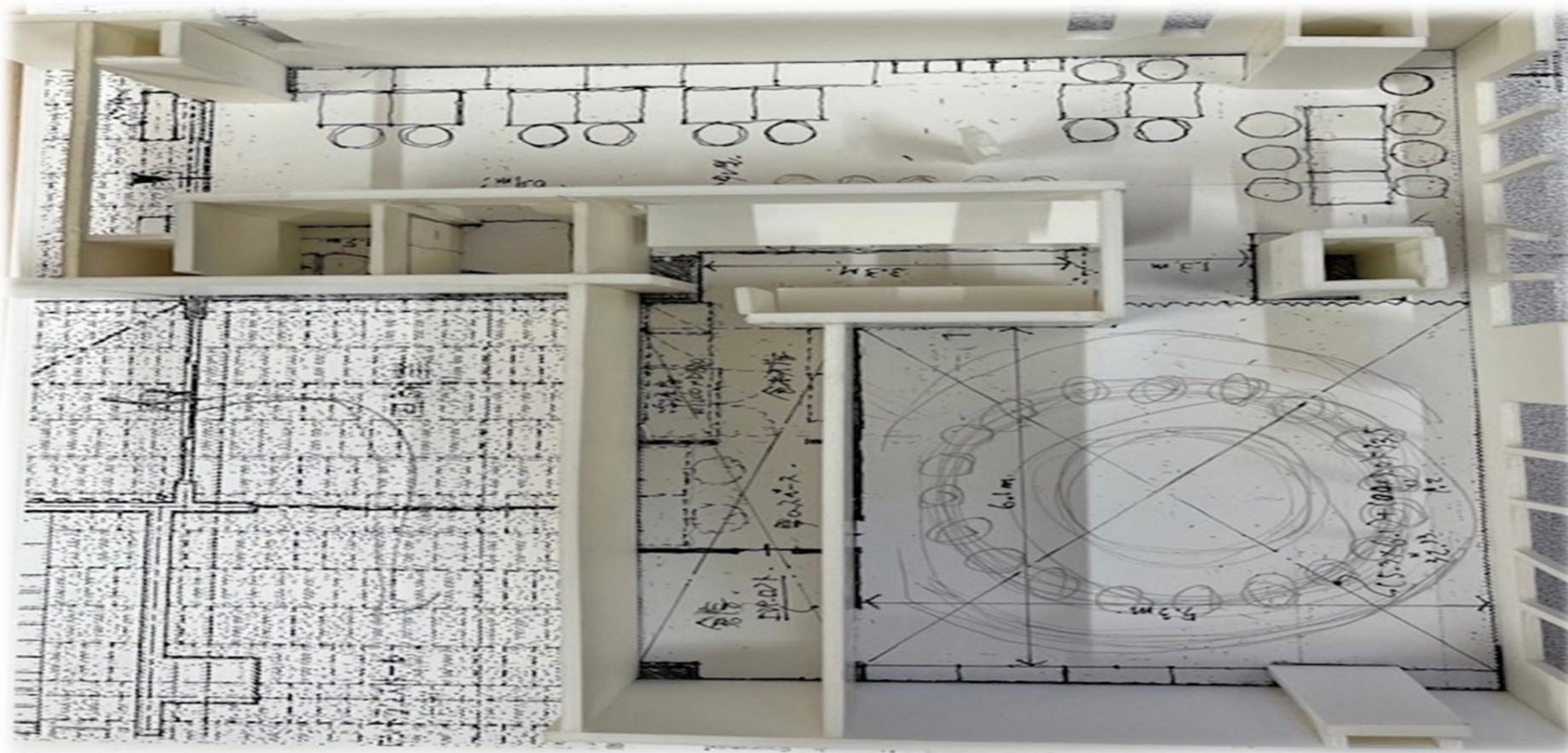
室内平面図

縮尺 1/50 (A3)



当図は設計図書。図面は下も図が仕上がり。不透明な見方があります。

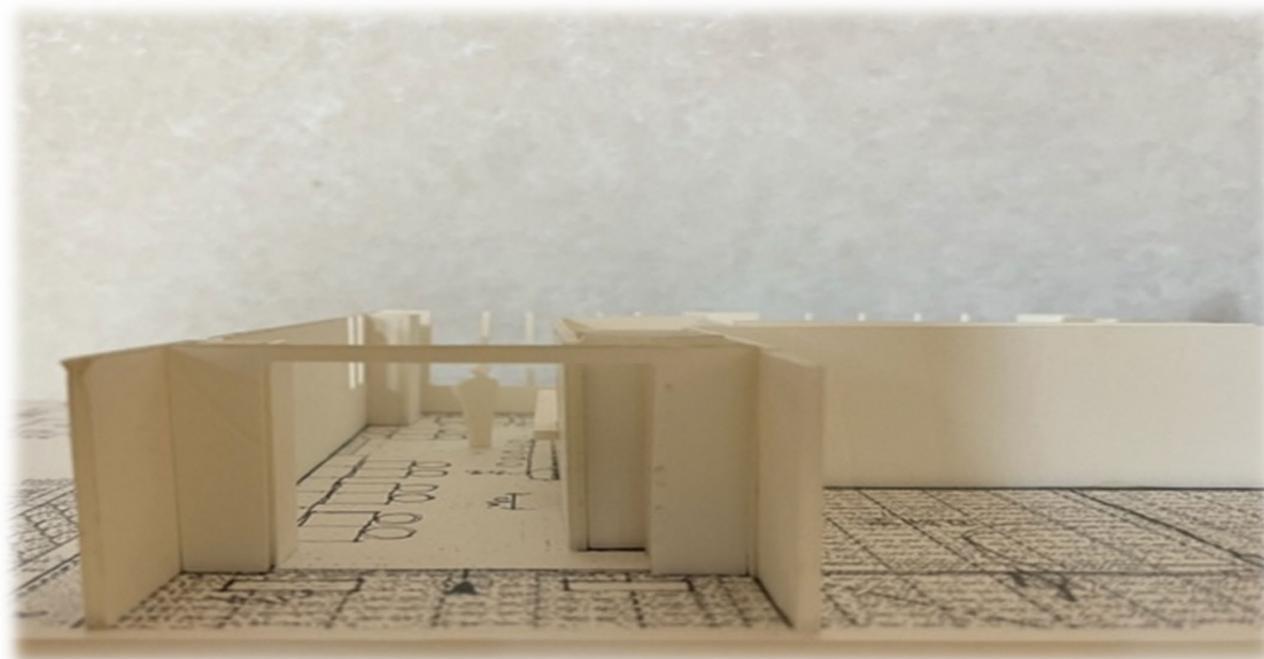
05 完成予想図

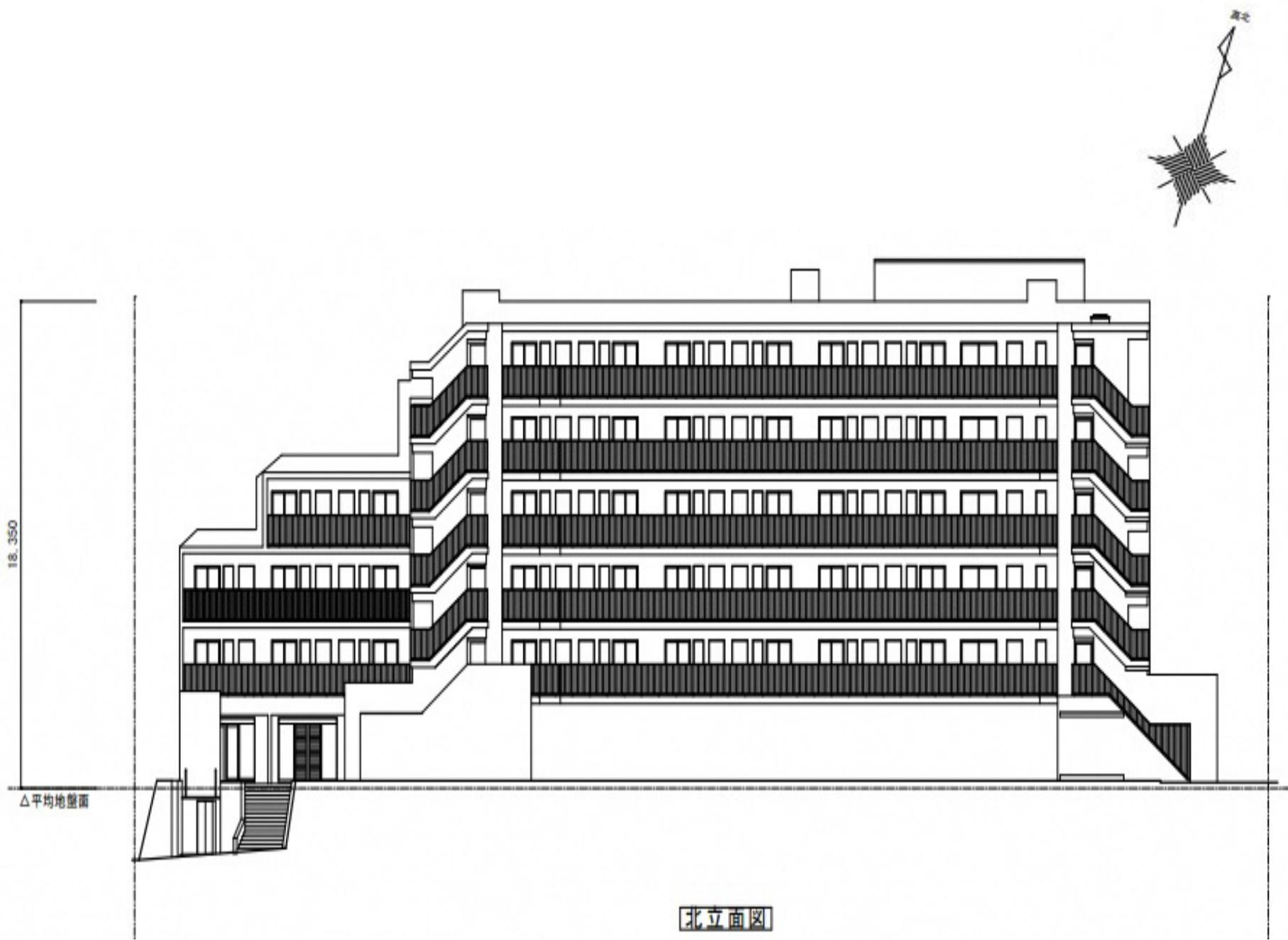


南側



入口付近





北立面图

ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
仮設工事		一式		350,000円	
軽鉄工事		一式		350,000円	
木工事	棚・腰かけ・踏み台	一式		200,000円	材料を安く手に入る予定。できるところはメンバーで作る。 15×3日=45人
仕上げ工事		一式		150,000円	キッチンの腰壁木貼り＋一部の壁塗装＋棚組み立て：15人×3日=45人日
設備工事	オープンキッチン、厨房設備（ガスコンロ、シンク、業務用冷凍冷蔵庫）、給湯設備等	1式		2,920,000円	
電気設備工事		一式		330,000円	
工事費計				4,300,000円	
設計料				200,000円	
小計				4,500,000円	
消費税				500,000円	
合 計				5,000,000円	

1次コンテスト以降の活動

7月	9日	■ 1次通過
	21日	■ タウンニュース掲載される
		■ ボランティアさん来所
	23日	■ ファミリー食堂開催来所者の告知
8月	26日	■ まち普請現地見学会 参加
		■ 模造紙作成 (まち普請1次通過)
	27日	■ ファミリー食堂開催参加
9月	10日	■ ファミリー食堂開催
		■ 活動メンバー話し合い
	18日	■ まち普請活動懇談会 参加
	24日	■ ファミリー食堂開催 来所者にヒヤリング (どんな居場所が欲しいか)
10月	1日	■ ふれあい交流会開催 (高齢者と親子とゲーム 手作りクッキーをプレゼント) ヒヤリング (ボランティア参加などのお願い)
		■ ファミリー食堂開催 来所者にヒヤリング (どんな居場所が欲しいか)
	8日	■ 活動メンバー話し合い ■ まちづくり課の方と話し合い ■ マップ作成話し合い
		■ 公園遊び開催に受け横浜プレイパークさんとの現地視察立ち合い打ち合わせ
		■ 子ども食堂において (視察会向けにマップ作成)
	13日	■ 工務店さんとの顔合わせ話しあい
	15日	公園遊び開催に向けて横浜プレイパークさんと打ち合わせ マップ作成話し合い
		■ サービス B 事業説明会参加
	17日	■ 工務店さん顔合わせ
	18日	■ 子ども食堂 マップ作成
	19日	■ 自治会向けチラシ作り・メンバーカード作成
	21日	■ 中川地区連合定例会に説明に参加する
	22日	■ ファミリー食堂開催 マップ作成
	28日	■ 新橋地区社協定例会に説明に参加する ■ 新橋連合定例会に説明に参加する
		■ 和泉北部連合定例会説明に参加する
	29日	■ まち普請現地視察会
11月	1日	■ 公園遊びの件 土木事務所打ち合わせ
	2日	■ 中川地区社協定例会に説明参加する
	6日	■ 中川ふれあい祭り ブース参加 メンバーに参加募る
	11日	■ メンバーとコーディネーターと話し合い (今後デザインレイアウト等)
	12日	■ ファミリー食堂開催 メンバー話し合い
	13日	■ 新橋アツテまつりブース似て参加メンバーに参加募る
	15日	■ 相鉄さんとの話し合い
	18日	■ クラウドファンディング勉強会
	22日	■ 2次提案書作成話し合い
	28日	■ 2次提案書作成話し合い
	30日	■ 2次提案書提出
1月	21日	■ Ycp 共催公園遊びアンケート及び居場所の周知予定

2次コンテスト事前質問集

【提案名（グループ名）】 地域キッチン「食学話」で子どもから世代間交流	
事前質問	回答欄
(朝比奈委員)	
①整備内容と整備した場所の使い方を具体的に示してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・平日に週5日は、地域のボランティアが30食のランチを提供します。 ・カフェはシニアの方と協力して毎日開きます。 ・日曜・祝祭日は地域開放日としてキッチンに携わるボランティアたちが30人参加の交流イベントのお手伝いをします。 ・子ども食堂開催時には、子ども参加型（配膳や食器洗い、掃除等）お手伝いができることを可能にします。 ・地元農家や食品会社からの寄付食品の鮮度等を保つために冷凍冷蔵庫は必須のものです。
②開設後の大まかな収支計画を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のランチ事業（ランチ700円）と介護予防生活支援サービス（サービスB）で（1500円）年間430万円を見込んでいます。 ・横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業補助金と泉区ふれあい助成金（集いの場：こども食堂）と寄付で、442万円を見込んでいます。 ・休館日と祭日、平日の空いている時間帯に地域住民に開放し、交流や貸し出しでの収入を見込んでいます。 ・マルシェ・野菜マルシェの貸し出しボックスの収入を見込んでます。 ・支出のメインは家賃光熱費、人件費、ボランティア活動費などで600万円を見込んで

	<p>でいます。 *別紙参照</p>
<p>③地域のマンパワーをいかすための組織体制について教えてください。役割分担や話し合いの場づくりなど組織をどのように運営していきますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案グループメンバーから責任者を置き、運営推進会議を月1回開催し、地域活性化に向けた取り組みと共に、運営等を話し合います。 ・組織として「学」「食」「話」の部門にボランティア主任を置き、学の部門（こども応援ボランティア等）食の部門（食事作りが好きで得意なボランティア等）話の部門（教室運営に携わるボランティア等）地域開放部門（教室開放や貸し出しに関わるボランティア等）の部門を作ります。 ・ボランティア主任が各部門のボランティアと週1回話し合いをして活動を継続していきます。 ・各部門の主任が月1回集まり運営推進会議に参加し、各部門の現状を報告しあいます。 ・年1回は全員で集まり活動報告会を開催します。 <p>これらの組織は、ボランティア同士の顔合わせと現状の確認や将来の方向性を確認し合うことが、より良い運営をするために大事と考えています。</p>
(飯尾委員)	
<p>①学童保育、キッズクラブに属さない理由はどのような事だと思われますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育所やキッズクラブは、親御さんが働いていないと利用することができません。 ・コロナ禍、人数制限をされているのでキッズを利用できない児童がいます。 ・キッズクラブや学童保育所には規則があるので子どもたちが自由に利用することができません。 ・子ども達が自由に利用できる場、親御さんが安心して利用できる場、自主的に自分の好きな遊びや学習ができる場を子ども

	<p>に関心を寄せてくださる方々と共に作り上げていきます。</p>
<p>(植松委員)</p>	
<p>①「この地域は3つの小学校に跨り1500人くらいの小学生がいる中で、小学校のキッズクラブ登録人数は500人だが、利用者数は5%未満である。学童保育やキッズクラブ、学習塾、地域クラブに属さない子ども達の居場所が求められている。」とある中で、この施設を立ち上げることでどの範囲の子ども達がどの程度の数、この施設を訪れると考えられるでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育やキッズクラブに属せない子ども達にアプローチする提案です。 ・弥生台駅の近くの新橋小学校の子どもたちが主に来ると思われます。隣接の公園や広場に来て遊ぶ児童（特に低学年）が、仲間と一緒に来ます。駅と学校に近いので50人以上の人数が利用すると考えています。 ・学校と主任児童員を通して地域にアプローチしていきます。
<p>②最終的には児童館（子どもの居場所、子ども食堂）とシングルマザー、ヤングケアラーのサポートを目指したシェルターとなるように思われますが、そうだとすると、地域の大人、シニア世代の継続的理解、協力をどのように取り込む見通しか教えて下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、この地域の大人やシニア世代からボランティアとして役立ちたいと名乗りを上げていただいています。今後は、そういった人たちが新たな仲間を募ると同時に、民生主任児童委員や新橋、中川地区社会福祉協議会と共催事業などを通して協力いただけるよう働きかけていきます。
<p>(加藤委員)</p>	
<p>①維持管理・運営に関して、助成金を多く予定していますが、もし助成金が取得できなかった場合はどのように運営を組み立てますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案グループメンバーの人件費を見直し、ボランティア謝礼の削減をして活動していきます。 ・イベント等やバザーを開き収入を得ます。 ・クラウドファンディングで、物品を購入します。 ・寄付を募ります。
<p>②2年目以降の運営費の確保に関して既にアイデアがあれば知りたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの学校へのPRチラシを作成したり、近くの保育園にPRして、子ども地域食堂やファミリー食堂の参加者を増やします。 ・サービスB事業を行い、家賃と光熱費の捻出と同時に、参加費をいただき運営費に充てます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・週5日ランチ、コーヒーを提供していきます。 ・子ども英語・算数塾を開き教室利用料をいただきます。 ・有料シニア大学を開きます。 ・食のイベントを開催し、参加費をいただきます。 ・小箱ショッピング、野菜マルシェを行います。
③コンテストに通らなかった場合、本提案はどのような形となるでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・食の提供はどうしても欠かせないものです。当初計画したキッチン整備を縮小してでも活動をしていきます。 ・別の助成金を活用しながら少しずつ施設を整備して、地域のボランティアさんや地域の方と進めていきます。
(川原委員)	
①整備する施設の妥当性が判断できるような、部屋のレイアウトと活動が理解できる資料、図面が見たいです。平面図とその他資料（スケッチ）の関係が読み取れません。まだ、実際の空間が建ち上がっていないので、2次コンテストまでにそうした資料を作成し、その図面の上で計画を詰めていく作業が必要と思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・2次提案書のスケッチは未来のものであり、平面図、スケッチを使ってパワーポイントでできる限りどのように空間を活用していくかを説明します。 ・パネルや模造紙でも説明していきます。
(杉崎委員)	
① まち普請事業の助成金の対象は厨房関係の器具類に限定していると考えてよいでしょうか。	<p>厨房関係の器具類を中心にしています。自分たちの力で保管庫の壁や扉部分、腰壁の作成を地域の方や子ども達と協力して作ります。</p>
(後藤委員)	
① 仮にコンテストを通過しなかった場合には、どのように活動を進めるのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・食の提供はどうしても欠かせないものです。当初計画したキッチン整備を縮小してでも活動をしていきます。 ・別の助成金を活用しながら少しずつ施設を整備して、地域のボランティアさんや地域の方と進めていきます。

<p>② 賃貸マンションの動線とは交わるのでしょうか。交わらないのでしょうか。賃貸マンションとの関係を教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・階段・エレベーター・エントランスは、共有なので動線は交わります。 ・マンション住民と一緒に楽しめる活動を計画しています。 ・空調設備は整っており、においの問題はないと思います。 ・プライバシーや騒音に配慮して気密性や防音の壁、天井の造りになっています。
<p>(松村委員)</p>	
<p>① 居場所のない子どもたちを、この開かれた拠点と繋ぐための工夫として、どのようなことを考えていらっしゃいますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが興味関心のある企画（例えばYouTubeなどで料理教室や目の前の公園での紙芝居や遊びを展開。その後の食事等）で呼びかけを行います。
<p>② 「子どもを中心」とすることが書かれていますが、子どもたちがこの拠点の運営に参加することは想定されていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部門会議に参加したり、意見を述べたり子ども主体のイベントを計画し、実施していきます。 ・現時点で子供が店主となって駄菓子販売を行う。「お店屋さんごっこ」などの発案があります。企画の話し合いの時点から子ども達にも参加してもらいます。 ・そのほかカフェの食器洗いや掃除などに参加した子供にポイントカードを発行し駄菓子等の購入に使えるようにするなどカフェ運営などの参加のきっかけづくりをします。

収入見込み

内容	数量（年）	収入	
学習応援 こども地域食堂	1380	528,000	子ども200×35シニア400×10（ボランティア7名）
ファミリー食堂	600	178,900	こども300円中高生500円大人600円
不登校の会	440	440,000	1,000/月
ランチ	7200	3,122,000	ランチ700円（v o1日8名1920食・悩いきいき820食を引く）
ボードゲーム	552	290,000	半日500円1日800円
心・悩いきいき教室（サービスB）	820	1,230,000	1回1500円
食のイベント	480	336,000	700円
交流イベント	400	8,000	200円
貸館事業	24日	48,000	2000円
マルシェ売り上げ	12	120,000	ボックス1000×5
野菜マルシェ	12	90,000	ボックス1500×5人
泉区ふれあい助成金		420,000	
介護予防補助金		3,000,000	
寄付金		1,000,000	
総収入		10,810,900	

支出見込み

内容		月	年	
管理費	家賃	180,000	2,160,000	月18万
	水道光熱費	70,000	840,000	月7万
	人件費	181,440	2,177,280	1080円×7時間×3日×2人
	ボランティア謝礼		1,046,400	半日500円×144人/月 主ボランティア2000円×40/月
	通信費		240,000	
	管理経費支出		6,463,680	

事業費

	消耗品	200,000
	原材料費	
	食材費	1,300,000
	印刷費	50,000
	その他	2,000,000
	事業費支出	3,550,000
	総支出	10,013,680

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	まちまど・洋光台シェアベース実行委員会
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	磯子区洋光台3丁目
提案名 (25字以内)	「食」をきっかけとしたシェア空間の立ち上げ
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容※1を工夫した点※2にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>洋光台駅徒歩2分の洋光台中央団地商店街に、「食」をキーワードとして、【①訪れる方が主役となることができる②新たな繋がりが生まれ、さらなる活動の連鎖を生む③まちのハブとなる】ことを目指したシェア空間「シェアベース」を整備する。1・2階はともに、菓子製造許可・飲食店営業許可取得のキッチンと客席を整備する。1・2階にそれぞれ性格の異なる空間を設けることで、異なる活動を行う団体同士の交流やまちの新たな出会いに繋げる。</p> <p>【1階】主にカフェを始めてみたい人、自分のお菓子を販売してみたい人の場とする。多くの人が行き交う駅前空間に面した場所に設けることで、幅広い住民に発信することができる。店舗営業にチャレンジしたり、初めてでも1人でも立ち寄りやすい場が欲しいという若年層の声から、セミクローズドなキッチンと落ち着いて過ごせる客席空間を設ける。また、バックヤードには継続的な利用者が使いやすいようロッカーなどを配置する。</p> <p>【2階】主に食を通じた繋がりがづくりの場として、料理教室や高齢者・子育て層が中心的に利用する食堂として活用することを想定。こどもが外に飛び出すことなく遊べる外廊下のある2階に設置することで、大人の目が行き届く場所で活動したいというニーズに応える。キッチンはみんなで囲んで料理ができる仕様に。</p> <p>【主な整備内容】キッチン・エアコン・手洗い等設備工事／内装工事</p>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) ※第1次提案書より具体的に記入してください	<p>施設での活動は3つの利用パターンを想定している。</p> <p>①自己実現の場とその支援 食にまつわる仕事をはじめてみたい人・再開したい人の自己実現の場とする。単なるシェアベースの貸し出し利用にとどまらず、実行委員による活動の始め方のアドバイスやスタートアップ講座の実施等の支援を行う。また、「食にまつわるやってみみたいことプレゼンテーションin洋光台」企画の実施等、まちでチャレンジする人とそれを応援したい人を結ぶ企画を実施する。</p> <p>②結び手（むすびて）による連携企画・コーディネート 実行委員を中心としたコーディネートチームは『結び手』として、人と人だけに限らず、地域にある資源と人、情報と人、体験と人を結ぶ。結び手による主催イベントの企画運営の一例として、2階でアレルギーを持つ小学校高学年の子どもを対象とした「アレルギーっ子のためのお菓子教室」、1階でその保護者と小学校に入学予定の保護者の方々の「アレルギーっ子の小学校生活」をテーマにしたおしゃ</p>

	<p>べり会の同時開催等を検討。その他、地域資源の活用や異業種スキルを持つ方同士を結ぶことにより、新たなコラボレーションが生まれる機会の創出を行う。例えば、お菓子作家と広報スキルを持った住民との連携や、磯子区や近隣エリアも含めた地域の農作物や生産者と料理講師の講座等を検討中。</p> <p>③利用者や地域交流の場 利用者間での情報共有や、疑問点・改善点の共有、コラボ企画の検討など、シェアベースの利用者同士が参加できる交流会を開催する。地域交流の場としては、新しく洋光台に転入してきた方向けの「ようこそ洋光台へ」企画の実施や、介護予防・生活支援サービス補助事業等を通じた様々な角度からの繋がりを作ることで、一人や仲間と参加しても、新たな出会いに繋がる企画を展開する。</p>
<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>①『食』にまつわる活動の場への願い：実行委員が所属するまちまどや洋光台地域ケアプラザでは地域活動の支援を行っている。その中で『食』にまつわる仕事への再チャレンジや小商い、地域活動を行いたいという願いが複数寄せられているが、現在洋光台内にある食の活動スペースは仕事や小商いに活用することが難しい。また無償の活動はできても住民が集まりづらい場所にあることが課題である。前述の願いや課題を発信してきたことで現在の地域の仕組みを超えた新たな場「食をきっかけとしたシェア空間」を作りたいという機運が高まった。</p> <p>②これまでの経験で繋がった活動プレイヤー同士の連携の必要性：地域活動が活発ながらも洋光台では『次世代への活動の継承』が課題である。実行委員会には複数の地域や食にまつわるコーディネーターが所属しており、それぞれがこれまで多くの活動プレイヤーと出会ってきたが、そのプレイヤー同士の接点は普段の活動では生まれにくく発展的な展開に繋がりにくいため、活動が継承されない。その課題に対し『食』をテーマに接点を生み出すことで、新たな活動の展開や洋光台の暮らしに新たな価値を継続的に生み出すことができると考える。</p> <p>③洋光台地区の高齢化率は30%を超え見守りが課題：洋光台在住高齢者の多くは一人暮らし・夫婦世帯である。その中でも親族が遠方、身寄りのない人が多くいることも特徴。そこで高齢者宅で持て余されている庭木の実を地域の子どもや若者で収穫に行きシェアベースで調理してお礼をする活動を行う等、高齢者の見守りと共に多世代交流の機会を創出することが必要だと考える。住民を中心とした『結び手』がこうした『食』に通じた活動を企画することで、行政では行き届かないゆるやかな支援に繋げることができる。</p>
<p>整備プロセス (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源^{注4}、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>2023年8月頃の正式オープンを目指す。</p> <p>①1次コンテスト以降に加わったメンバーも含めた『結び手』で集まり、一人ひとりの思いやシェアベースを通じて目指したい地域の将来像をすり合わせ、運営の核となる企画を練り上げる。</p> <p>②まちづくりに関心のある地域の学生を巻き込み『結び手』とチームを組むことで、整備後にも学生が活動に関わる土壌を整える。</p> <p>③シェアベース利用説明会を開催し、活動希望者と連携する体制を整える。</p> <p>④工事業者による施工後DIYに長けた実行委員や地域の工務店に協力を要請し共に内装造作を施工。またワークショップ等も開催しながら地域住民と一緒に床や壁の塗装を行う。併せて場の発信を行い運営開始後の参加・利用促進に繋げる。</p> <p>⑤不足する工事資金についてはプレイベントを複数回開催し活動の周知と共に募金を募るとともに、クラウドファンディングを実施する。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するとき連携する仲間の役割や活用する地域資源^{注4})に触れて説明してく</p>	<p>●スタッフ・体制：運営は実行委員を中心とした『結び手』が行う。シェアベースの貸し出し受付・予約は、実行委員の貸館受付の経験を活かして実施する。新規利用者には説明会を設け、場の理念や衛生管理について案内する。活動に共感・賛同する方は、結び手に加わることができる。</p> <p>●情報発信：SNS等を用いながら活動者や実施企画の情報発信を行う。また地域で企画運営しているイベントへ継続的に参加をし、情報交換を行っていく。</p> <p>●運営費：シェアベースの貸し出しにより運営費を稼ぐことを基本的な考え方とする。単なる貸し出し運営にとどまらず、実行委員による主催イベントの実施や、シェアベース利用者ほか焼き菓子作家のマルシェを定期開催(実績あり)することで、地域の繋がりを広めるとともにその出店料を運営費に充てる。また地</p>

ださい)	域施策に詳しいメンバーが実行委員に所属していることを活かし、介護予防・生活支援サービス補助事業等を行うことで運営費を捻出する。
------	-----------------------------------------------------------------

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

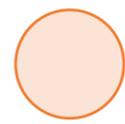
1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください	<p>①シェアベース利用希望者と地域の方へのヒアリング：さらに多くの方への周知に繋げるため、ハロウィンイベントや実行委員が企画するマルシェ出店者や来場者、まち探検の小学生にお話を伺った。どんな風にご利用したいかを記入していただいた付箋は300枚に迫る勢いでみなさんのワクワクが伝わってきた。</p> <p>②視察・調査：近隣エリアのシェアキッチン・シェアカフェを視察し、出店者の属性や来店者・街の様子などを肌で感じた。また運営者に活動の様子をヒアリングすることで、メンバー間での目線合わせを行った。</p> <p>③洋光台を含んだ区内活動者への活動周知：区内で長年活動しているNPOの代表者へ企画説明し、磯子地域づくり塾で活動周知チラシを配布。また、地域に根ざした劇団の杉田劇場の公演でチラシ折込を実施。</p> <p>④学校への活動周知：近隣の2つの高校へ企画説明訪問。1校では全校生徒へアンケート回答依頼チラシ800部の配布を行った。また、近隣の中学2年生の職業講話で企画を紹介。</p> <p>⑤アンケートの実施：活動の仲間探しやシェアベース使い方の可能性を探ることを目的に、一般向けオンラインアンケートを実施。</p>
関係者の合意・調整状況 (地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください)	<p>●地権者（UR都市機構）：1次コンテスト前から整備希望場所での計画内容について確認を行っており、問題ないことを確認済みである（2次コンテスト選考後に、URの施設使用賃貸申込に基づく諸審査を経る必要がある）。</p> <p>●まちづくり協議会・自治町内会：1次コンテスト前から洋光台まちづくり協議会会長・事務局長・中央団地自治会長にご説明を行っており、今後も継続して状況の共有を行う。</p> <p>●整備場所周辺の地域住民（商店会・UR賃貸住宅住民）：1次コンテスト前に商店会会長にご報告し、2次コンテストに向けてもご報告。頂いたご意見を踏まえて今後も説明を継続予定。隣接する店舗・住戸住民には2次コンテスト開催までにご報告予定。</p>
その他提案について特にPRしたい点を記入してください	<p>・実行委員は多世代かつ多様なバックグラウンドと専門性を持ち、それぞれ異なるコミュニティや地域団体に所属。様々な知見や情報の交換を日頃から行える体制にある。このメンバーが『結び手』として活動を開始する。</p> <p>・シェアベースの取り組みの発信開始後、食に関する活動への声掛けが格段に増えた。例えば『こめこくらぶ』。米粉を使った活動のアイデアは地域の方が独自に口コミで伝えて下さり、続々と加わりたいという声広がっている。</p>
目指す地域の将来像 (施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください)	<p>誰しにも共通するテーマ『食』をきっかけとしてその人が好きなこと、得意なこと、苦にならないことで、ゆるく繋がれる地域を目指す。行きたい、食べたい、会いたい、作りたい、手伝いたい、挑戦したい、応援したい…そんな気持ちも結ぶのがシェアベースである。『結び手』のほんの少しのコーディネートで新たな出会いが生まれたり、ここで経験を積んだ人が地域に巣立っていくことができる。そうして巣立った人が新たな『結び手』となり場の運営に関わったり、地域内外から新たな人や情報を運ぶことで、繋がりや人材の育成が連鎖する。みんながみんなの応援団に。住んでいる人も他地域の人も心地よく過ごすことができ、いざというときに助け合えるまちになる。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

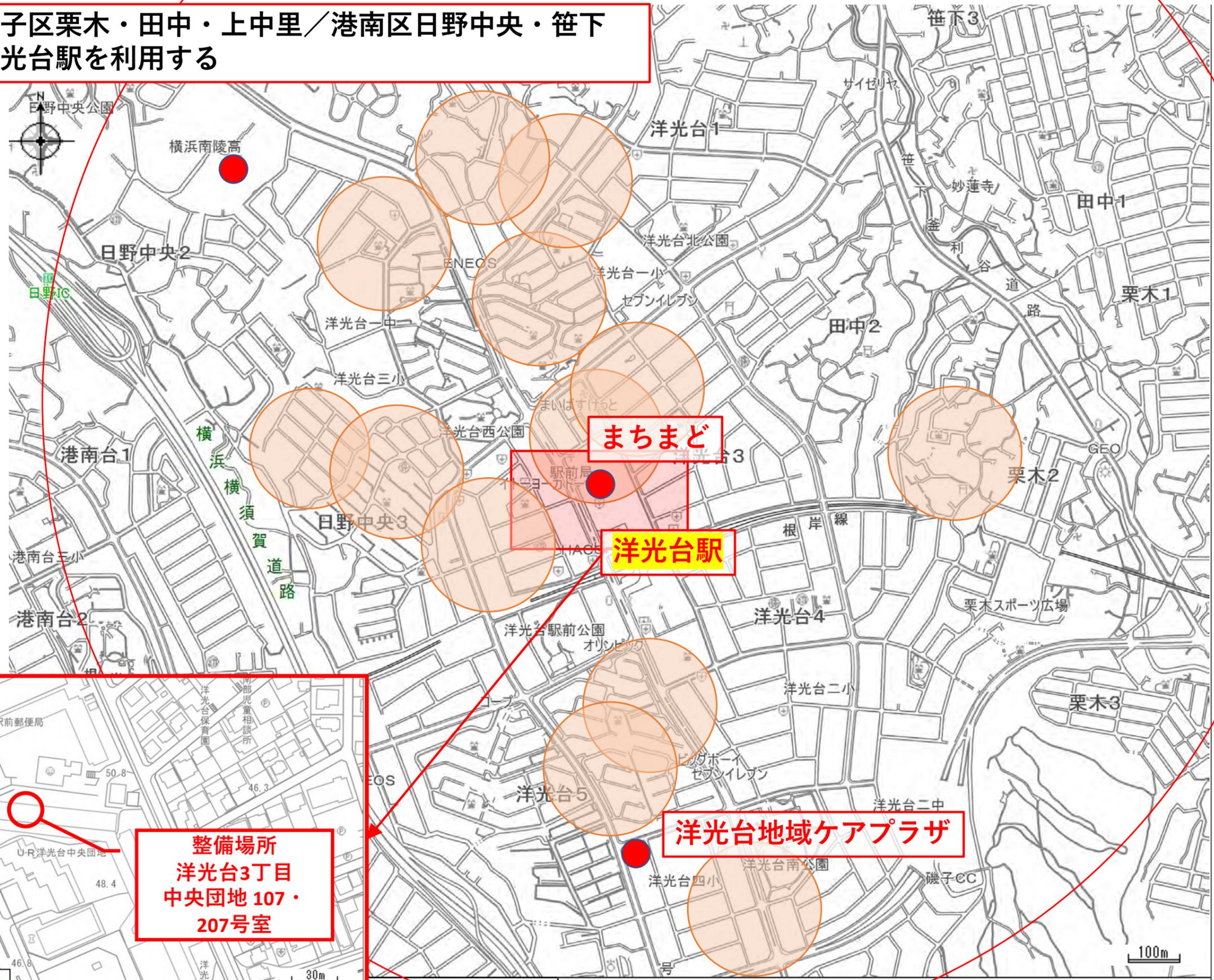
- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

洋光台シェアベース | 位置図

洋光台のほかに、磯子区栗木・田中・上中里／港南区日野中央・笹下に居住する住民が洋光台駅を利用する



実行委員の居住エリア



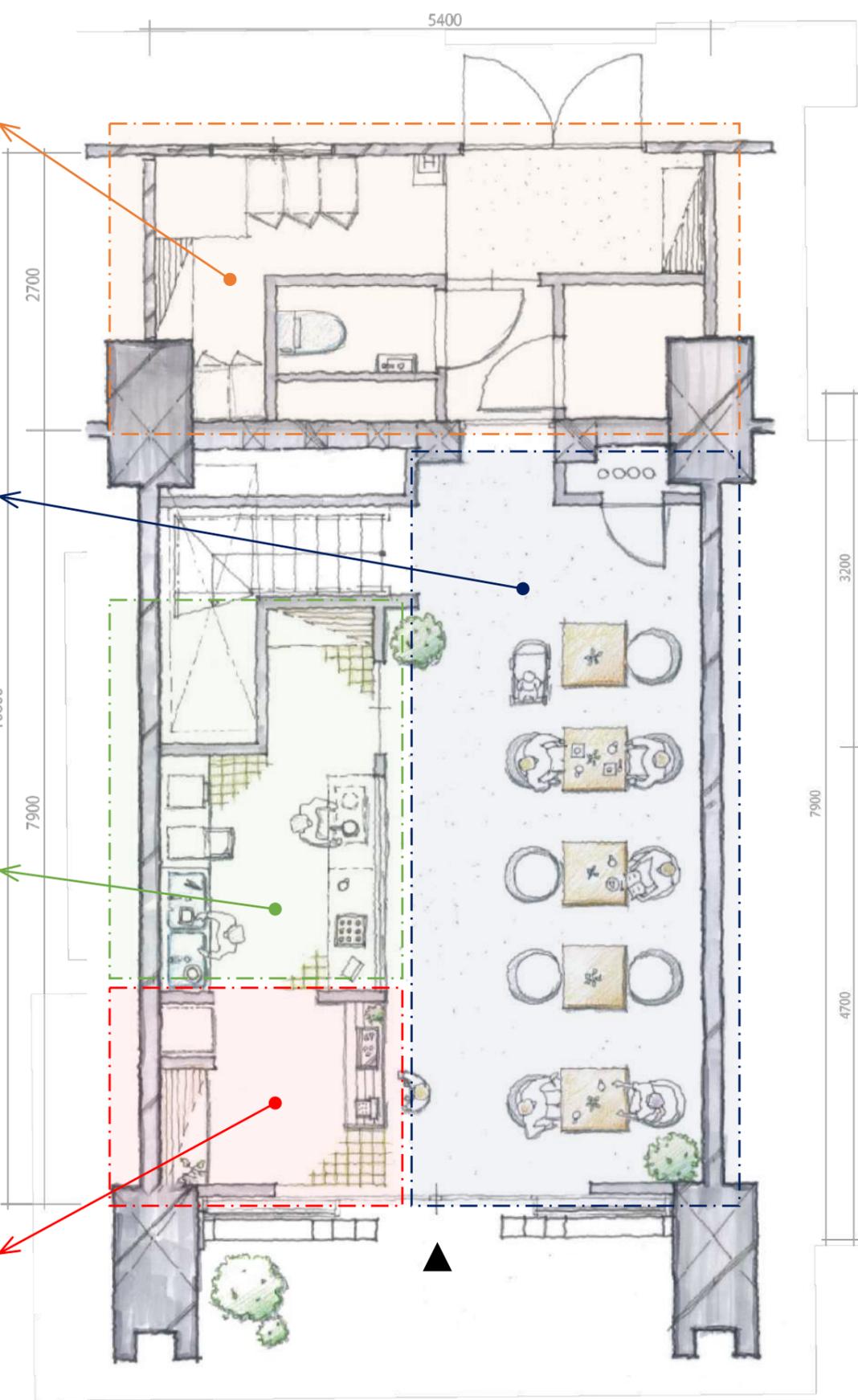
洋光台シェアベース | 平面図

<バックヤード>
 施設利用者の荷物管理・搬入経路。
 入り口外には、車を停められるスペースも用意。

<カフェスペース>
 読書をしたり、お友達とコーヒーを飲んだり、ときには仕事も。ふらっと立ち寄ることができる、地域のカフェ。

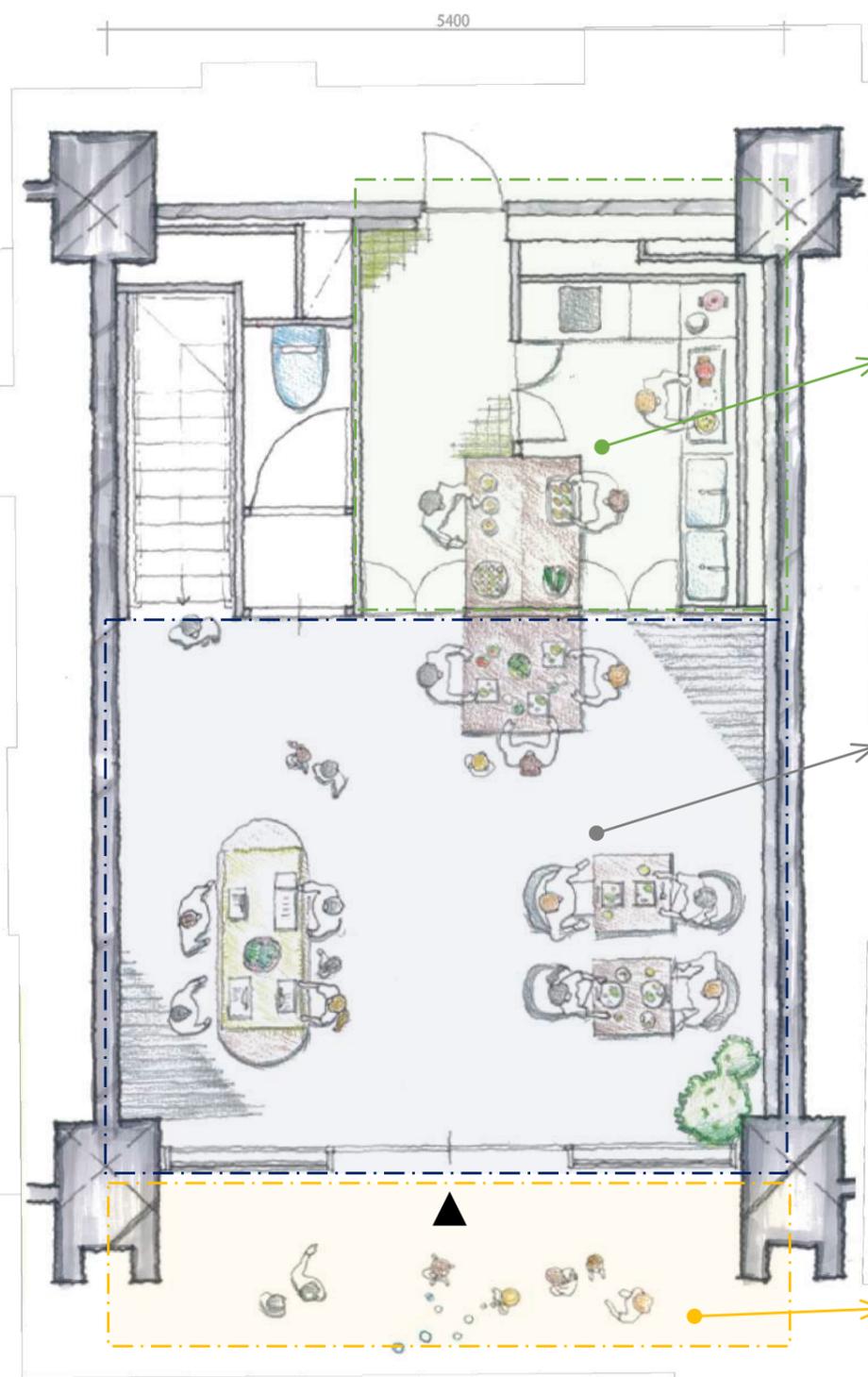
<チャレンジキッチン>
 気軽に自分のお店を出したい。趣味や好きな料理、お菓子作りをみんなに届けたい。無理なく好きな時間に出店できる、まちのキッチン。
 菓子製造、飲食店営業許可キッチンを取得予定。

<販売スペース>
 つくったお菓子を店頭販売。お菓子の感想や、洋光台の情報交換など、キッチン利用者と住民さんの会話も生まれる。



1階平面図

主な機能 | シェアキッチン・カフェ
 コミュニティスペース
 取得予定 | 菓子製造・飲食店運営許可
 床面積 | 1階 : 57.24㎡ 2階 : 42.66㎡



2階平面図

<まちなかキッチン>
 食を通じた地域の交流の場。料理教室や、食のワークショップ、お友達のお子さんと一緒に菓子作り体験など、キッチンでみんなが囲む場所。
 菓子製造、飲食店営業許可キッチンを取得予定。

<まちなかテーブル>
 カフェスペースがある時間帯にコワーキングスペース・スタディスペース・ミニ講座スペースとして利用できる。

<屋外スペース>
 ふとお友達とすれ違ったり、お話をしたり、子どもは元気に外で遊んでも、子どもから大人までが気軽に訪れることができる場所。時にはイベント利用にも。

SCALE | 1:50

洋光台シェアベース | 完成予想図

キッチン利用者とお客さん（地域住民）の交流

お菓子や料理を提供するだけでなく、地域の方の作品紹介や地域情報の交換など多様なコミュニケーションを生み出す。

カフェを見渡せるオープンキッチン

カフェスペースとキッチンを一気に整備。「食」を通じたコミュニケーションを育む。

ふらっと立ち寄れるまちカフェ

読書をしたり、友達と会話をしたり、時にはキッチン利用者の方とおしゃべりをしたり、地域住民にとって気軽に訪れることができる場所。

1階



2階



「こんにちは」があふれるまちの居場所

ふと立ち寄ると、「こんにちは」「〇〇さん！」と自然に声をかけ合い、交流がうまれるまちの居場所。

「食」を通じたつながる場

料理教室や食のワークショップ、大人から子どもまで多様な方が訪れ、つながりのきっかけとなる場。

模型写真



<空間検討のプロセス>

①子ども食堂を洋光台で実施している方など、実際の利用者へのヒアリング・活動・空間を調査し、設計へ反映。

②模型を作成し、具体的な設計検討の実施。まちまどに関わってくれる大学生との模型作成。全体設計のみならず、備品など細かい仕様についても検討を重ねた。

ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

● 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。

● 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。

● 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
内装造作工事	壁材・床材の施工 (巾木・カウンター・造作棚・ビニル床シートなど)	一式	226,100	226,100	地域の工務店・住民の協力 3人×2日
建具工事	木製建具の設置 (トイレ・キッチン周り・倉庫)	一式	618,000	618,000	地域の工務店・住民の協力 3人×1日
内装仕上げ工事	塗装 (壁・天井)	一式	150,700	150,700	DIYワークショップの開催 6人×3日
設備工事	キッチン周辺 設備設置工事	一式	3,300,000	3,300,000	
電気工事	照明器具 設置工事	一式	1,600,000	1,600,000	地域の工務店・住民の協力 3人×2日
現場管理費 諸経費		一式	300,000	300,000	
合 計				6,194,800	

1次コンテスト以降の動き

※実行委員会は全員で月2~3回、
 その他作業チームごとに集まって
 進めている

令和4年

7/9

まち普請一次コンテスト

7/28

コンテスト振り返り・役割決め
 コーディネーターの選出

8/19

コーディネーター山路さま
 顔合わせ

8/26

まち普請現地見学会

8/27

見学会報告会

9/14

ステップアップシート記入
 今後のスケジュール確認

9/17

シェアベースでやってみたいこ
 とアイデアだし@ことはじめ市

9/18

まち普請活動懇親会

9/21

地域のNPOヒアリング
 地域づくり塾との
 連携について相談

9/27

大学生とおにぎり会

10/2

学生と模型づくり

10/10

学生と模型づくり

10/17

シェアカフェプラフテラス
 見学

10/17

藤棚デパートメント見学

10/20

近隣の高校2校への
 アンケート依頼

10/22

まちまど来訪者
 ご自宅で柿もぎ

10/29

現地見学会

10/30

シェアベースで
 やってみたいことアイデアだし
 @HAPPY★ハロウィンin洋光台

11/2

シェアベース使ってみたい人
 やってみたい人大集合！

11/3

磯子で活動する劇団へ
 チラシ折込

11/4

地域の方へのヒアリング会

11/10

高校へアンケート用紙お届け

この間、個別にお声掛
 けを続ける。興味を持っ
 てくださっていた方々が
 どんどん仲間に！

11/24

学生と模型づくり

11/27

Yakigashi ichi

緊張しすぎて
 この日の記憶が
 曖昧です



手先が器用で
 楽しそうに。
 見習うこと
 たくさん！



運営のリアルを
 お伺い



先生たちが
 ウェルカムで
 びっくり！



楽しい
 アイディアが
 たくさん！



率直な意見が
 たくさん
 出てきたよ！



初対面
 握りだした途端
 仲良くなった



模型を作ると
 様子が一気に
 わかりやすく！



ここで出会った
 常連の年金
 シスターズ



初めての柿もぎ
 歓声が
 あがったよ



この日
 出会った人が
 本格的に
 メンバーへ



焼き菓子の
 魅力を
 再確認！



ワークショップ/ヒアリング内容

9/17シェアベースでやってみたいこと@ ことはじめ市
10/30シェアベースでやってみたいこと@ Happy ★ハロウィンin洋光台



来場者にシェアベースの説明。どんなことをこの場でやってみたいか、行きたいかの意見を募った。
計70人参加

- ・おばあちゃんから子供に 料理を教えよう
- ・異文化料理、異文化料理教室
- ・1 DAYWORK SHOP & CAFE



シェアベースでどんなことをやってみたい？

11/2 つかってみたい人、やってみたい人大集合

既に地域で活動している方や大学生が参加。シェアベースの説明。どんなことをこの場でやってみたいか、行きたいかの意見を募った。
15人参加
回答数 82



参加者が最も共感した意見
【おかえりスープ】
お帰りなさい、今日も1日お疲れ様でしたという気持ちを込めてスープがあったらいいな。

11/4 地域の方へのヒアリング会

子育て世代の地域の方に、参加してみたい企画などについての意見を募った。
8人参加
回答数 76



参加者が最も共感した意見
【ようこそ洋光台へ】
新しく洋光台に転入してきた方向けの「ようこそ洋光台へ」お食事会。

洋光台で以前活動していた男性のお料理グループ。リーダーをやっていた人がやめたことで開催機会がなくなり、空中分解してしまった。参加者のひとりが同様の活動ができる場所はないか、まちまどに相談にきた。活動支援をすることで再開できるのではないかな。

笹下のシェアキッチンを借りてカフェ営業をしていたが、オーナーの都合で退去することに。まちまどで開催のイベントにも出展。洋光台でお店を出したい夢があり、物件を探しても断念。CCラボでキッチンがあって使えたらと思うように。

提案の背景となったエピソード

こども食堂がやりたいと物件を探していた。商店街の空き店舗を問い合わせるが断念。まちまどを紹介される。こども食堂実現に向けて、ケアプラザとまちまどでサポート。CCラボで開催の運びとなるが、許可について聞かれることが多く今は他の場所で開催。シェアベースができたらかども食堂のほかに週3でランチ営業したいと考えている。(シングルマザーなどの職支援も考えていて法人化した)

ご主人の病気をきっかけに洋光台へ転入。体調も安定してきたので、食の仕事再開したいと物件を探していたが、そこでまちまどを紹介される。食育なども考えた素晴らしい活動内容だったが、CCラボの設備上、調理は不可のためケアプラザを紹介。人気企画となっている。ただ、ケアプラザでは講師自身で部屋を借りて開催ができず、地域の北側に住む方が行きづらいという難点がある。

アンケート結果

シェアベースの活動を告知し仲間を募るため、そして活動への関心度合いを図るため一般編と学生編をそれぞれ設定し、集計を行った。

＜アンケートの実施概要＞ 10月1日～11月28日今後も継続予定
実施方法 インターネットアンケート
回答依頼の一般向けチラシ 約1600部配布
学生向けチラシ 800部配布
名刺大カード 約420部配布
回収状況 一般編 62部 回収率3.06%
学生編 31部 回収率3.87%



結び手の広がり

実行委員が話す

人が人を結んでくれる

結び手が増えてきた

☆近隣のイベントで直接声をかけ始めたことが、結果的に中間支援的な声掛けの場となった

☆既存のシェアカフェに出店している人へお話をしにいくとそこに集まっているお客様や、別の曜日出店している方へ、結び手のようにお話をし下さり、そのまま結び手として参加して下さることになった。

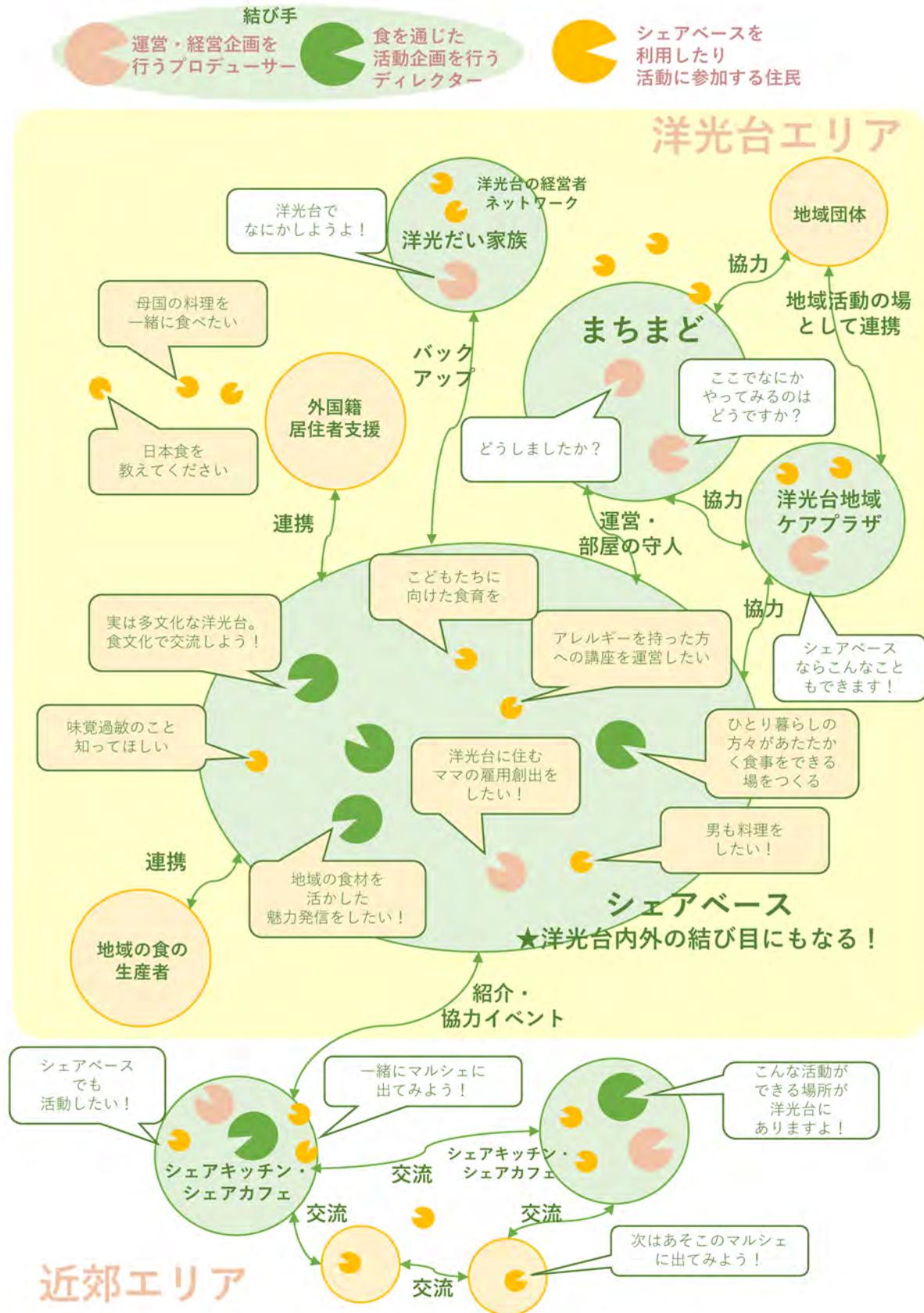
☆コミュニティカフェのイベントに参加した際に、シェアベースのことを話すと元シェフで今はケータリングの仕事をしている方がアドバイスを下さった。

☆地域に根ざした劇団の公演にてチラシの挟み込みをしたことで、洋光台だけでなく区内への周知も始まりつつある

☆洋光台の男性経営者が集まった「洋光だい家族」が協力をしてくれることになった。

☆洋光台で個人の英語教室を開いている方から、シェアベースについて英語への翻訳の協力をして頂けることになり、今、まさに食をきっかけとして地域の人が繋がりはじめ始めていることを実感している。

関係イメージ図案



利用方法と貸し出しのイメージ

貸し出し方

	固定枠	フリー予約枠	主催・共催イベント				
	月	火	水	木	金	土	日
2階	まちの食堂 （イラスト）				まちの食堂 （イラスト）	こども食堂 （イラスト）	結び手主催・共催 イベント （イラスト）
1階	焼菓子・軽食 カフェ	焼菓子・軽食 カフェ	まちの食堂 （イラスト）	焼菓子・軽食 カフェ	焼菓子・軽食 カフェ		結び手主催・共催 イベント （イラスト）
1階 夜枠							

結び手としてコーディネートしたいこと

コラボレーション支援

- ・地域のちいさな八百屋さんや野菜生産者さんとのコラボ企画
- ・マルシェ出店者、シェアベース利用者のコラボ企画

交流支援

- 他には地域の人たちが口コミで広めて下さっている部活のような交流の場。
- ・こめこくらぶ
 - ・アジア部
 - ・くだもの部
 - ・糰部

はじめの1歩支援

何かをやりたいと思っていた方が、これをきっかけとして一緒に活動するメンバーになったり地域の活動に興味のある方とも繋がることのできた。

スタートアップ支援

- ・メニューの作り方講座
- ・お料理の写真的撮り方講座
- ・チョークで描く看板講座
- ・フライヤーの作り方講座
- ・SNSでの発信の仕方講座

シェアベースを借りている人たちへの支援

使っていく中で共有した方がよいことの情報や、疑問点、改善点などを話したり、そこからさらに自分たちだけではなく、ここからコラボ企画などが始まっているような場の設定をする。

2次コンテスト事前質問集

【提案名（グループ名）】 「食」をきっかけとしたシェア空間の立ち上げ	
事前質問	回答欄
(朝比奈委員)	
①開設後の大まかな収支計画と、活動が軌道にのるまでの運営資金の見通しをどのように考えていますか。	添付収支表のように検討しております。
②近隣との合意の進捗を教えてください。	近隣のみなさまからお声がけを頂くことが増えてきました。楽しみにしてくださっていることを実感しております。 商店街の会長様が会合の際に商店会のみなさまにシェアベースについての資料を配布して下さることになりました。その後、商店の方へご説明に伺います。 また、まちづくり協議会の方々、町内会長様、上部住戸の方々へご説明しております。
(飯尾委員)	
①実行委員、シェアベース利用者、参加者、近隣住民との交流の工夫はありますか。	実行委員がお膳立てをするだけでなく、イベントに参加したことがある方や地域の方々ご自身が企画したり、関われる余白をしっかりとつくるのが大事だと考えています。 私たちが自主企画を行うものもあれば、企画して自らの手で実現したい方々の意見が既に集まってきているので、その企画のサポートを実行委員メンバーで行います。 また、オープンまでの期間にプレイベントを行います。プレイベントは、利用希望の方がお試しでまずはやってみることができるとともに、地域の方々にシェアベースがどんな使い方ができる場所なのか、見

	<p>ていただく機会と考えています。オープン後も継続してお試しイベントをつくるとともに、校長先生からお声がけ頂いている地域の中学校、高等学校の生徒さんと企画を一緒に考えたり、イベント運営をしたりする機会を作っていきたいと考えています。</p>
<p>(植松委員)</p>	
<p>①地域の様々な活動とネットワークをサポートする中で、「食」に特化した活動を目指す根拠を教えてください。他の活動についての需要はないのでしょうか。</p>	<p>提案書の「提案の背景」①に記載しましたことに補足致します。</p> <p>生きるということは食べるものが必ず伴います。地域の様々な活動をサポートしていく中で関わり合いのある方々に共通していること、その人の置かれている状況に左右されないことこそが「食」だと考えております。</p> <p>だからこそ、あらゆる人たちへ言語の代わりになりうる「食」を通したアプローチが可能になるのではないのでしょうか。</p> <p>私たちが行いたいことは、地域内はもちろんのこと、地域外との関わり、国籍が異なる人たちとの関わり、関心が異なる層や世代間の繋がりをつくること、またそれを食を通して結ぶサポートをすることです。</p> <p>ご質問の通り、他の活動についての需要も数多くあり、洋光台地域ケアプラザや、まちまどでは地域活動の支援・応援を行ってきています。しかしその多くはご自身で活動を行いたいという既に意識のある方々の支援や、同世代・同趣味グループ等、独立した個々の活動支援となりがちです。</p> <p>そのため、これまで洋光台で行われてきた活動は地域全体の繋がりや循環に必ずしも繋がっていなかったように思います。</p> <p>だからこそ、これからはシェアベースで出来ること、近隣施設で出来ること、地域の人たちのできることを見極めて、結び</p>

	<p>手が繋いでいく活動をしてまいりたいと考えています。</p>
<p>②1階部分も2階部分も、それぞれ性格の異なる空間を設けることで異なる活動を行うとしながら、共にキッチンのある空間を造設すること。詳細は拝読していますが、そんなにもこういった需要はあるものなのでしょうか。</p>	<p>事前に近隣や関東圏のシェアキッチンやシェアカフェの見学、その利用者へのヒアリングを行いました。</p> <p>その中で得られた意見として、コロナ禍もあり、新しい働き方を模索している方が増えたこともあり、予約枠が足りないというお話がほとんどでした。</p> <p>また、シェアキッチンのついた賃貸マンションも出てきており、キッチンを通じた集いのニーズがあることを感じています。</p> <p>もちろん、私たちの周辺にもキッチンを使った活動を行いたいという方々は多くいます。また実際にできた場を見ていただくこと、実行委員それぞれの専門や仕事を通じて需要をさらに掘り起こしていきます。</p>
<p>③現在企画されている活動が、高齢化率が上昇している地域の課題解決に資する仕組みをより詳しく教えて下さい。</p>	<p>「くだもの部」や「多世代向けの企画」を通じて、「みかんの家の〇〇さん」「芋煮の〇〇さん」を地域内に増やし、高齢者と地域の子どもや大人が「挨拶をする」「言葉を交わす」などのできる関係を地域に拡げていきたいと考えています。そのなかで、お互いに見守り合う関係や困っている時に頼れる人を世代問わず増やしていきます。</p> <p>また、高齢化率の上昇を抑えるためには若者世代の転入・定住・転出抑制も必要だと考え、次のような活動を想定しています。</p> <p>① 学生によるシェアベースでの活動企画会議：既に、大学生と企画会議を始めています。</p> <p>② ようこそ洋光台へ：新しく洋光台に転入してきた方向けの食事会</p> <p>③ 子育て世代に向けた取り組み：ママ・パパのお食事会、取り分け幼児食・離乳食講座等</p> <p>④ 発信力の向上：シェアベースでのチャ</p>

	レンジを通して、様々な立場の人が洋光台に関する情報の発信
(加藤委員)	
①運営開始後の収支の計画を知りたいです。	添付収支表のように検討しております。
②貸し出しイメージの表を拝見しましたが、うまく汲み取れなかったため、1階と2階の交流に関してもう少し詳しく構想を聞きたいです。	<p>1・2階の行き来を積極的に行う活動については以下等を想定しています。</p> <p>①親子がそれぞれの時間をたのしめる階段が繋がっていることで、お互いの気配を感じながら、それぞれの活動に安心して参加することができる。</p> <p>②多世代交流のきっかけ 例えば子ども食堂を2階で開催している時に、1階で年配の方向けのイベントを企画。自由に行き来できる時間を設定し、自然な交流の場を作る。</p> <p>③異業種のコラボ お互いの食べ物をデリバリーしあえたり、2階で魚を捌く教室をして1階でその後調理してもらうなど。繋がっていることで、衛生面の管理もしやすくなる。</p>
(川原委員)	
①飲食店営業許可を取得できる、業務用キッチンを2つ用意する計画ですが、その設備費が330万円なのは、一般的にかなり低価格な見積もりと感じます。低価格にできる工夫があるのか、教えていただきたいです。	業務用設備メーカーに依頼した設備取り付け費の見積もり金額を転記致しました。
②2Fの大きなキッチン台の中心が、腰までの扉2箇所と重なり、有効に使えないのではないのでしょうか。(カフェスペース側に90°角度を変えて設置する方がいいのではないのでしょうか。)	2Fではお料理教室、お菓子教室やこども食堂での利用を想定していますので、スペースの有効利用よりも、キッチン台を囲み交流しやすいことを意識したレイアウト配置としております。
③1次コンテストの時、現地視察の時の説明より1,2階が空間的に繋がる意味が薄まっていると感じました。それで良いですが、その場合、利用者が自由に行き	<p>1・2階の行き来を積極的に行う場合については加藤委員のご質問②への回答をご参照ください。</p> <p>チャレンジ店舗の店長さんのご意向を伺</p>

<p>来きできる今の階段の形が良いのかが気になります。1Fのチャレンジ店舗の内容によっては、2階から積極的に誘導するのか、反対に分けて使いたいときは、進入を遠慮してもらう仕掛けとするのかなど、改めて階段の果たす役割について知りたいです。</p>	<p>って行き来があまりないことをご希望の場合には、それぞれのお店のご紹介看板を階段の上下に立てて、行き来のないようにしつつ、双方の活動を知ってもらうきっかけづくりとします。</p>
<p>(杉崎委員)</p>	
<p>質問なし</p>	
<p>(後藤委員)</p>	
<p>① 500万円を超過する部分はどのように賄いますか。</p>	<p>地域での告知やこの場所ができる楽しみをさらに発信していくPRも兼ねてクラウドファンディングや寄付等の支援を募る仕組みを設けるほか、自分たちでも出資を行います。</p>
<p>(松村委員)</p>	

まちまど収支試算（初年度）

収入

項目	内容	月単価	数量	単位	年額	明細（月あたり）	備考
会費		410,000	1	年	410,000		法人：5万円×5口、個人：2000円×80口
事業収益	視察ツアー	11,000	12	ヶ月	132,000		既実施 / 取り組み紹介・まちあるきツアー
	CCラボ運営	62,000	12	ヶ月	744,000		既実施
	シェアベース運営平日	290,400	8	ヶ月	2,323,200	1000円×12時間×22日×2部屋×稼働率55%	2023.8～2024.3
	シェアベース運営休日	68,640	8	ヶ月	549,120	1300円×12時間×4日×2部屋×稼働率55%	2023.8～2024.3
	シェアベース運営基本時間外	24,000	8	ヶ月	192,000	1000円×8時間×30日×2部屋×稼働率5%	2023.8～2024.3
	シェアベーステーブルスペースのみ利用	18,000	8	ヶ月	144,000	1000円×12時間×30日×稼働率5%	2023.8～2024.3
	レンタルショーケース	12,500	8	ヶ月	100,000	2500円×5箱	2023.8～2024.3 / 菓子・調味料等を販売するレンタルボックス
	イベント参加料・出店料	30,000	8	ヶ月	240,000		2023.8～2024.3 / 自主企画イベント参加料・マルシェ出店料
助成金	活動費	50,000	12	ヶ月	600,000		
持出金		600,000	1	年	600,000		
合計					6,034,320		

支出

項目	内容	月単価	数量	単位	年額	明細（月あたり）	備考
家賃		—			—		チャレンジスペース制度
共益費		8,800	12	ヶ月	105,600		
人件費	スタッフ事務費	280,800	12	ヶ月	3,369,600		
	企画報酬・謝金	10,000	8	ヶ月	80,000		
	講師料	10,000	12	ヶ月	120,000		
水道光熱費	まちまど・CCラボ	15,000	12	ヶ月	180,000		
	シェアベース	35,000	8	ヶ月	280,000		
通信費	インターネット等	10,000	12	ヶ月	120,000		
保険料	PL保険・火災保険等	50,000	1	年	50,000		
設備・什器予備費		30,000	8	ヶ月	240,000		
雑費予備費		15,000	12	ヶ月	180,000		
清掃委託費	シェアベース	100,000	1	年	100,000		
システム費	予約・経理システム	89,760	1	年	89,760		CCラボ・シェアベース
広報費	チラシ作成等	20,000	12	ヶ月	240,000		
税金	法人市民税	54,500	1	年	54,500		
	登録免許税	30,000	1	年	30,000		定款記載変更
法人運営事務費	総会開催・税理士費用	384,000	1	年	384,000		
合計					5,623,460		

まちまど収支試算（2年目）

収入

項目	内容	月単価	数量	単位	年額	明細（月あたり）	備考
会費		410,000	1	年	410,000		法人：5万円×5口、個人：2000円×80口
事業収益	視察ツアー	22,000	12	ヶ月	264,000		既実施 / 取り組み紹介・まちあるきツアー
	CCラボ運営	78,000	12	ヶ月	936,000		既実施
	シェアベース運営平日	316,800	12	ヶ月	3,801,600	1000円×12時間×22日×2部屋×稼働率60%	
	シェアベース運営休日	74,880	12	ヶ月	898,560	1300円×12時間×4日×2部屋×稼働率60%	
	シェアベース運営基本時間外	24,000	12	ヶ月	288,000	1000円×8時間×30日×2部屋×稼働率5%	
	シェアベーステーブルスペースのみ利用	18,000	12	ヶ月	216,000	1000円×12時間×30日×稼働率5%	
	レンタルショーケース	12,500	12	ヶ月	150,000	2500円×5箇所	菓子・調味料等を販売する常設のレンタルボックス
	イベント参加料・出店料	30,000	12	ヶ月	360,000		自主企画イベント参加料・マルシェ出店料
助成金	活動費	50,000	12	ヶ月	600,000		
	家賃	100,000	12	ヶ月	1,200,000		
合計					9,124,160		

支出

項目	内容	月単価	数量	単位	年額	明細（月あたり）	備考
家賃		109,890	12	ヶ月	1,318,680		
共益費		8,800	12	ヶ月	105,600		
人件費	スタッフ事務費	280,800	12	ヶ月	3,369,600		
	企画報酬・謝金	50,000	12	ヶ月	600,000		
	講師料	10,000	12	ヶ月	120,000		
水道光熱費	まちまど・CCラボ	15,000	12	ヶ月	180,000		
	シェアベース	35,000	12	ヶ月	420,000		
通信費	インターネット等	10,000	12	ヶ月	120,000		
保険料	PL保険・火災保険等	60,000	1	年	60,000		
設備・什器予備費		40,000	12	ヶ月	480,000		
雑費予備費		15,000	12	ヶ月	180,000		
清掃委託費	シェアベース	100,000	1	年	100,000		
システム費	予約・経理システム	102,960	1	年	102,960		CCラボ・シェアベース
広報費	チラシ作成等	30,000	12	ヶ月	360,000		
税金	法人市民税	54,500	1	年	54,500		
	登録免許税	30,000	1	年	30,000		定款記載変更
法人運営事務費	総会開催・税理士費用	384,000	1	年	384,000		
持出金返済		50,000	12	ヶ月	600,000		
合計					8,585,340		

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	COCOしのはらガーデンコミュニティをつくろう会
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	港北区篠原町
提案名 (25字以内)	まるっとゆるっとCOCOしのガーデンコミュニティ
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容 ^{※1} を工夫した点 ^{※2} にも触れて記入してください) ^{※1} 施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ^{※2} 住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>誰もが入りやすく交流することのできるガーデンとするための庭整備一式。</p> <p>【スロープや玄関アプローチの整備】高齢者・子ども・車椅子の方等全ての方が安全に出入りし、過ごせるための<u>階段の拡張・手すり追加及びスロープを整備。</u></p> <p>【土壌改善・改良に伴うガーデン中心部の野芝化】ガーデンの中心部は水はけが悪く、雨や水遊びの後は滑りやすく足場が悪い。<u>よって水はけを改善し、野芝などによりミニ原っぱを創出し、誰もが快適に過ごせるガーデンとして整備する。</u></p> <p>【垣根や入口の整備】見通しを遮る<u>現在のツゲの生垣を撤去し、視認性を高め、道路際中央に新たに入口を設ける。</u>またガーデンの入口にベンチを設置。<u>両脇にはレモン列植及びモッコウバラ、ブラックベリー、フウセンカズラをワイヤーで牽引し、楽しめる生垣を創出する。</u></p> <p>【植生の整備】広場の拡がり確保するため周囲の<u>高木を最低限伐採。</u>新たに四季の彩りを演出するため<u>梅の木、ジュンベリー、モミジ、キンモクセイ等を新植。</u>南側の道路から景観が楽しめるようにし、ふれあいのきっかけにしたい。</p> <p>【花壇・畑の整備】ガーデンの西側には<u>花壇を設け、記念のラベンダーをはじめ、四季折々の花で演出する。</u>東側には畑を拡張し、花を添えることで、<u>ポタジェの景観を創る。</u>収穫する楽しみを多世代で体験する。</p> <p>【駐輪場の整備】既存カーポートを撤去し、新たに<u>透明版を組み込んだ屋根を設置</u>することで明るいアプローチとすると共にガーデンとの一体感を高める。さらに駐輪場の下には、<u>マルシェ棚を設置し、常置販売を試みる。</u></p>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) [※] 第1次提案書より具体的に記入してください	<p>【気軽に人が集まる工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ガーデンの入口付近にベンチを設けることにより、散歩中や買い物帰りにひと休みし、お喋りするなどコミュニケーションできるきっかけになる。 ●入口付近には地域の方々と一緒に使うコミュニティ掲示板を設置し、ガーデンの活動内容を掲示することに加え地域の方々のチラシも掲示できるようにする。 ●「子ども110番の家」に登録していることをPRし、駄菓子販売なども入口で行い、学童の子どもたちの居場所にしてもらう。 <p>【ガーデンを楽しめる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●音楽イベントや、地域の先生を招いてアウトドア&防災クッキングなども日常的に行うことでいざという時の備えとする。 ●季節感を楽しめる植物を意識する。絵を描き、歌を詠み、色水遊びやおぼつき

	<p>の笛づくり等、四季折々の自然とのふれあい、豊かな暮らしを満喫する。</p> <p>●地面はシロツメグサなど踏圧に強い地被類を植え、子どもたちが寝っ転がれるような小さな原っぱを創り出す。レモン、梅、ベリーなど実のなる木、キンモクセイなど香りを楽しめる植栽を配し自然の恵みを享受する。</p> <p>●区実施「港北オープンガーデン」へ継続参加しガーデンへの来館者を増やす。</p>
<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>●建物の位置がわかりづらく、現在の活動がほぼ室内に終始していることで、屋外での活動メニューや、自然を対象とした創作活動等に関心を持つ声が高まっている。地区センターやケアプラザまでは坂道が多く、高齢者には通にくい。町内会主催のサロンなども月1回で、その機会を補完する機能が期待されている。</p> <p>●長く居住し地域愛の深い篠原地区はボランティア意欲のある方が多い。既に子どもの見守りはもとより、ガーデンの維持活動を希望するボランティアも多くその方々の意見も今回の助成申請作りの大きな後押しになっている。</p> <p>●一方で、来所する高齢者から、アプローチの階段に手すりがなく、カーポートの不透明な屋根で、光が入りにくく足元が見えないため、移動に不安があるという声が多数聞かれている。実際に来所できなくなってしまった高齢者が何人もいた。</p> <p>●加えて来館者数の増加により、日によっては室内の人数が多くなり、もったのびのび快適に過ごせるようにガーデンの活用への期待が高まっている。コロナ禍はそれに拍車をかけている。</p> <p>●現在は生垣が繁茂し、外からガーデンや室内が見えにくく、「何をやっているのかわからない」という理由で帰ってしまう人もいと聞く。</p> <p>●ガーデンは、施設と地域との接点として、きわめて大きな役割を果たすことが出来ると考えている。子育て支援や多世代交流が地域へ広がっていく窓口とし、活動を次のステージに進めていきたいと考えている。</p> <p>以上のことから、地域に対してガーデンを大きく拓き、地域の人たちが入りやすく、関わりやすい、ガーデンコミュニティが必要と考えた。</p>
<p>整備プロセス (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>【令和5年4～6月】基盤整備 造成・舗装・給排水設備 協力体制：スロープに埋め込む手作りタイルを子どもたちと作成。伐採したツゲの木で箸を作るなど、記念品、マルシェに生かせるグッズづくり。木製加工品を地域作業所の協力で製品化。</p> <p>【令和5年9～12月】植栽整備 植樹祭、DIYでの花壇づくり 協力体制：緑の協会からの花苗の提供を受ける、中低木の植樹や植えるのにはスペース利用団体と協働する。シンボルツリーは地域の式典で植える。</p> <p>●費用削減の工夫について：花壇のブロック工事や植栽整備などは、施工業者と相談し、出来る限りDIYで地域の方々と一緒に作る。より多くの方々に、ガーデン自分の場所として親しみを感じていただきたいと考えている。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するとき連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>●維持管理；草花類は定期的な花苗の植え替え。原っぱの芝刈り。中低木は自然由来の消毒薬による消毒(木酢液など)、剪定、収穫。高木は定期的剪定</p> <p>●担当；つくろう会メンバーが主に行うが、高木などの場合は職人に依頼する。</p> <p>●広報；イベント告知および協力者(ボランティア)の募集、活動報告については次のような手法を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広く一般に告知及び募集する際には主にSNS等の活用 ・活動報告書及びニュースレターは、町内会等に対しては事業の説明および掲示板への掲載。親子のつどいの広場など地域の子育て支援団体、地区社協デイサービス、地域のウォーキンググループ、地域連絡会などへは手渡し。日常的に連携のある4地域ケアプラザ(篠原・城郷小机・大豆戸・六角橋)へはメールおよび手渡しによる依頼を考えている。 <p>●運営維持費の安定的確保のための手立て；定期的なガーデンマルシェ、地域をめぐるスタンプラリー、駄菓子販売、ファームの貸与等、またイベントやワークショップ等の参加費等も維持費に充当する。地域農家からの産直品の提供があり、年4回程度ガーデンマルシェは継続して行い、活動資金を集めていく。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。

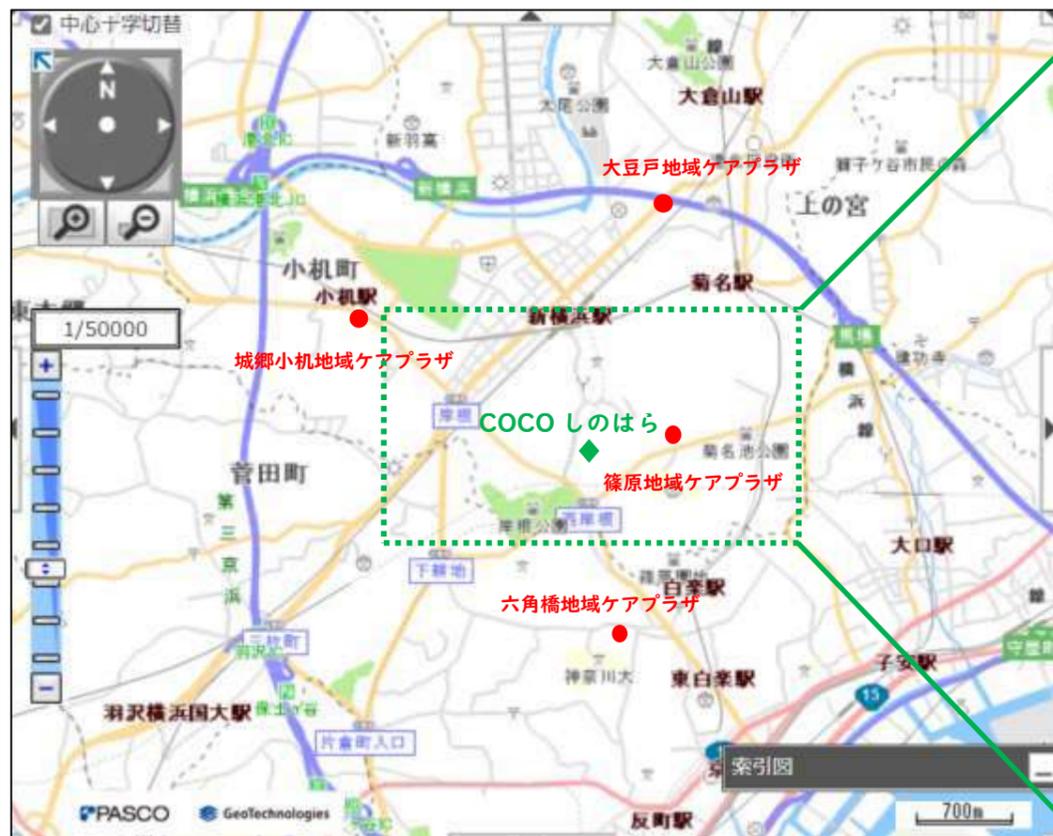
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
 ○「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう

<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</p>	<p>【7月】1次コンテスト終了後、振り返りと今後についてミーティング実施 【8月】ボランティアや利用者に対してアンケートを実施。現地見学会に参加。 【9月】活動助成金申請、活動懇談会参加。まちづくりコーディネーター 奥村玄氏と契約。瓦版1号作成、篠原町内会全域に瓦版の配布と地区掲示板への貼付。地域新聞「タウンニュース」に掲載。ガーデンマルシェにて音楽イベント、地域説明会を実施。音楽イベントでの音の影響について調査。専門家から模型作成のアドバイスをもらう。 【10月】瓦版2号発行、周囲へポスティング。つくろう会のメンバーで戸塚「ちえのわチュンチュンカフェ」と世田谷区「岡さんの家」を見学。ガーデンマルシェでボードアンケート、音楽イベント、バザー、地域説明会を実施。参加者で模型を作成。建築業者・造園業者との打ち合わせを実施。 【11月】瓦版3号発行、周囲へポスティング。10月と同様にガーデンマルシェ実施。ガーデンを整備に関し、専門家を招いて様々な教示を受ける。 ●つくろう会のメンバーとのミーティングは毎週木曜定例に実施。それ以外に必要なに応じて夜オンラインで行った。近隣への訪問も継続実施。 【12月】近隣の学校等（しのはら幼稚園、篠原西小学校）へ活動へのご理解とご協力をいただくために説明に伺う予定。</p>
<p>関係者の合意・調整状況 （地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください）</p>	<p>●地権者：説明済み。高齢者や障がい者にもやさしい出入口・スロープ・誰もが楽しめるガーデンの整備について説明を行い、改めて了承を得た。 ●町内会：7月説明済み。ガーデンを整備することについては了承を得た。町内会の回覧板に「COCOしのはら通信」を入れる、瓦版を掲示板に貼るなど、活動への協力に合意を得た。 ●篠原地域ケアプラザ：「COCOしのはら地域連絡会」に2度参加を依頼。COCOしのはらのガーデンに何を期待するかなど意見を頂く場を設けた。 ●地域住民：9、10、11月のガーデンマルシェにて住民説明会を実施。周辺住民には個別に訪問した。単身者アパートも多く、会えない場合もチラシをポスティングするなどし、合意を得るための活動は続けている。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>今回のまち普請コンテスト1次から2次のプロセスで、審査員各位、まちづくりコーディネーター、施設利用者、アンケート回答者、地域住民等の方々の様々な見識に出会うことができ、トライして良かったと感じた。なぜならガーデンが地域と建物を繋ぐ魅力的な空間として生まれ変わると共に、ガーデンには四季折々の自然や人々との豊かな触れ合いをもたらしてくれることをはじめ、『農家の屋敷林』のように暮らしに役立つ植物を身近に配置するという役割もあれば、『半屋外空間』として外と内を緩やかにつなぐ機能を持っていたことに気付かされた。多様な可能性に満ちている「つくり続けるガーデンコミュニティ」としてその理念を追求していきたい。</p>
<p>目指す地域の将来像 （施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください）</p>	<p>今回の整備により、ガーデンが飛躍的に進化、改善することで、今よりはるかに発見と交流と経験が増えていく。「多世代の人・多様な生き物」に触れることとなり、心身共に安らぎを育む力は、ガーデンが持ち合わせる自然環境がもたらす最大の成果である。広大な野原ではなく一軒家の原っぱであるからこそ、いつも誰かの温かい目が届く安心感。ここでこのような心地よい距離感をもたらすスケールが、COCOしのはらのガーデンコミュニティの魅力である。ガーデンでの出会いと声の掛け合いが、まち中どの場所でも続く安心な地域づくりのインパクトとなることを目指していく。</p>

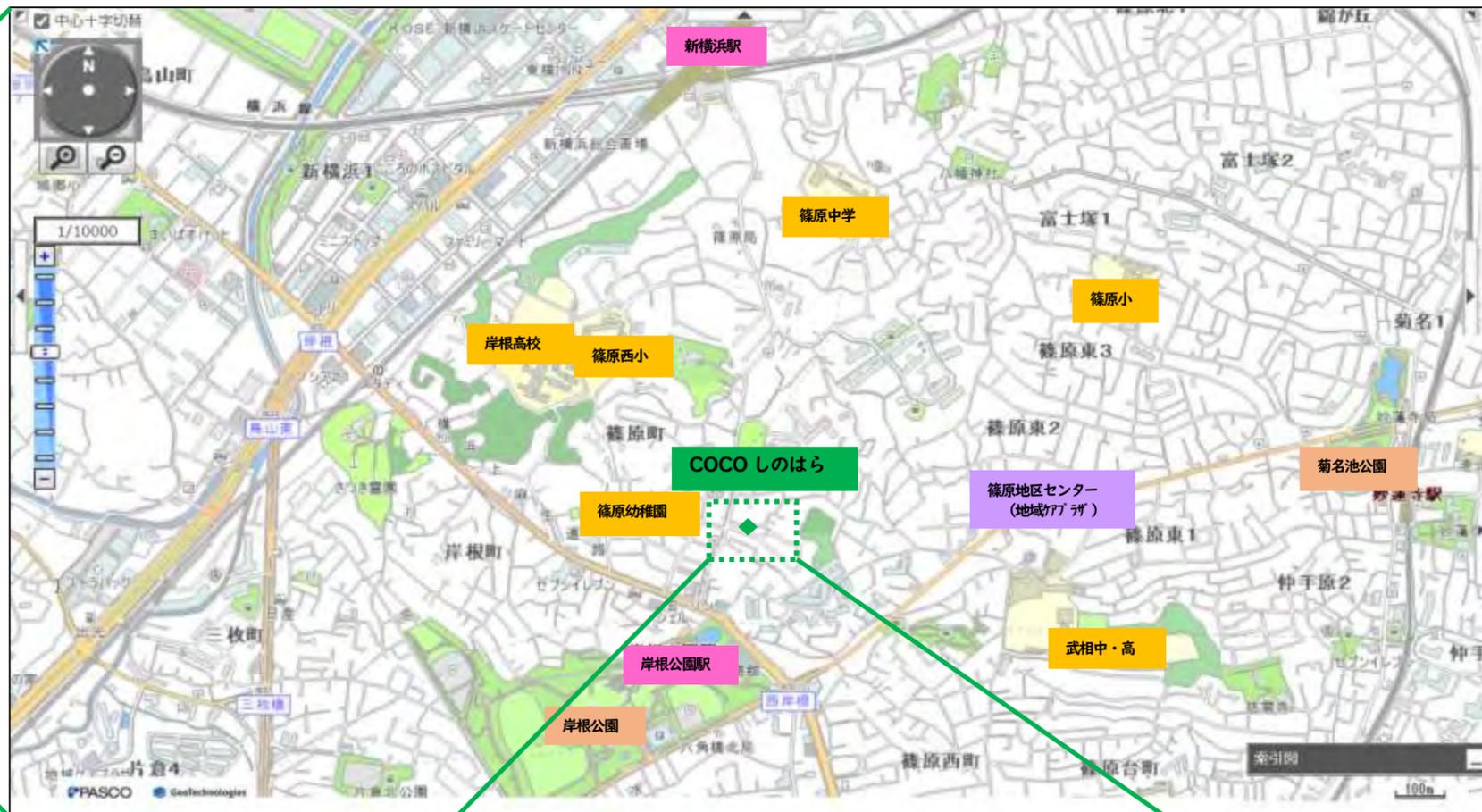
記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
 内容に個人情報はありません。

位置図(横浜市行政地図情報提供システム iマッピーより)



↑ 周囲の地域ケアプラザと COCO しのはらの位置関係 ↑



↑ 周辺の学校及び施設・公共交通機関の駅と COCO しのはらの位置関係 ↑

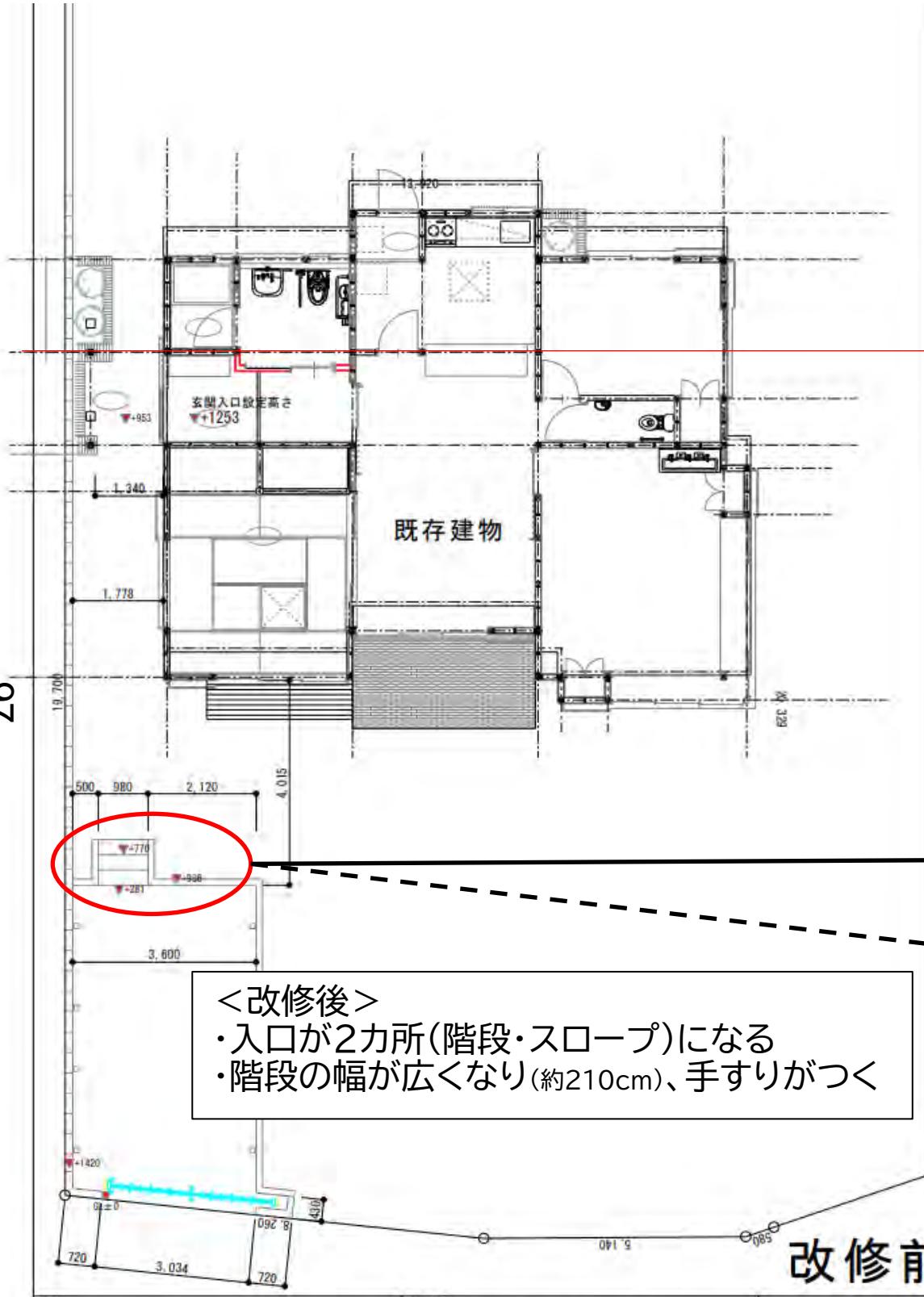
96

COCO しのはら (横浜市港北区岸根町 1077)
 岸根公園より・・・徒歩5分
 新横浜駅(篠原口)より・・・徒歩15分

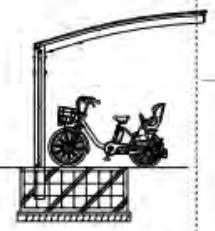


平面図

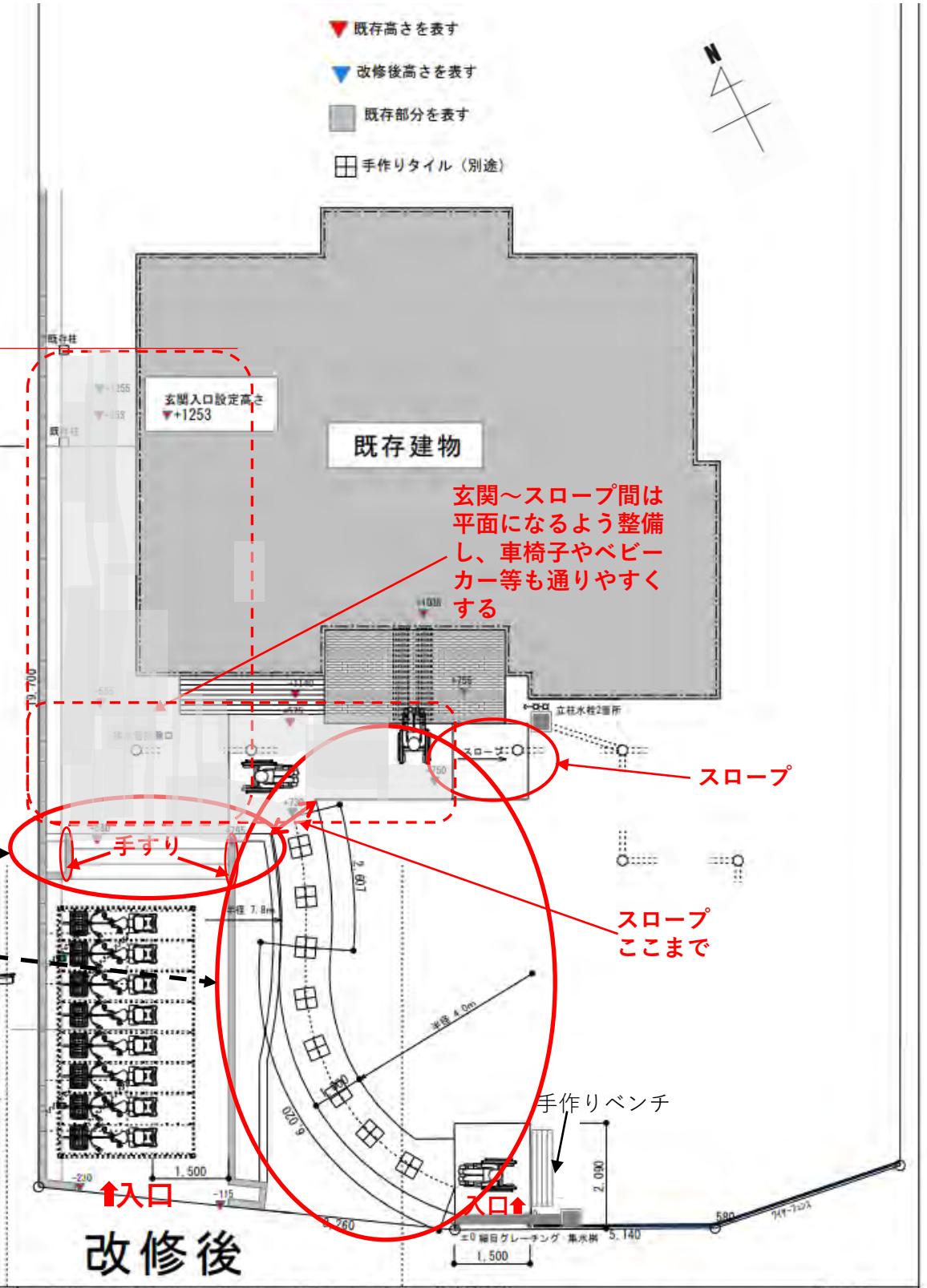
97



<改修後>
 ・入口が2カ所(階段・スロープ)になる
 ・階段の幅が広くなり(約210cm)、手すりがつく



改修前



改修後

注記	工事名称	しのはら外構計画	製図担当者	承認	図面名称	1階平面図・配置図	図面番号
	工事番号				作成日	2022.11.8	縮尺 1/100

完成予想図



模型(建物側から)



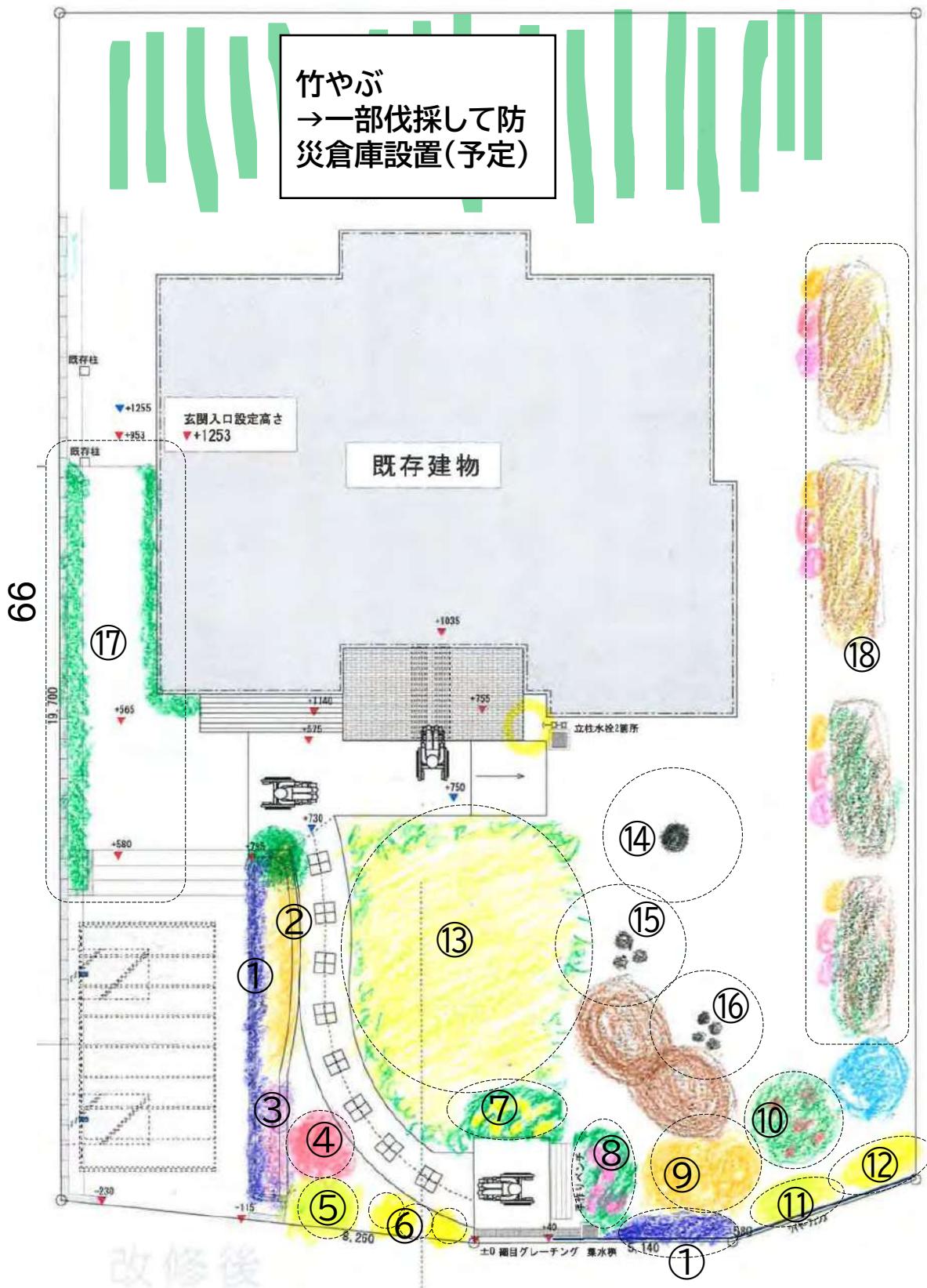
模型(ガレージ側から)



模型(道路側から)



植栽計画図



植栽予定一覧

①ブラックベリー
→子どもたちの摘み取る
楽しみ



②季節の花壇



③ラベンダー



④梅
→季節の梅仕事



⑤ジューンベリー



⑥レモン
→取れたてレモンで
自家製
レモネード



⑦キンモクセイ
→香りで季節を感じる



⑧沈丁花
→香りで
季節を
感じる



⑨モミジ
→紅葉狩り



⑩センダン
→花や実を楽しむ



⑪フウセンカズラ
→子どもの遊びに



⑫モッコウバラ
→外から目で楽しむ



⑬原っぱ (シロツメク
サ他雑草)



⑭⑮⑯シンボルツリー
(ネズミモチ)
→現存のまま残す



⑰アプローチ左右の
グラウンドカバー
(リュウノヒゲなど)
→雨水を逃がし、雨
でも歩きやすい道に
する



⑱ポタジェ
→畑の脇に花
を植え、花と畑
を両方楽しむ



ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
駐輪場工事	解体・補修 サイクルポート設置	1式	980,500	980,500	
階段工事		1式	353,500	353,500	
スロープ・土間工事		1式	853,500	853,500	
花壇ブロック工事		1式	412,000	412,000	経費削減の工夫：DIYが得意なつくろう会のメンバーの力を借り花壇ブロック設置を行う。のべ10人程度、2日間を想定
給排水・集水桝工事		1式	337,000	337,000	
造園工事	伐採、伐根 剪定作業 植栽工事 土壌改良 重機工事	1式	1,838,500	1,838,500	経費削減の工夫：重機の入る作業以外で、樹木の植え替え等作業は、職人さんの指導の元、つくろう会のメンバーも手伝う。のべ20人程度、3日間を想定
仮設工事	墨だし・やり方、安全費、警備費	1式	130,000	130,000	
運搬費・諸経費		1式	582,765	582,765	
消費税			771,235	771,235	
合 計				6,259,000	

<一次コンテスト以降の活動内容>

◆関係各所への説明(8~11月)

地域連絡会にて、児童委員、篠原ケアプラザ、民生委員、町内会へ説明を行い、理解を求めた。また連合町内会へ説明に伺った。

◆住民説明会／近隣住民への個別説明(9~11月)

ガーデンマルシェに合わせ、住民説明会を実施。理解と応援をいただいた。また近隣住民へも個別にお伺いし、説明を行った。



◆タウンニュース掲載

(2022年9月1日号)

タウンニュースから取材を受け、COCOLしのはらガーデンコミュニティと一次コンテスト通過について掲載していただいた。



◆ガーデンマルシェ・野外音楽会の開催(9~11月)

ガーデンマルシェを毎月実施。のべ100人近い方に来場いただいている。また、野外音楽会を実施し、野外イベントを行った際の音の影響等を調査した。



◆ワークショップ・アンケート実施(8~10月)

つくりたい庭の模型をイベント参加者と一緒に作成した。また、庭でやりたいことのアンケートを実施。庭で行う事へのニーズや色々な意見をいただいた。



木立がきれいで気持ちいい

階段をスロープにしてほしい(複数)

木登りができるところが好き

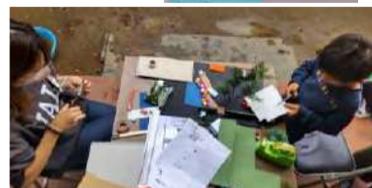
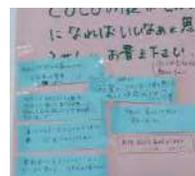
コスモスを植えてほしい

入口の階段が狭い所を改善出来たらいい

水はけが悪くすべりやすいので、安心してお水遊びができるようになるといいな

電動車椅子もストレッチャーでも、少し立ち寄って休める場所があるといい

外でランチやカフェを食べたいなあ



◆地域住民へ向けたニュースレター(「まち普請NEWS瓦版」)の定期発行(月1回)

近隣住民等への周知と理解をいただくための通信を発行し、近隣住民へ配布を行った。(11月時点でNo.3まで発行。今後も発行を継続)



◆定期的な「COCOLしのはらガーデンコミュニティをつくろう会」の開催(毎月2~3回)

つくろう会メンバーでの定期的な会議を実施し、互いの意見交換やアイデア出し、将来像の検討等を行った。



◆地域の専門家から助言いただく(9~11月)

地域の施工設計者、造園関係者、剪定業者やまちCOよりご紹介いただいた庭園専門家・バリアフリー専門家から助言をいただき、植栽や生物が寄りつく庭づくりや屋内含めたバリアフリー環境について様々な意見をいただいた。



◆現地見学会・活動懇談会への参加(8~9月)／個別施設見学会の実施(10月)

現地見学会・活動懇談会参加し、まち普請の先輩方から具体的なアドバイスをいただいた。また、つくろう会メンバーとともに同様の他施設への視察を行い、整備やコミュニティの形成、運営面等の具体的なお話を伺った。

建物からガーデンへ！ ガーデンからまちへ！

COCOしのはらガーデンコミュニティ

「顔の見える関係性」で誰もが安心する多世代交流ガーデンコミュニティ

改修前



- ・外から見えなく、何をしているのかわからない・・・
- ・階段が狭く、高齢者の昇降が大変
- ・水はけが悪く、滑りやすくて歩く時に危険

CHANGE!



ガーデンで四季を楽しむ
皆で楽しむ

◆ COCOしの四季ごよみ ◆

	通年	春	夏	秋	冬
COCO ドア	木登り 芝生でヨガ COCOラジオ体操 外カフェ・ペット可 防災ストープ料理 食育ピクニック 縄跳び・紙ヒコキ	お花見 フラワーアレンジメント ラベンダーポプリ作り	水遊び ビニールプール ハンモック キャンピング体験	紅葉狩り キャンドルナイト 焼き芋 郷土料理の会 (芋煮会、せんべい 汁) どんぐり工作	地域お餅つき 雪合戦 雪だるま ドローン飛ばす会 Xmas、お正月工作
COCO オン ステージ	尺八コンサート ダンス発表会 誰でも飛び入り披露歓迎	ウクレレコンサート コーラス	民謡コンサート 薩摩琵琶コンサート	弦楽器コンサート ピアノ・歌のお話会	クリスマスコンサート
COCO ファーム	畑クラブ (ちいきの地区に伝授 してもらう) 高齢者・単身者向け!品おがず 育てた苗を持って近所のお散歩 (子どもたち) マルシェで野菜販売	夏野菜種まき ハンギングバスケット講座	夏野菜収穫・夏野菜料理 の会 (カレー・ピクル ス)	ハロウィンかぼちゃ工作	七草がゆday

- <原っぱで>
- ・虫探し、花冠、ごろんと
 - 「これは何の虫?」
 - ・机イスでカフェ&ご
ざを敷いてお弁当
 - 「お互い美味しいね」
 - ・外イベント(プレミアム
ムナイト)
 - ・四季のイベント(お餅
つき、甘酒飲もう!、
お花見観梅紅葉狩り、
花火、お月見)

- <畑で>
- ・大人と子どもと一緒に植え&草取り
 - 「虫が出てきた!」
 - ・収穫作業
 - 「この野菜でランチ作って!」
 - 「ここのトマトなら食べれるの!」

- <木で>
- ・ハンモックでゆらゆら
 - ・木登り競争!
 - ・おじいちゃんとかくれん
ぼ 「どーこだ?」
 - ・木の周りを競争だ!
 - 「お母さんはここでまっ
てて!」
 - ・巣箱を作ってかけて観察
会
 - 「あの鳥は何かなあ」



- <植物>
- ・お花やフウセンカズ
ラでおままごと
 - 「おばあちゃんはお
きゃくさまね!」



- <ガレージ>
- ・階段整備
 - 「広くなって手すりも
あって来やすくなったわ」

- <ブラックベリー>
- ・摘み取り
 - 「お母さん実がなってる
よ!」



- <実のなる木>
- ・花~実のなるわくわく
 - 「実が大きくなってきたね」
 - ・収穫イベント
 - 「これで梅ジュースやケーキを作ろう!」



- <外の道>
- ・ご近所さん
 - 「楽しそう...入りやす
くなったわ」
 - ・庭の人と
 - 「お花が綺麗ですね」
 - ・まいにちマルシェ
 - 「買ってお話できて楽し
いわ」



そしてガーデンから外へ...

篠原のまちの中で



- 「COCOしのはらで会ったね!」
- 「元気かな? いってらっしゃい!」

- <スロープ>
- ・車椅子やベビーカーの方も
 - 「子が寝てるからベビーカーの
まま入れて助かるわ」
 - 「車椅子でも入って過ごせる!」
 - ・ワークショップ
 - 「皆でスロープにタイルを埋めよ
うよ!」

- <ベンチ>
- ・散歩の人
 - 「休憩したい...ベンチで休めて助かるわ」
 - ・近所の人
 - 「何やってるのかしら...今度入ってみよう!」

COCOLのガーデンで何したい？ アンケート実施

(10/22ガーデンマルシェにて)

アンケートの結果、季節ならではのイベントや外での食イベント、子どもとの外ならではの遊びなど、ガーデンや外を通じたコミュニケーションを皆さんが求めていることを実感しました。防災についても意識が高く、有事の際の防災拠点としての役割も求められていると感じました。



〇COCOLのガーデンで何をしたい？

	割合
お花見・紅葉狩り	19.7%
食育ピクニック	11.8%
外遊び (木登り/なわとび/紙飛行機など)	11.8%
防災・アウトドア	11.8%
おにぎり・サンドイッチ をつくろう♪	10.5%
体操・外ヨガ	7.9%
お花のアレンジメント	9.2%
外でカフェ	9.2%
産直野菜の販売	7.9%

ガーデンを整備し、新たな仲間とともに、様々な活動を通してガーデンコミュニティを育てていきます！

COCOLの outdoor COCOドア

アウトドアクッキングや遊びの交流、青空体操や災害時の各種ワークショップを通じて、いつでもオープンCOCOLのドア！

地域住民出番プロジェクト COCO オンステージ

舞台とガーデンを使って表現活動一人ひとりが主役に！

つくるはたのしい、たべるはたのしい COCOファーム

作物づくりで地域の人に関わり、オリジナル(COCOLの)印の開発・販売・マルシェで対人販売春夏秋冬を実感COCOLの四季こよみ！

(活動のイメージ)



情報発信・町内会等関係各所との協力体制

〇つくろう会LINEオープンチャットを開設。タイムリー＆双方向なチャットで『皆でつくる』ガーデンコミュニティの関係性を築きます(今後は公式LINEアカウント開設を検討中)



〇町内会やケアプラザ、地域連絡会等など地域の組織と連携し、地域を支える協力体制を引き続き構築していきます。



〇定期的なニュースレター(「瓦版」)やSNS等で情報発信を行い、さらなるガーデンコミュニティの周知や参加へのきっかけ作りを行います。

まち普請コンテスト応募を通じてできた関わり

参加者の学生さんが完成予想図を作ってくれました(作成途中の図)



ニュースレターをきっかけに、活動に加わってくださる方や野菜を提供くださる方が増えました

ワークショップではおとなと子どもが協力して、マルシェ棚を色とりどりに塗ってくれました。



野外音楽会の演奏者が披露の場ができたこと喜んで足を運ぶようになってくれました



活動を通じて、協力者同士や協力者と新たな仲間の繋がりが生まれました

個別見学に伺った施設の方が、ぜひ見学したいとCOCOLのはらにも足を運んでくださいました



また、これまではできなかった掲示板へのニュースレター貼付を許可していただくなど、町内会などの協力体制が強化されました

収支予算書・ ガーデンスケジュール

<収支予算案>

収入		
音楽・映像イベント	参加費500円×20人×3回	30,000
ワークショップ	参加費500円×20人×3回	30,000
ガーデンマルシェ	バザー売上	120,000
マルシェ棚	産直野菜、駄菓子等	336,000
レンタルファーム	500円/月×4区画	24,000
		540,000

支出		
宣伝チラシ印刷	15円/枚×80枚×12か月	14,400
消耗品	花苗、野菜苗 5000円/月	60,000
消耗品	土・肥料 5000円/月	60,000
消耗品	紙・文具等 1000円/月	12,000
水道光熱費	水道料 2000円/月	24,000
マルシェ仕入れ	産直野菜(JA) 駄菓子	235,200
曜日担当ボラ交通費	300円/日	86,400
イベント準備	4000円×3回	12,000
ワークショップ材料費	4000円×3回	12,000
その他雑費		24,000
		540,000

〇 ガーデンスケジュール 〇

毎日 ~ 毎週	月1~2回	2~3か月に1回	不定期
マルシェ棚販売	ガーデンマルシェ	COCOステージ	プレミアムナイト
ガーデンカフェ	のびのび体操	アウトドア防災訓練	季節の行事(観梅会、COCOLの畑)
ワークショップ	自然散策の会	お餅つき、etc	
庭遊び、散策、休憩、お話し、etc	駄菓子屋さん 昔遊びの会		

2次コンテスト事前質問集

【提案名（グループ名）】	
まるっとゆるっとCOCOしのガーデンコミュニティ （COCOしのはらガーデンコミュニティをつくろう会）	
事前質問	回答欄
（朝比奈委員）	
①たとえば、近隣の庭で増えた草花の株や種のお裾分け、コンポストを使った腐葉土づくりなど既存の資源をいかす工夫はないでしょうか。つながりづくりやまちの景観の形成、コスト削減にもなると思います。	コンポストは既に導入しており最低限の資源の活用を試みています。花苗や株や種のおすそ分けについては計画をしています。地域の方からも期待を受けています。非常に貴重なご意見かと思えます。
（飯尾委員）	
①樹木は思いの外成長するので、十分見越して植栽を計画していますか。	今回提案の「四季暦」の作成含めて、コーディネーターだけでなく、造園会社の方や植栽の専門家の方々のご意見を伺いながら勉強して検討し、計画を立てきました。
②花壇や植え込み、野菜は、毎年費用がかかります。工夫点があればお知らせください。	地元町内会からのご寄付や種苗会社からの種や苗の提供、造園、造成については運営委員メンバーにも入っている区内の果樹園のオーナーなどの協力がこの度の申請を機に継続的に得られることになりました。
（植松委員）	
①収支予算書・ガーデンスケジュールを拝見しますと、ガーデンマルシェのバザー売り上げ、マルシェ棚の産直野菜、駄菓子等の収入が大きく、マルシェの仕入れの産直野菜や駄菓子の買い入れが大きな支出となっています。これらのための多くの来訪者の受け入れが可能な庭の改修が、今回の事業の主眼なのでしょう。だとすると、季節ならではのイベン	今回の事業の主眼は多くの来訪者を受け入れるためではありますが、整備することによって動線やコーナーの機能がより発揮されることで多くの人数で混乱することがないように環境づくりを意識しています。マルシェや駄菓子はイベントの際の見込みを記載しています。 事業としては子どもたちの外遊びにより多くの人たちに関わってもらえること、

<p>トや、子ども達の外ならではの遊びのスペースは後退してしまう恐れはないでしょうか。</p>	<p>イベント開催がより来場者を「お客さん」とせず主体性もって関わってもらえることも目的としています。そのためにより持続可能な活動になるよう、参画意欲を高める上での収支状況も検討していきたいと思っています。</p>
<p>②車椅子乗り入れのために、大きく育った柘植の木を複数本伐採する、とのことで、やむなしとは言えちょっともったいない気もします。現在自転車置き場のスペースとして確保されている車庫部分に長めのスロープを築くことで車椅子を乗り入れ可能とすることは難しいでしょうか。</p>	<p>植栽関係者から柘植の木の生態系も聴きながら判断しています。株立ちとしての伐採なのですべてが無くなるわけではないことと、「創りつづけるガーデンとコミュニティ」として、他の植栽への日当たりを最大限考慮しています。シンボルツリーは残しつつ、まずは現行の計画を実現するために、木の増生を待つということも1つの創り続ける価値に充当すると思っています。</p> <p>伐採した木の再利用も考えており（箸やコースター、造形作品などにする）、そのプロセスがつくるを好む新たな人を呼ぶことに繋がるなど、木がそこにあった意味や交流を生み出す可能性を大事にしていきたいと思っています。</p> <p>また提案メインのスロープは車椅子対応のためだけでなく、杖使用者、足腰弱くなった高齢者、また興味関心で駆け寄る子どもたちの好奇心を促進するものとして、周囲の植物で迎え入れながらアクセスしやすいアプローチであることを重視しています。</p>
<p>③先日伺った時も、木漏れ日の降り注ぐ素晴らしい空間でしたが、芝生を健全に育成しようとする、かなりの手間（養生・日光・水やり・雑草の刈り取り）が必要となります。寧ろ子ども達がごろりと横になることも出来ない時期があるものと思われそうですが、その辺りは大丈夫でしょうか。</p>	<p>視察時には「芝生」という表現でしたが基本的には管理や子どもの利用も考慮し、「野芝＝原っぱ」と置き換えてあえて雑草を入れていきます。またこの草を入れるのは今回の最大の悩みであった泥や砂の流れ出しを防ぐために若干の造成を施し、水はけを改善するためです。日照の加減も伐根伐採の兼ね合いで調整しています。木漏</p>

	<p>れ日の確保と野芝との養生の兼ね合いを調整しながら見ながら育てていくというプロセスこそ継続的な手間として人的な協力体制をもたらすと考えています。</p>
(加藤委員)	
<p>①今の活動からの発展性（新規性）をもう少し知りたいです。</p>	<p>「地域の生涯学習的な拠り所」になりうると思っています。</p> <p>地域のケアプラザなどの公的な資源と近隣にあるデイサービスなどの民間の資源との中間の機能を持ち、また、地域の中で時に誰かのために動ける、逆に誰かに助けてもらう、共助の関係を育める地域の中間支援的な居場所になることをPRしていきたい。通ってくる高齢者もサービスを受けることよりまだ自分は何かをやりたいという要望が高い方々であり、施設に通う、お世話になるというイメージではなく、隣近所のお世話をしたり、この場に来ることが遊びに来た、たまたま寄ってみた、というフラットな関係性を求めていることを感じている。</p> <p>5年間のこれまでの活動歴があって初めて次のステージが自信をもって発信できそうです。</p> <p>次のステージとは屋内空間で育まれた交流による出会いや絆を半屋外空間でより広範囲に拡大し、交流や声かけがより自然により能動的に促されるような出会いのチャンネルにガーデンの力、要素を入れていくというものでまさにそれが発展性と位置付けています。</p>
<p>②ガーデンが、極めて大きな役割を果たす、その理由を具体的に伺いたいです。（既存の建物と庭をDIYで工夫することでは代替できない、ガーデン特有の役割）</p>	<p>ガーデンの魅力再生についてはこれまで利用者からたくさんの要望が寄せられてきました。提案書最後に記述したように、巷の街区公園とは違い、目の届く範囲で、半屋外空間を通じてガーデンに連続的につながっていける空間とすることで、ガ</p>

	<p>ーデンから運ぶ植物もあれば、運び込まれる植物もあり、地域の人々の善意がガーデンの土に根づく交流に繋がる可能性があります。こうしたガーデンの持つ可能性を引き出していきたいです。人の影がおのずと見える、聴こえるという環境になることで、通りすがりの人々への五感に働きかけ、また作り続けるという長期スパンの中で植物や生き物の成長と地域の再生をremixしていける新たなモデルとしての役割があるのではと感じています。</p>
(川原委員)	
<p>①植栽計画図⑦のキンモクセイは、比較的大きくなり、葉も密で庭の中を見せたくない意図で生け垣にも使う木です。将来的に⑬原っぱに強い影をつくってしまうでしょうし、通りから庭を見通せるようにしたいのであれば適さないと思います。香りは少し遠くても楽しめるので、庭の隅、日当たりの良いところに置く（花がちゃんと咲くように）と良いと思います。</p>	<p>ご意見を参考にしてその配置については考慮していきたいと思います。貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>入口からダイレクトに室内が丸見えになるより、1クッション置くつもりであえて計画をしたことと、香りを最重要視した結果となっています。整備後は定期的な伐採管理の仕方も含めて「創り続けるガーデン」と考えています。</p>
<p>②植栽計画図⑭から⑯のネズミモチの足元も大事な計画範囲だと思います。今のままで不都合はないのかを検討されているでしょうか。植栽計画は、高木だけでなく足元の作り方、根回りの守り方も大事です。造園の専門家との丁寧な協議をしてきているか、活用できる庭とするための定期的な手入れの仕方を協議しているかを教えてください。</p>	<p>ネズミモチの木の扱いについては3者の植栽専門家にアドバイスを求めたところ株立ちの特長を活かして、様子を見ながら徐々に伐採していこうと考えています。</p> <p>ハンモック用や木上り遊びの確保など調整をしながら伐採については考え、根から葉付きまでの円型の採寸もしながら丁寧に造園関係者と何度も図面を引きながら検討していきます。</p> <p>定期的な手入れについても専門業者を入れる頻度とボランティア等でできる手入れとを協議しながら理想的なガーデン仕様になるよう努めていきます。</p>
<p>③増額方向になりますが、車椅子スロープの安全性や、ライトアップを楽しむため</p>	<p>車椅子の動線と入室可能なアプローチの実験は実際の車椅子で実証実験を行い、</p>

<p>にも、照明や屋外コンセントの設置を検討してきたかを教えてください。</p>	<p>安全性を確認しています。後々は車椅子対応についてのユニバーサルデザインも大家と協議の上前向きに進めていきたいと思っています。照明計画についても入口アプローチの照明は太陽光蓄電のものを導入するなど、検討の中に入れていきます。ご質問を機に学生のアイディアを借りて夜間イルミネーションにトライしてみることも考えます。イベント時の対応については（テラスや車庫にある）既存の屋外コンセントでスポットライトや提灯などで対応する予定です。</p>
<p>(杉崎委員)</p>	
<p>① 駐輪場の整備が新たな活動を生み出すことに貢献するでしょうか。</p>	<p>現在、駐輪スペースは庭と分断され暗いスペースだったので、透過性高い車庫にすることで、明るくなり、壁になっていた柵植も整備することで、人の歩く動線が庭に接することで、駐輪スペースにいる人が庭の一部にいるような感覚になることを意図しています。屋根を透明にすることで青空も一緒に共有できますし、ガレージでもマルシェ棚を置くなど、野菜を販売することもできます。安全性を確保しながらフリーで自由に往来、遊び、交流できる空間とします。自転車での来館はとて多いので、この整備はとて喜ばれると思われま</p>
<p>(後藤委員)</p>	
<p>① 500 万円を超過する部分はどのように賄いますか。</p>	<p>認定 NPO 法人として毎年寄付キャンペーンをしている中で、指定寄付として本整備への補助補填として充当する、合わせて民間助成金などに申請していくことも検討。またマルシェ活動を通じて目標設定してその収益を充当していく等で賄う予定です。</p>
<p>② 現地を見学させていただいた際、すでに素敵なお庭ができているように感じたのですが、今回の改修案作成におい</p>	<p>室内空間が保持されているところでの、今回の整備はガーデンの魅力がもっと引き出されるだろうと思っています。</p>

<p>て、重視したことは何でしょうか。</p>	<p>これまでの活動で来られた方々が口々に伝えてきてくれた地域ニーズ、「ここにきている子育て家庭のような若い人達をもっと地域イベントにも顔出しして欲しい」とか「子どもが外でもっと遊べる時間を保障してあげたい」「四季折々の植物を育て上げて愛でたい」「畑に植えるものをもっと増やしたい」「採取した植物を・・・」などに応じるための種（要素）をいくつかの改修案として大胆かつ大幅な整備提案させていただきます。地域に飛び出していく交流の次なるステージへの挑戦です。</p> <p>障がいを持つ人や体力減退したような高齢者がもっと来られるような環境、これは今回の整備によって絶対的かつ大々的に改変します。</p> <p>さらに「創り続けるガーデンコミュニティ」を意識しているので、生物、植物、植栽などそこに携わる人も含めてすべてが生きるものとして、このガーデンで交流し、成長し続けられることを最も重視して提案の基盤としてきました。</p>
<p>（松村委員）</p>	
<p>① 建物とガーデンを一体的に活用する具体的な計画として、どのようなものがありますか。</p>	<p>まずはデッキや縁側の活用です。これまでも縁側は想定以上の活用をされてきたことから今回の半屋外空間の可能性を感じてきました。</p> <p>庭の演出イベントを室内から鑑賞する、またはその逆も考えられ、用途や天候、季節によって</p> <p>双方の活用が柔軟に計画できると予想しています。</p>
<p>② 植栽計画でもっとも大事にしたいこと、守りたいことは何でしょうか。</p>	<p>「人も花苗も木々も収穫物も、一緒に創り続けるガーデンコミュニティ」のコンセプトを大事にしています。木々や花、そこに宿る生物や虫などの生態系や成長を見守ることで植栽に携わる人との出会いを</p>

生み、ガーデンが成長して地域に浸透し循環していく。植栽計画に地域における共生が連動していけることをもっとも大事にしています。

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	てんこもりのわ
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	神奈川県松見町3丁目
提案名 (25字以内)	松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容 ^{※1} を工夫した点 ^{※2} にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>2017年春、近隣に住む幼児の子育て相談をされたことをきっかけに「てんこもりのわ」として活動を開始。主に乳幼児親子、高齢者が集える地域の居場所としてスタートしたが、施設への入りにくさ、中の様子が分かりにくい、部屋が仕切られているため交流が生まれにくいなど、多くの課題を抱えている。またメンバーの多くが町内会役員や民生委員・児童委員等も担うため、利用者以外の地域住民と話をする機会が多く、その際「ちょっとした困りごと」「寂しさ」「不自由さ」を聴くことが増えた。現在より多くの世代を超えた交流を増やすことにより、このような不安を解消できるのではないかと考えた。多くの人が出入りでき、多世代交流が自然に起きる施設になるよう提案をする。(下線部が整備箇所)</p> <p>■土間の新設 現在の門扉と塀、玄関を撤去し道路側に面しているリビングを土間に改修し、入りやすく中の様子が見えるようガラス扉にする。道路に面している出窓部分を出入り口にし、駐車場側の掃き出し窓はそのまま残しながら、そこからも出入りできるように整備する。土間が大きな玄関となり、その場に小箱ショップや情報棚を作り、靴のまま気軽に立ち寄れる場とする。小上がりではひと休み出来るような場を用意する。居間との仕切りは透過性のあるカーテンを取付け、部屋とのつながりを妨げないようにする。</p> <p>■施設の中心のお茶の間 1階の2部屋の間にある引き戸と間仕切り壁を撤去し、見通しの良い1部屋にする。多世代がどこにいてもお互いを感じながら過ごすことのできる、実家の『茶の間』のような居心地の良い場所にする。庭に面する部分にぬれ縁を新しく設置し憩いの場にする。</p> <p>■地域の台所(菓子製造許可キッチン) お茶の間に続く『台所』では、お母さんはもちろん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん等近所の方が季節の料理(例:たけのこ下処理や梅を漬ける)をし、それを教えてもらい、『料理』を通じて多世代交流が自然に発生できる安全な広いスペースを確保した台所に改修。交流のできる対面カウンターも設置する。近所の達人が「得意を披露」できるよう本格的なオープン等を設置し、出来た商品(菓子やパン)の一部を土間の小箱ショップで販売や料理教室ができる仕組みも作る。</p> <p>■安心して使えるトイレ・安全な階段へ改修 トイレは介助者も一緒に入れる広さを確保し、手洗い・手すりを設置し誰もが安心して使える場にする。階段は手すりをつけ、照明器具等で明るくなるよう工夫する。</p> <p>■シャワー室 現在のふろ場を撤去し、庭から直接行ける出入り口とシャワー室を新設する。</p> <p>■ブロック塀と庭の改修 現在あるブロック塀は鉄筋や控え壁がなく、いつ崩れてもおかしくない状態のため、安</p>

	<p>全なフェンスに整備。自転車置き場と庭の間に仕切りを設け、安全に交流できる庭にする。</p>
<p>施設の活用・活動内容</p> <p>(具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください)</p> <p>※第1次提案書より具体的に記入してください</p>	<p>『実家』に帰った時に、赤ちゃんからおじいちゃんまで、ひとつ屋根の下でわいわい賑やかに一緒に過ごすことのできる、多世代が顔をあわせる居場所にする。</p> <p>《居場所の日》火曜日・木曜日9:00～18:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流目的だけでなく、ゆっくりしたい、話を聴いてもらいたい、何も目的がなくてもフラットに行ける等、その人のニーズにあった誰でも来られる場にする。 ・今までは乳幼児親子とシニアの決まった人のリピート利用が多かったが、小学生・中高生から中間世代、どの世代の人もここに来られる事を知ってもらうため、定期的なプログラムやイベントを開催し、周知に努める。 ・見通しの良くなった茶の間では、子育ての話をし、先輩パパママの話が聞ける。シニアがお喋りや手仕事をする近くで、子ども達が遊んで過ごせる等、どの世代の人も寛げる場にする。 ・放課後子ども達が「ただいま」と帰ってきて、誰ともなく「おかえり」と迎える関係づくり。 ・中高生以上や仕事をする人が利用できるよう、2階をワークスペースとしてレンタルすることも検討。ホームページに利用状況やオンライン予約ができるようにする。 ・イベント土曜日(不定期)に開催。家ではできない「流しそうめん」や家族連れで参加のできる「音楽鑑賞会」など、世代を問わず参加のできる事を企画し、顔見知りを増やし居場所の利用につながるようにする。 <p>《町の達人の日》水曜日9:00～16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨガインストラクターやパン作りの達人、英語講師等、地域に様々な特技を持った人がいることが分かっている。その人たちの活躍の場となるよう、施設のレンタルをする。 ・そこに参加する人がてんこもりのわに興味を持ち、利用につながるきっかけにする。 ・地域の中で同じ目的を持った人達が集まることで、交流が広がり深まる。 <p>《シニアの日》金曜日9:00～16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度より「サービスB・通所型」の開設を予定している。近隣のお年寄りが、遠くのサービスを受けるのではなく、地域の中で自分たちが元気に支え合う時間にする。その際お昼ごはんを、料理の得意な達人に腕をふるってもらう。 ・「ぼっちゃっちゃ(ポッチャの後みんなでお茶を飲む)」「プランターで野菜作り」「折り紙」などシニアの来所のきっかけ・目的になるプログラムを提案する。 <p>以上のように、特に目的がなくても誰でもふらっと立ち寄り、目的のある人となない人がいつの間にか間接的に関わられるような環境を作ることで、顔見知りを増やし、施設以外でも挨拶やおしゃべりができ、お互いさまの関係が生まれることを大切にしていく。</p>
<p>提案の背景</p> <p>(なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)</p> <p>※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>松見町3丁目は静かな住宅街で商業施設がなく落ち着いた地域であり、親世代・子世代・孫世代の3世代が長く住み続ける家庭も多いため、昔ながらの顔の分かる関係も比較的残る地域である。しかし住宅地ゆえに、町内には大きな公園以外の施設はなく、そのため町内会館を除けば全ての屋内活動は各々の住宅内で完結させなければならぬ。その町内会館も山を跨いだ立地にあり、中は会議室仕様になっているため、利用できる人や目的は限られてしまう。またこの10年ほどで代替わりした家が多く、若い世代の転入が目立つが、短い期間で育休復帰する人が多いため地域住民とつながる機会は少ない。学齢期の親同士がつながるきっかけになっていた子供会活動も現在は最小限となり、長引くコロナ禍で町内会活動も制限があるため、近隣住民の交流の機会も少なくなってしまった。地域でとったアンケートからも、「まわりに相談や話をできる人がいない(少ない)」「近所づきあいがまるでない」「日中孤独を感じる」などの声が、どの世代からも多く寄せられた。家の中では難しいような活動に取り組める場所や、家の外で人と繋がれる気軽な居場所が求められている。</p>
<p>整備プロセス</p> <p>(スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出資・募金のお願い: 耐震費用(300万円)は地権者に援助のお願いをするほか、自己資金、地域住民や企業に出資依頼をする。 ■ 完成イメージ図を近隣のシニア建築士に依頼し今後も協力をいただく。 ■ 解体工事や土間工事、ぬれ縁の設置などは地域住民に声を掛け、イベントやワークショップとして開催し、地域住民との関りを作る。 ■ 応援してくれる地元の大工さんや、リフォーム会社に勤務する利用者に、中古のキッチンや什器の提供、廃材等支援の協力をいただく。 ■ 土間に設置する情報コーナーと小箱ショップの棚や、2階の改修はDIYが得意な地域の協力を得る。
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法</p> <p>(維持管理・運営</p>	<p>【スタッフ】運営は当初からのメンバー7名がメインで行う。1次審査通過後、協力を申し出てくれたメンバーには、プログラムやイベント時のボランティアのほか、運営にも参加してもらおう。より柔軟な運営ができるよう、さらに担い手を発掘し人材を探していく。</p> <p>【運営費】居場所として施設を利用する際には利用料(会員100円/1日、ビジター200円/1日)や年会費(1,000円)を徴収する。台所や各スペースをレンタルスペースとし利</p>

<p>するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>料金を徴収する。ほかにも、神奈川区社会福祉協議会のふれあい助成金と地区社協、町内会からの援助を得る。令和5年度はサービスB(見守り型)を開設予定。担当ケアプラザと連携をとりながら進めていく。 【広報】アンケートから、Instagramや掲示板から情報を得ている人が多いことが分かった。多くの世代に情報が届くよう、SNSと紙ベースの両方を使っていく。今までは不定期だった『てんこもりのわ通信』を月1回発行予定。今後ホームページも新たに開設予定(協力者あり)。また、メンバーがいつでもチラシを持ち歩き、直接声を掛けることで、この人がいるという安心感につながり、気軽に遊びに来られるよう周知に努める。</p>
------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

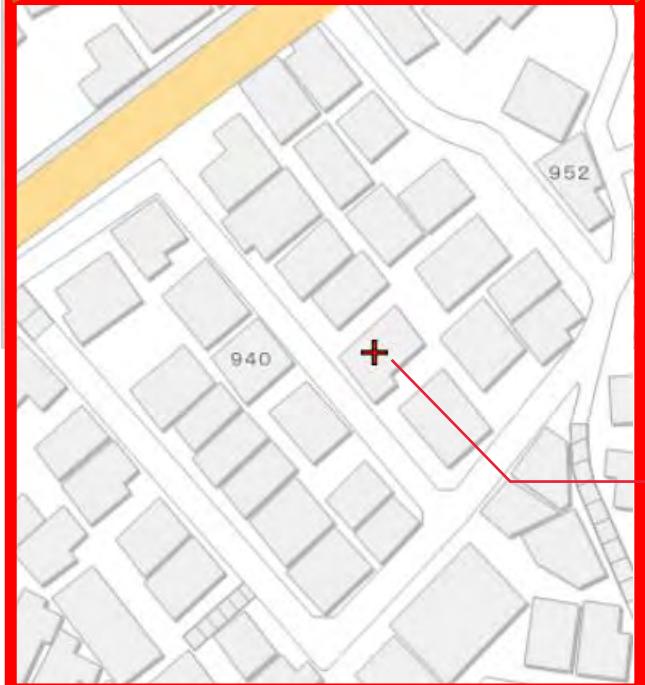
注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

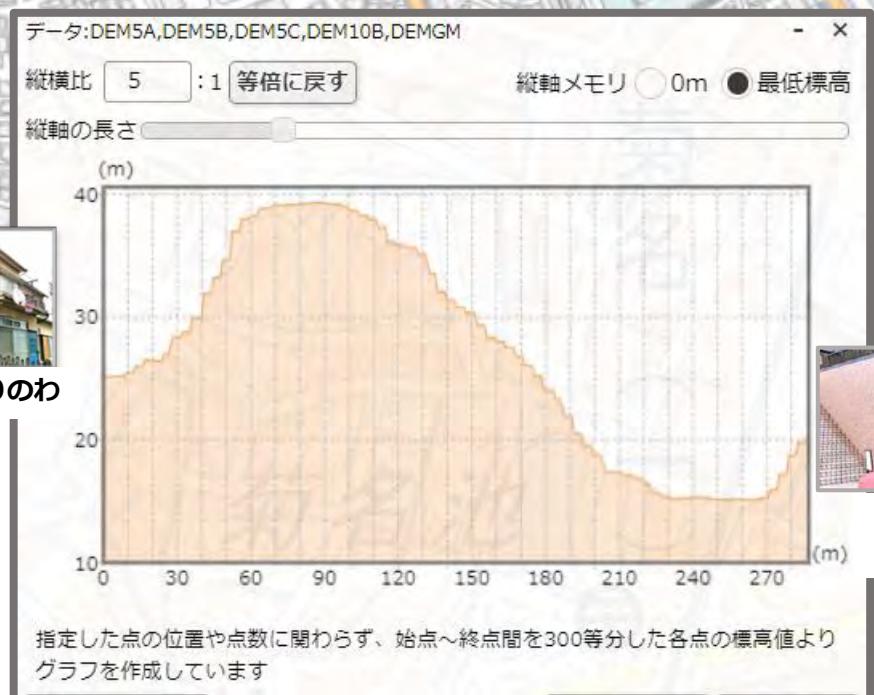
<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料(任意様式)に記入してください</p>	<p>■イベントを企画し、てんこもりのわの周知と意見を伺う機会作り。 ・男性利用者を増やす目的で「ひまわり摘み&スイカ割り」 ・町の達人に講座の定期開催を見据えた「ヨガ教室」 ・地域住民の防災意識の向上と家族そろって参加してもらう「防災&木工」 ・広報目的で町内会、かめっ子、かなっぼ等の各団体との共催「あきまつり」 ・利用者が町の達人として「消しゴムはんこ教室」 ■広報活動 ・タウンニュース神奈川区版掲載。 ・1次コンテスト通過のお知らせを発行。町内会掲示板に掲示。 ・Instagram、フォロワー数が3倍近く増える。 ・各イベント終了後「てんこもりのわ通信号外」発行。町内会掲示板に掲示。 ・掲示板が3丁目町内会に加え、9月以降、松見連合への掲示の許可をいただく。 ・チラシ2000枚、パンフレット500枚作成。各方面に説明・配布する。 ■見学 ・まち普請事業通過の先輩事例に訪問、コンテストに向けたアドバイスをいただく。</p>
<p>関係者の合意・調整状況 (地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください)</p>	<p>・地権者:了承済み、耐震工事費用も援助して下さる。 ・隣接住民説明:個別説明、了承済み。 ・隣接しているブロック塀は、境界線上に建っているため半分出資の意向をいただく。また「仲間もたくさんいるので、みんなで手伝います」と申し出もいただいた。 ・建物の裏側の住民からも協力の意向、寄付金をいただく。 ・近隣住民説明:約200件に個別訪問、可能な限り説明、チラシ配布済み。その際数多くの声を聴きとり(別紙参照) ・松見3丁目町内会、松見連合町内会の会合で説明、引き続き支援・協力をいただく。 ・神奈川区社会福祉協議会:報告済み。 ・神之木地域ケアプラザ:サービスBの協力以外にも、プログラム等の提案をいただく。 ・民生委員・児童委員、主任児童委員、地区社協の会議で報告。多くの応援の言葉をいただく。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>メンバーの今までの地域活動の経験や、てんこもりのわでの活動、さらに今回の近隣訪問で、それぞれの世代の「困り感」「孤独感」を想像以上に感じる事ができた。世代間交流のできる場所や機会があれば、それも解消できると考える。サービスを提供するのではなく、ここに来たら自然と交流が生まれる、ホッとできるような居場所を目指したい。また今回多くの地域住民と話し「料理の手伝いならできる」「英語の先生」「パン作りが得意」など特技を持っている人が多いことが分かっている。てんこもりのわが『みんなの実家』として、いろいろな人が町の達人なったり生徒になったりする仕組み作りを通じて、街のつながりを育てていく。</p>
<p>目指す地域の将来像 (施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください)</p>	<p>山、坂が多い地形のためシニアや子育て世代の交流が分断されがちになっているが、居場所の整備と様々な交流の提案をおこなうことで、地域の顔見知りを増やし、ちょっとした見守り・ふれあい・助け合いができるようにしていく。つながりができることで、防災・減災に備えた互助の関係作りができる地域になると考える。高齢化が進む地域だが、高齢者が自分で出来ることは行いながら、住み慣れた地域で長く暮らせるよう近所同士のつながりを大切にしていきたい。高齢者も子育て世代も子ども達も住む人みんなが、孤立することなく、自分の個性を活かしながら自分らしく生活できるような地域を目指す。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

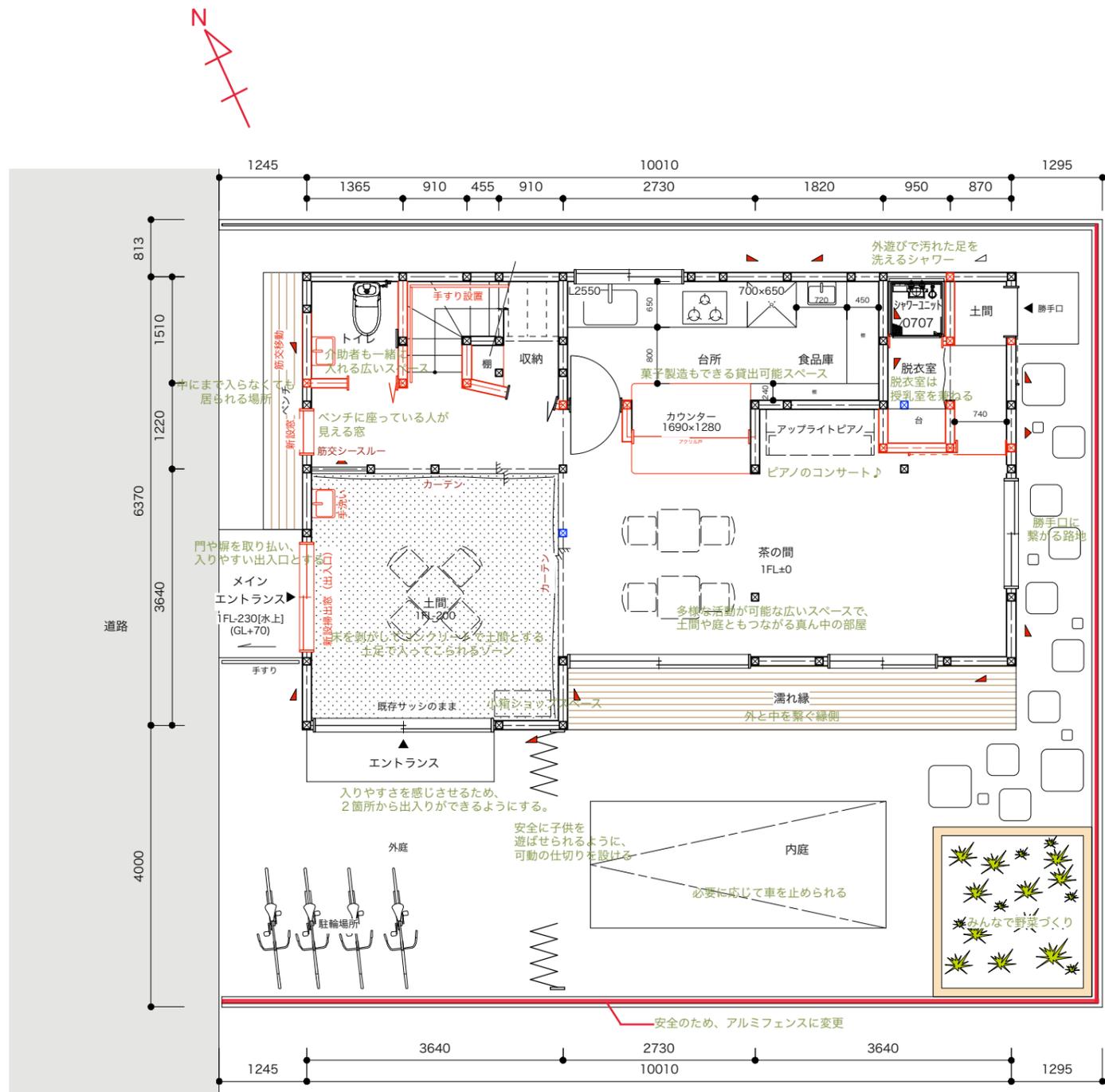


整備場所：てんこもりのわ
 神奈川県松見町3-940-8

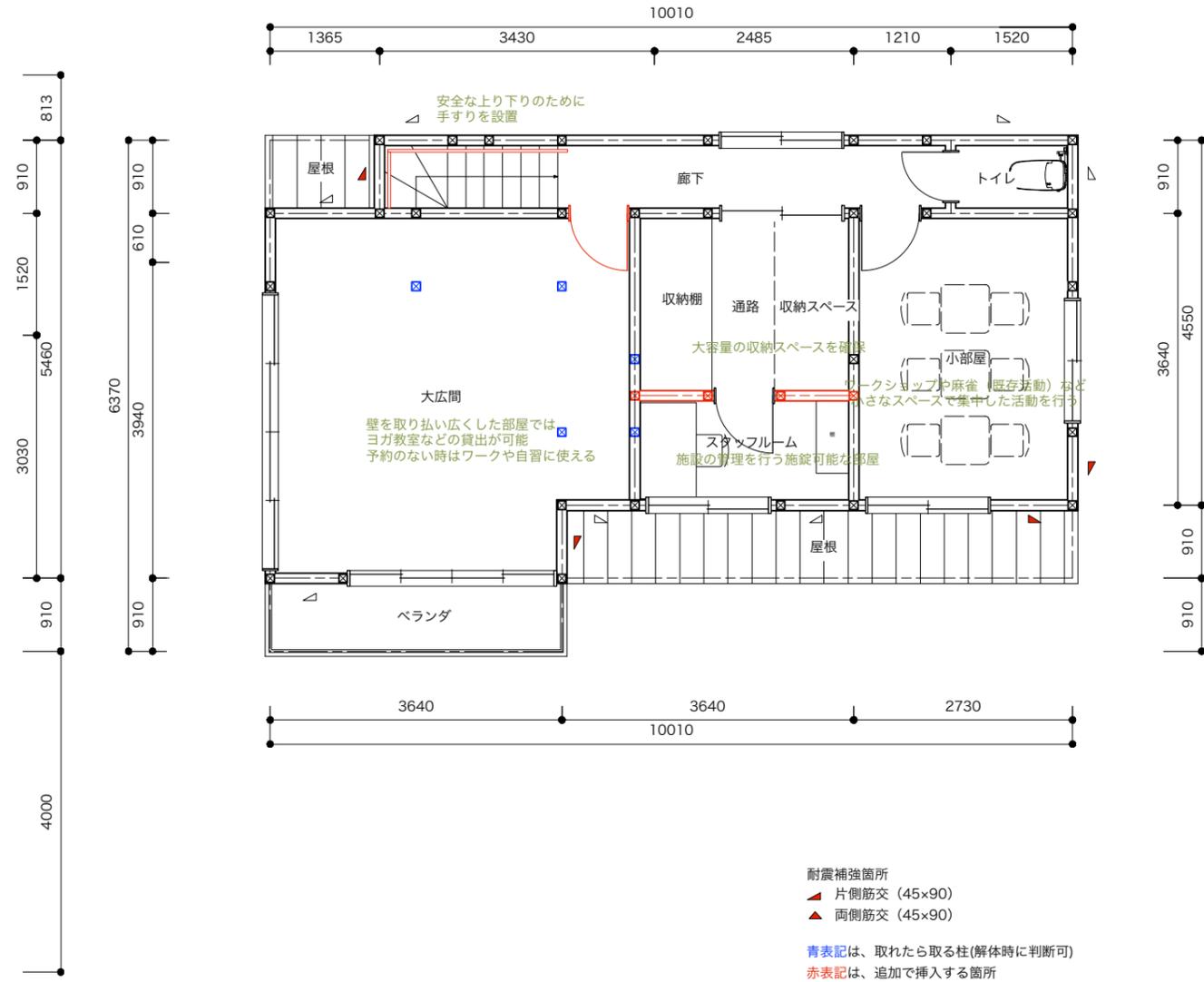


てんこもりのわ

松見町3丁目町内会館



1F 平面図



2F 平面図

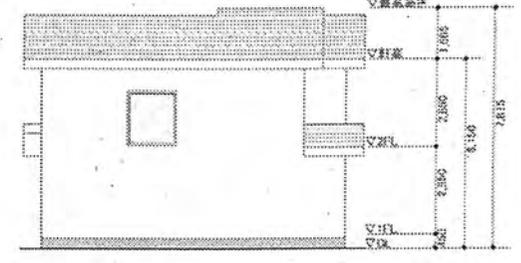
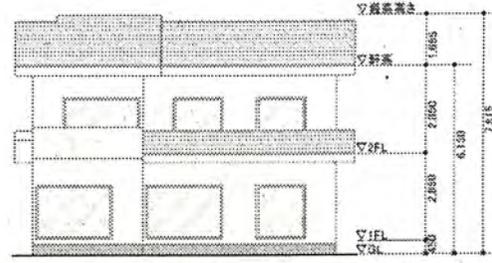
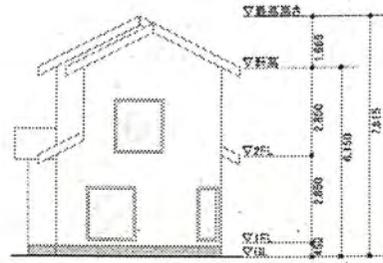
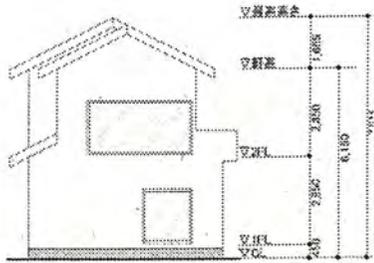
- 耐震補強箇所
- ▲ 片側筋交 (45×90)
- ▲ 両側筋交 (45×90)
- 青表記は、取れたら取る柱(解体時に判断可)
- 赤表記は、追加で挿入する箇所

南立面図

北立面図

東立面図

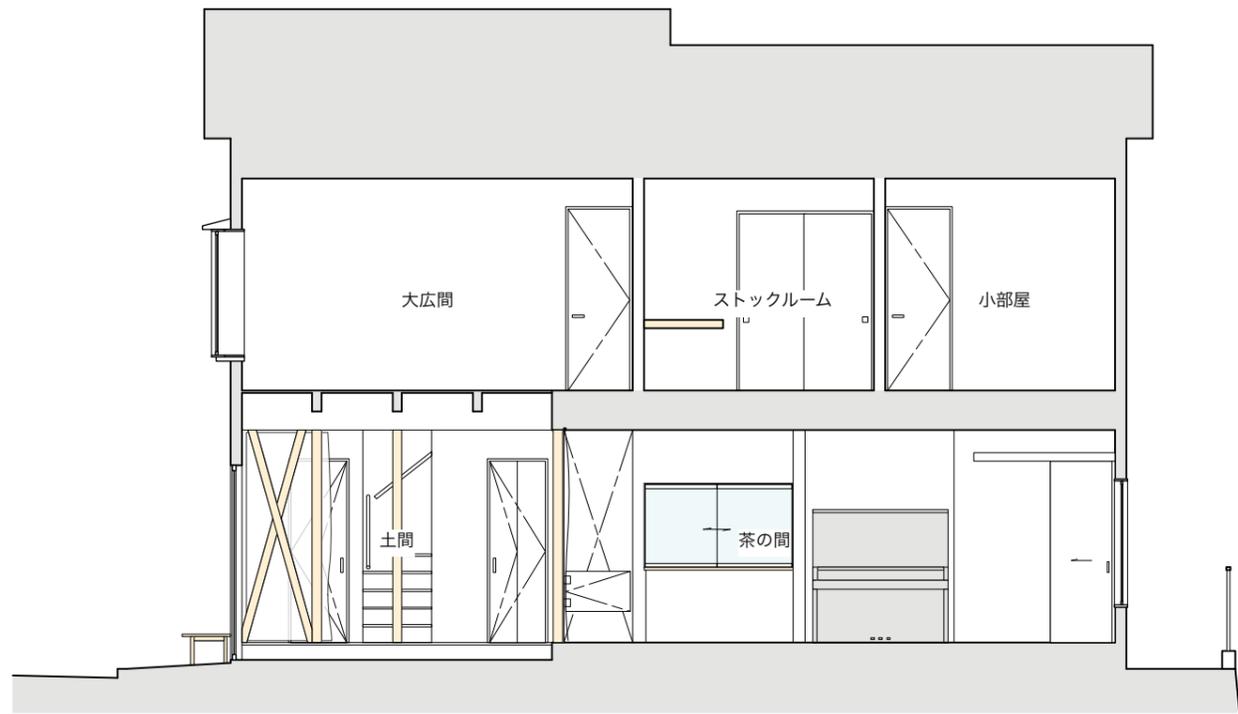
西立面図



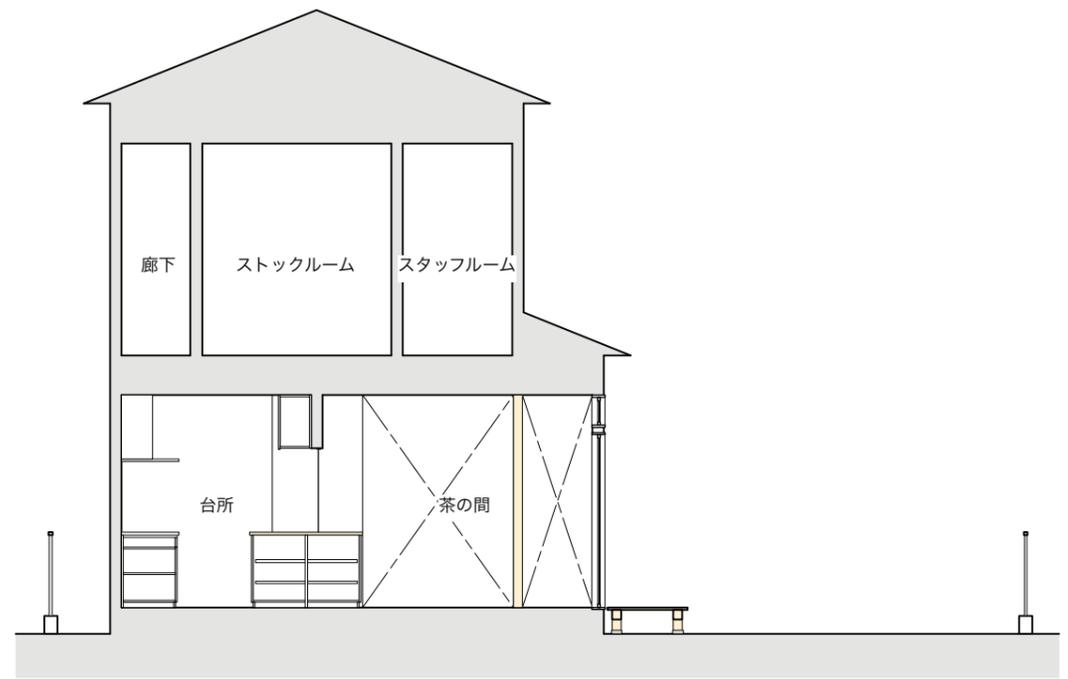
縮尺: 1/190

外観パース





東西断面図



南北断面図

ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
共通仮設工事	墨出し、発生材処分費共	一式		200,000	
建具工事		一式		500,000	
階段手摺		一式		150,000	
内装下地工事	耐震に伴う下地工事除く	一式		1,000,000	
内装仕上工事一式		一式		550,000	壁面塗装 地域住民4人×2日予定
住宅設備工事	流し台・手洗い・住設類	一式		450,000	
水道工事		一式		400,000	
電気工事	コンセント・照明機具共	一式		300,000	
ガス工事		一式		150,000	
外構ブロックフェンス工事	既存ブロック解体共(約20m)	一式		500,000	ブロック片付 小学生2人×2日予定
現場監理費 諸経費		一式		500,000	
土間工事		一式		700,000	
ぬれ縁造作工事		一式		200,000	
キッチンカウンター工事		一式		30,000	
ガラス窓サッシ交換		一式		200,000	

ベンチ工事		一式		30,000	
消費税		一式		586,000	
合 計				6,446,000	

- 7月11日 松見町連合町内会会長、松見町3丁目町内会会長報告
- 7月14日 タウンニュース神奈川区版掲載
- 7月26日 1次審査通過をInstagramで報告
- 7月28日 民生委員関東ブロック登壇時に1名参加発表
- 7月30日 町内会掲示板に1次審査通過報告掲示
- 8月 3日 フェイスブック開設
- 8月 4日 ひまわりイベントの告知インスタ(プロアカウント) と掲示板
- 8月 6日 神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえサテライト見学
- 8月11日 ひまわり摘み&スイカ割りイベント・ご近所説明会開催
・公文教室にチラシ配付依頼 以後、相互イベント協力
- 8月26日 現地見学会2名参加
- 9月 1日 子安の丘みんなの家(神奈川区)・神奈川区社協来訪
- 9月 3日 神奈川区ピアツア・ジモティ登録
- 9月 9日 ヨガイベント・ご近所説明会開催
- 9月11日 防災&木工工作イベント・ご近所説明会開催
・地元建設会社や大工さんに木っ端提供のご協力いただく
- 9月26日 ちゅんちゅんカフェ(戸塚区) 見学3名参加
近隣保育園訪問
- 9月27日 てんこもりのわ通信 号外発行 インスタ・掲示板・回覧板
- 10月10日 松見みはらし公園にてかめっ子「あきまつり」を共催
・3丁目町内会、女性部、子ども会、シニアクラブ、かなっぽと協力
・近隣幼稚園より 遊びコーナーの寄付をいただく
・協力してくれる企業や団体等をメンバーが訪問、たくさんの協賛品
(岩井の胡麻油(株)さま、神奈川区内郵便局さま、キッチンたいむさま他)
- 10月18日 横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業説明会オンライン参加6名
- 10月19日 神之木地域ケアプラザ生活支援コーディネーター打合せ2名参加
- 10月28日 4丁目町内会会議 まち普請事業のPR、チラシ配布
- 10月30日 3丁目町内会会議 再度まち普請事業のPR、チラシ配布
- 11月 2日 つみれカフェ(鶴見区) 見学1名
- 11月 8日 横浜子育てパートナー出張相談(利用者2名参加)
- 11月10.25日 松見3丁目ふれあいカフェにて説明・チラシ配布
- 11月18日 港北小学校にて説明、学校側より対象児童へのチラシ配布申し出いただく
- 11月19.20日 松見3丁目作品展にてチラシ配布、説明
- 11月21日 icocca(港南区) 見学2名参加
すくすくかめっ子にてチラシ配布、説明
- 11月23日 利用者お父さんによる「消しゴムはんこ教室」開催
- 11月26日 松見西寺尾町内会会議でチラシ配布、説明
- 12月 5日 松見2丁目西部町内会会議でチラシ配布、説明予定
- 10日 松見2丁目東部町内会会議でチラシ配布、説明予定

この他、民生委員・児童委員会会議、主任児童委員会議、で都度PR説明
神奈川県子育て支援員研修2名受講中



↑タウンニュース神奈川区版7/14



↑かなーちえサテライト パバの協力について



↑イベント報告



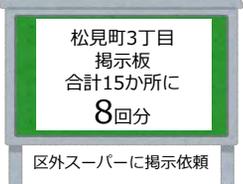
あきまつり



↑チラシ200枚、パンフレット500枚作成
近隣住民約200戸説明訪問
各施設などにチラシ500枚配架依頼済



↑消しゴムはんこ教室打合せ

メンバー打合せ	Instagram	掲示板	回覧板
 <p>毎週火・木 17時~19時 合計32回</p>	 <p>36回アップ フォロワー 数68→188 (11/27現在) 120</p>	 <p>松見町3丁目 掲示板 合計15か所に 8回分 区外スーパーに掲示依頼</p>	 <p>回覧板 通信など3回 3丁目51班分 4丁目76班分</p>

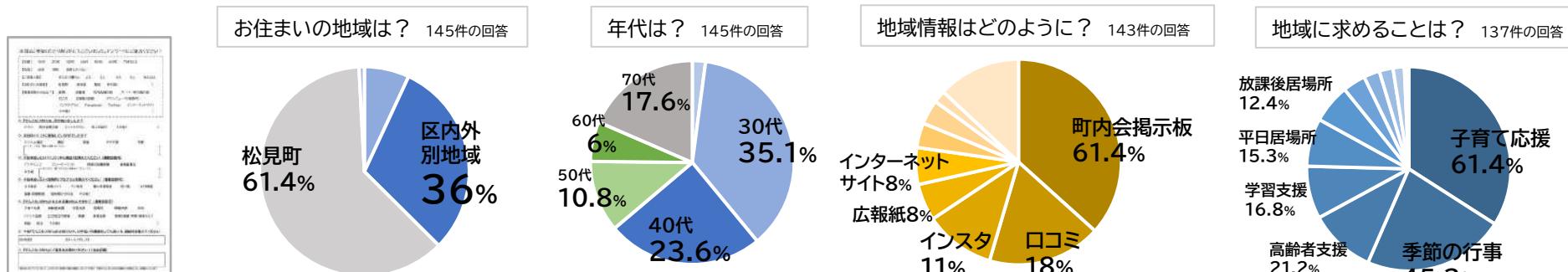
① 1次審査以降の活動・進展・成果

8/11 ひまわり摘み & スイカ割り	9/9 ヨガ	9/11 防災 & 木工	10/10 あきまつり
<p>男性協力者</p> <p>家ではできない体験 協力関係を築く ご近所説明</p>	<p>町の達人 トライアル</p> <p>シニアの日 トライアル 家ではできない体験 ご近所説明</p>	<p>ご近所説明</p> <p>家ではできない体験 協力関係を築く 男性協力者</p>	<p>近隣説明会</p> <p>協力関係を築く 新規協力者 男性協力者</p>
			
<ul style="list-style-type: none"> 男性利用者を増やすために、子育て世代にてんこもりのわを知ってもらおう まち普請1次コンテストのパネルを展示し、挑戦していることを参加者全員に周知、説明会開催 家ではできないけど『実家』でなら出来る事を実際にやってみる ⇒ スイカ割り 以前より申し出をいただいていた「孝楽会」様との協力関係作り 	<ul style="list-style-type: none"> 『町の達人』を探していたところ、近所のヨガの先生と巡り合え、トライアル実施 シニア世代にヨガを体験してもらおう(デイサービス等に通わない健康なシニア世代の運動のきっかけ作り) 現在の造りで体験イベントをすることにより、今後の改修のイメージを作る 	<ul style="list-style-type: none"> どなたでも利用できる防災拠点としての役割を担えるよう周知を兼ねて開催 近隣住民だが一度も利用したことのない方に、活動の理解を求める 木工を行うことで、子どもから大人まで来てもらうきっかけ作り 近隣の大工さんや建設会社に木っ端をお願いすることにより、協力関係を築く 	<ul style="list-style-type: none"> 例年開催している、かめっ子の『あきまつり』に共催 人数が集まるよう祝日開催とし、てんこもりのわブースを設けより多くの人に知ってもらおう 松見3丁目町内会・シニアクラブ・子ども会、かなっばと連携 活動への理解を求める いままでの広報や活動で、手伝いを申し出てくれた方に協力を依頼 関係を作る
<ul style="list-style-type: none"> インスタや掲示板を見ている人が多い 通常は母と利用のため、父にてんこもりのわを知ってもらえることができた 父から次回のイベントアイデアや、手伝っても良いよ！など、様々な意見をもらえた 孝楽会様と良い関係を築く第一歩となった 近隣の公文教室と協力 	<ul style="list-style-type: none"> ケアプラザ職員の参加があり、今後の取組について話合うきっかけになった シニア世代にヨガは不向きだとわかった⇒『シニアの日』には椅子ヨガや違う体操を提案していく 若い世代には子連れヨガを提案できる 	<ul style="list-style-type: none"> いままでも立ち寄ったことのない近隣居住者が、防災に興味を持ち参加してくれた イベント目的で参加した方が「てんこもりのわ」についても知ってもらうきっかけになった 近隣の大工さんに当日の様子を報告し、喜んでいただいた 今後の協力依頼ができた 	<ul style="list-style-type: none"> 多くのアンケート回答を得ることができた 協力者から「自分の住む町のイベントに貢献出来てうれしい」との声をもらえた シニアクラブと子どもの交流が持てた 活動を理解し今後の協力や寄付(おもちゃ、寄付金、パソコン)を申し出てくれた
<p>22名(男性：5名 女性：5名 子ども：12名)</p>	<p>8名参加 (女性：7名 子ども1名)</p>	<p>39名参加(男性：10名 女性：11名 子ども：18名)</p>	<p>約500名参加</p>
<ul style="list-style-type: none"> 運営メンバーに男性1名加入 参加の父から、今後協力者としての参加を約束(あきまつり協力、消しゴムはんこ講師として11/23イベント開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ヨガ講師、今後も協力者として参加を約束 ヨガ教室の定期開催の意向 	<ul style="list-style-type: none"> 協力者として近隣幼稚園で木工を教えているシニア男性加入⇒・庭で野菜作りを提案いただく→改修後に行う予定・あきまつり協力 	<ul style="list-style-type: none"> 左記3回のイベントに加え、掲示板や口コミで協力を申し出てくれた方7名が協力者として参加、今後の活動協力も約束

《目的》 121 《経緯》 《参加者》 《協力者》

② アンケート調査結果

【実施内容】 2022年10月10日(月・祝) 170枚配布、148枚回収



□「今後てんこもりのわに協力」と回答 22名記載あり

11/23 消しゴムはんこ教室開催



- 協力者提案のイベント
- 9名参加
 - 男性：2名
 - 女性：3名
 - 子ども：4名

③近隣住民の声：アンケートや近隣住民約200戸にチラシ配布の際に聴き取り世代別に声を集めました

子育て世代（30代40代～）

- ・引っ越してきたばかりで知り合いはほとんどいない
- ・今は育休中で春には仕事復帰予定
- ・てんこもりのわは、年寄（サポートの必要な人）が行くところですよ？
- ・区役所やケアプラザ、子育て支援拠点など公的な場所が遠い
- ・近所づき合いが少ない
- ・まわりに相談できる知り合いがいなく、子育てが孤独
- ・子どもが一人であそびに行けるような場所がない、山越えは心配
- ・長引くコロナ禍のため、気軽に田舎（実家）に帰れない
- ・コロナ禍で学校行事や保護者会も最小限なため同じ学年の保護者とさえ知り合えない
- ・ご近所の知り合い、顔見知りがない
- ・愚痴やおしゃべり、世間話をできる相手がいない
- ・近くの公園に行ってもあまり人がいない

中間世代（50代60代～）

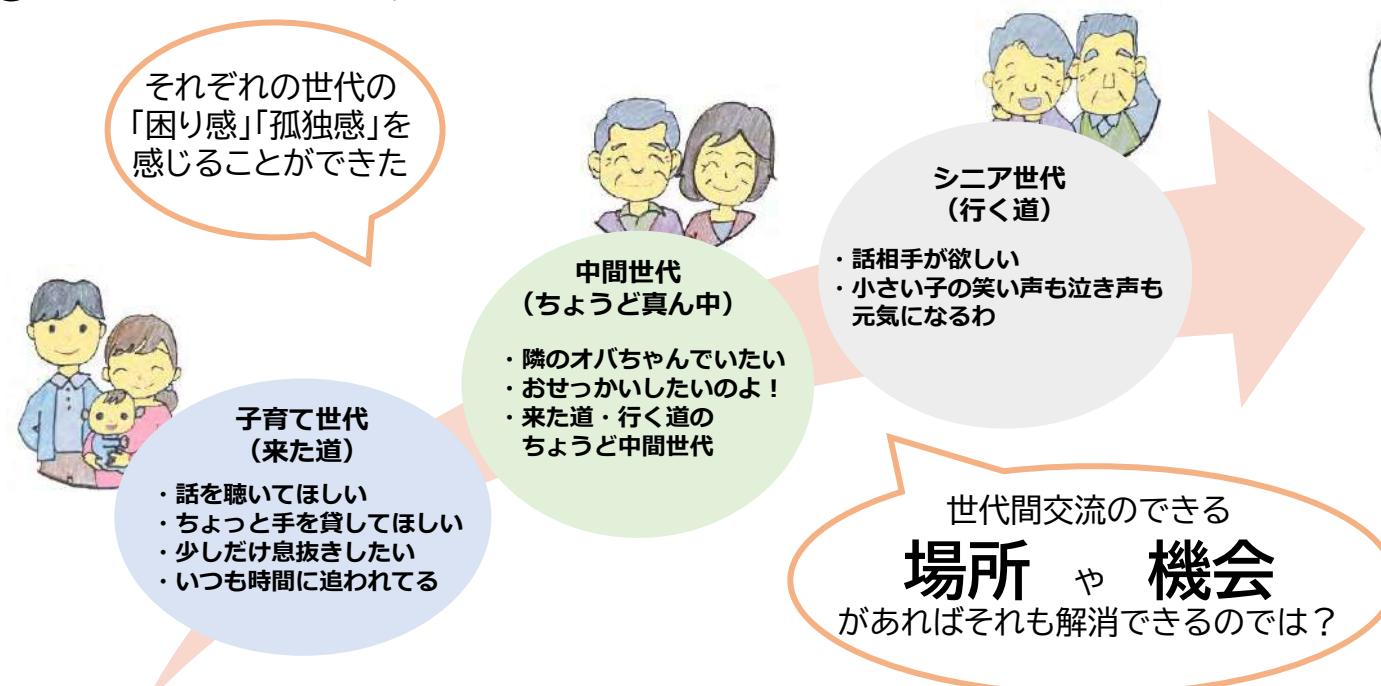
- ・夫が今年定年し、昼間家にいるのよね・・・ボケないか心配
- ・町内会の活動に興味を持たない人、活動したくない人が多い
- ・てんこもりのわって子どもの行くところだと思っていた
- ・最近引っ越してきた新しい人と知り合うきっかけがない
- ・自分の子育てはひと段落 時々孫のお世話
- ・仕事はしているが、時間の融通が利く
- ・時間、生活にゆとりがある
- ・自身の子どもが小さい時に、PTA活動が盛んで積極的に参加
- ・おせっかい大好き（手出し・口だしを惜しまない）
- ・実家は遠い（ない）ので、シニアの交流も負担ではない
- ・孫が生まれて嬉しいけど戸惑いもある
- ・話を聴いてくれて安心
- ・「自分の子ども世代」の若いパパママと接することで勉強にもなる

シニア世代（70代80代～）

- ・家で家族がリモートで仕事や学習をしているため家にいづらい
- ・リハビリには行くけどデイサービスには絶対行きたくない
- ・子ども家族と一緒に住んではいるけど、あまり会話はしない
- ・以前やってた『ふれあいランチ』楽しみだったのに淋しい
- ・日中独居の人が多く
- ・デイサービスや体操教室行きたくないわ！
- ・もう孫も大きくなって、遊びに来ることも少ないの
- ・町内会館に行くのも不便
- ・山を登るのも下るのも大変
- ・元気だけど、どこに行ってもいいか？行き場がない
- ・何か楽しめることをしたい
- ・ずっとやってきた趣味を活かせる場がほしい
- ・まだ元気だから、何か地域に貢献したい

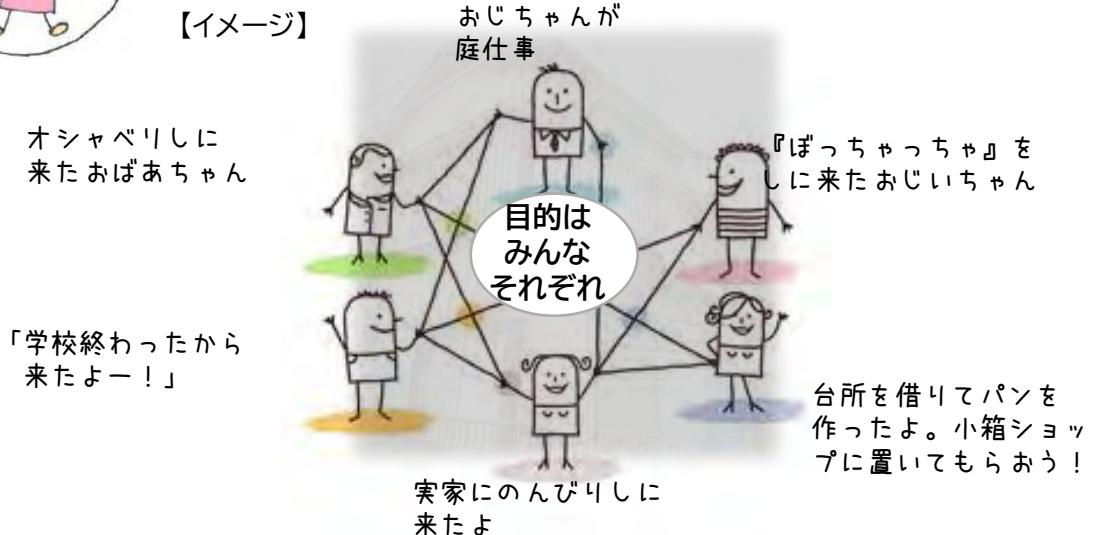
④そこで、てんこもりのわから提案

122



それなら！てんこもりのわを『みんなの実家』にして一緒にいればいいじゃない！

【イメージ】



⑤目指す地域の将来像

顔見知りが増え、ちょっとした「見守り」「ふれあい」「助け合い」があちらこちらで発生して



『てんこもりのわ』に遊びに来たらいつの間にか顔見知りが増えてた♪

⑥開催イメージ

日	月	火	水	木	金	土
/	/	居場所の日	町の達人の日	居場所の日	シニアの日	不定期でイベント開催

2次コンテスト事前質問集

【提案名（グループ名）】 松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト	
事前質問	回答欄
(朝比奈委員)	
①民家を居場所にする場合、入ってみたいと思わせる工夫が欠かせないと思いますが、ガラス戸や土間のほかに工夫があれば教えてください。	<p>【工夫その1】道路に面した入り口横に「ベンチ」を設置します。近所の方の井戸端会議や散歩中の休憩などに利用していただきます。そこに座れば、そばにある窓から中の声が聞こえてきます。様子が分かり、挨拶を交わすうちに、中に入ってみようと思わせる仕掛けです。</p> <p>【工夫その2】庭と道路を区切る門扉の位置を、道路側から庭側へセットバックし、道路と敷地・建物との間にパブリックとプライベートの中間的な空間を設け、入口を二方向からとすることで、心理的に誰もが入りやすい雰囲気になります。庭で遊ぶ子ども達の様子や楽し気な声が、呼び水になると考えています。</p> <p>【工夫その3】土間には、小箱ショップ・地域の情報棚を設けて、室内に入るきっかけを作ります。</p> <p>このように、ベンチ・庭（屋外）→土間（半屋内）→お茶の間（屋内）と、段階を経てこの場所に来る人が徐々に中に入りたいたいと思える、気づいたら靴を脱いでお茶の間に上がってもらえる、そんな空間を作ります。</p> <p>さらに・・・</p>

	開催日には、外に看板やのぼり等を出し『てんこもりのわ』が開いていることを、通りがかりの人にもお知らせし、興味を引く仕掛けをします。
②改修後の大まかな収支計画を教えてください。	【別紙 2】の通り計画をしています。居場所事業としては、1日あたり20組を目標としていますが、利用料(100円)の徴収対象外である子どもを除いた、1日あたり10組を損益分岐点として計算しています。 2年目に「横浜市介護予防・生活支援補助事業(サービスB)」の「横浜市通所型支援」を、3年目には「横浜市配食支援」の開設を予定しています。通所型支援の日にも食事提供を行う予定で、2年目にはランチ提供が週2日になります。3年目には同じ曜日に配食支援も追加することにより、段階を経て、活動を拡大していきます。
(飯尾委員)	
質問なし	
(植松委員)	
①現状の実績としてどの程度の範囲(距離的・立場的に)から人々が来ているのか、1次コンテストの後、様々な活動をしたようですが、そのことでどの程度の範囲までの方が来訪しそうか、そしてそれは本来の目的、来訪者の想定範囲内なのか、教えてください。	今までは松見町3丁目の近隣に住む乳幼児親子とシニアのリピーターの利用がほとんどでした。一次コンテスト以降、イベントの開催や広報の範囲を広げたことにより、連合町内会(松見町1丁目～4丁目、西寺尾)の範囲の方、さらに隣接する港北区、鶴見区の方が来ていただきました。 すでに高齢者や乳幼児親子などは徐々に増えてきていますが、改修後は活動の幅が広がり、今まで利用のなかった方も来ていただける見込みがあります。これは想定範囲内であり、本来の目的は果たせると考えます。
②建物の改修により機能面を向上させることで、どのような新たな活動の展開が期待出来るのでしょうか。そして、その担い手の継続的確保の見通しはあるで	■新たな活動の展開について 新たな活動の展開としては、多世代交流ができる場所となることです。これまでは、ほとんどが高齢者と乳幼児親子のみの利用

<p>しょうか。教えてください。</p>	<p>で、さらに世代ごとに部屋に分かれて活動をしていたため交流が生まれにくかったですが、土間を作り、間仕切りを撤去し広い空間を作り、台所を整備することで、以下のような多世代交流を生みます。</p> <p>①【居場所の日（居場所・ランチ・カフェ）】高齢者・親子など多世代と一緒にランチを食べたり、見通しの良い一体的な空間では「一緒に折り紙しようよ」「何して遊んでいるの」などの会話が自然に生まれ、実家のような交流につながると考えています。</p> <p>②【町の達人の日】町内会長の自宅庭で採れた筍の下処理を近所のおばあちゃんから若いママに教え、山形出身の地域住民による郷土料理を伝承し、出来上がった「孟宗汁」をみんなで美味しく頂く。このような交流の生まれるイベントをたくさん開催していきます。</p> <p>③【イベントの日】土間や連続性のある庭を使って、おじいちゃんやパパから教わる木工遊び、音楽好きの方によるライブ、フリーマーケットなどで、普段と違った顔ぶれが集う場にします。</p> <p>■担い手の継続的確保について 当初10人だったスタッフは、1次コンテスト以降20名まで増えています。また乳幼児を連れて利用している方から、将来スタッフとしお手伝いをしたいと申し出ている方も複数いらっしゃいます。このように利用者が将来の担い手になる循環を生みます。</p>
<p>（加藤委員）</p>	
<p>①運営開始後の収支を教えてください。</p>	<p>別紙2の通り計画しています。</p>
<p>②新しい世代を取り込むための、定期的なプログラムに関して、具体的に決まって</p>	<p>仕事をお持ちの方やパパ等が家族と一緒に利用いただけるように、土曜日も毎月2回</p>

<p>いることを教えてください。</p>	<p>「居場所」を開設します。またその他の土曜にはアンケートで要望のあったイベントや季節の行事を行っていきます。具体的には、屋内では音楽鑑賞会や季節ごとの伝統料理づくり、屋外ではスイカ割りやデイキャンプ、また夜間開催でビアガーデンやお月見などを予定しています。</p> <p>ほかにも、水曜日の「町の達人の日」ではご近所の「得意」をお持ちの方が先生になり、お菓子作り教室やヨガ教室を開催します。「てんこもりのわ」を知ってもらい、足を運んでくださるきっかけにもつながると思っています。金曜日は「おとなの日」として、子どもがいない事によって生まれるおとなの交流時間を設けます。例えば、麻雀や刃物等を使用する手芸があります。またケアプラザと連携したプログラムなどの活動も展開します。(別紙1参照)</p>
<p>③どの世代にも居心地の良い場所、の定義は何でしょうか？</p>	<p>外から人が「ただいま」と言って入ってきて、中にいる人が「おかえり」と言って迎える、そのようなやりとりが自然と生まれる場所。</p> <p>利用者がこの「てんこもりのわ」に、自らの居場所を感じてくれるようになることで生まれる言葉であり、また、近隣の顔見知りの関係でも自然とそのようなやりとりが生まれるような距離感が大切だと考えています。</p>
<p>④居場所の日、に訪れた方は、拠点で何ができるのでしょうか？(例：ドリンクの提供がある、ランチがある、等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■茶の間や2階では、折り紙・麻雀・将棋・囲碁・オセロ・本・子ども用おもちゃ等を用意していますが、何をやってもやらなくても、それぞれの選択を大切にします。 ■土間では、地域や子育て等の情報を得られます。 ■ぬれ縁に腰掛けお茶を飲みながら、外あそびをする子どもの様子を見守れます。 ■有料でランチやコーヒーを提供します。

(川原委員)	
質問なし	
(杉崎委員)	
① 車いすを利用する人の利用を想定していますか。また想定している場合にトイレの利用は可能でしょうか。	車いすを利用する方にも中に入ってもらえるよう、入り口には補助板等を用意します。土間の中でお喋りをしたり、情報収集や小箱ショップを利用してもらえます。トイレは車いすのまま入る事はできませんが、介助者が入ることのできるスペースを確保し、手すりの設置を予定しているため、利用は可能です。スタッフの中にはヘルパー資格を持つ者もいるので、利用の際の介助やお手伝いもできます。
(後藤委員)	
① 500 万円を超過する部分はどのように賄いますか。	少しずつ寄付金を集め始め、現時点では20万円ほどご協力をいただいています。改修工事が決まりましたら、地元の名士の方々や近隣の企業等にも支援をいただきたいと、すでにお願いをして回っています。その他の超過する金額及び耐震工事は、地権者さんから補助のお申し出をいただいています。
② 空間の改修案をつくるにあたって重視した点を教えてください。	開放性です。屋内空間全体が緩やかにつながること、また屋内と屋外とが緩やかにつながることを重視しました。その結果、朝比奈委員①の質問回答のように、人が中に入りやすくなり、そこで多世代の交流が生まれやすくなると考えています。
③ 毎月の運営収支のイメージを教えてください。	収支計画は別紙2の通りです。
(松村委員)	
① 「てんこもりのわ」の皆さんが、これまで活動してきたなかで大事にされてきた価値は何だったでしょうか。	実家として、困りごととは助け合い、見守り、お喋りして、自然に交流が生まれる場を創ることを大切に考えてきました。

火 木 土

曜日は『居場所の日』

何かをやってもやらなくても、その人の自由♪
『実家』のように多世代が顔をあわせることができます！

居場所の時間
 【午前の部】 9:00~11:30
 【午後 ①】 13:30~15:30
 【午後 ②】 15:30~18:00 学齢期優先

ランチ提供
11:30~13:30

 火曜日のみ

カフェ提供
10:00~15:00

 火曜日・木曜日

居場所で何ができるの？

折り紙、麻雀、囲碁、将棋、オセロ、本（読書）
 子ども用おもちゃなど、いろいろ
 材料は準備していますが、自由に過ごせます



128

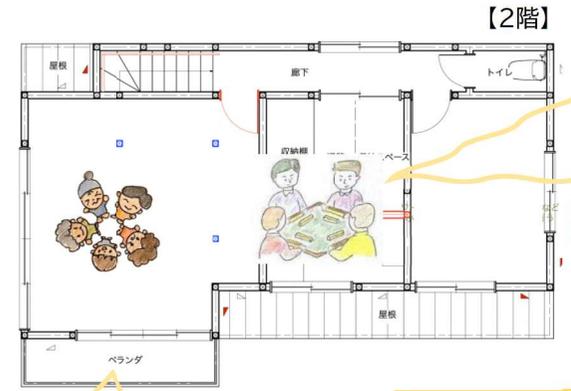
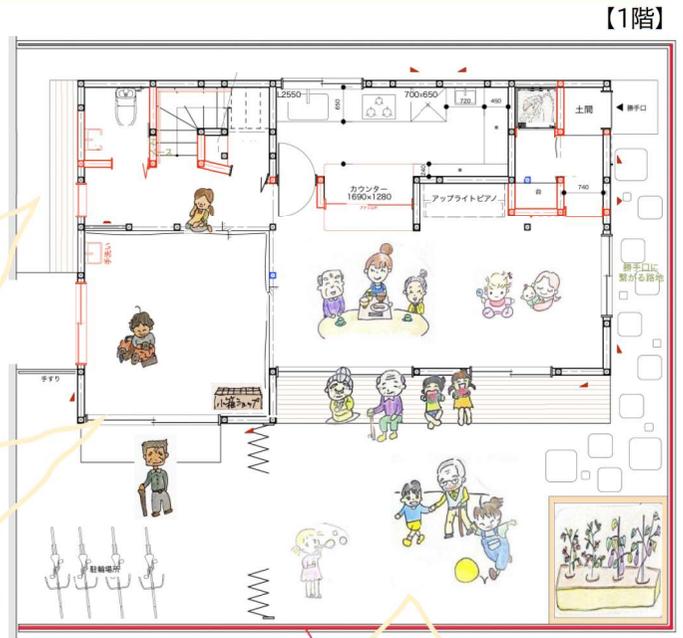
外のベンチでは...

- 施設に入らなくてもここで喋り
- 中の様子が聞こえてくるかも！



土間では...

- 小箱ショップの利用
- 地域や子育て情報を得られる棚
- 中に入らなくても喋り
- 雨の日はここでも外あそび
- 冬場は石油ストーブ

小部屋では...

- 麻雀・囲碁・将棋・本などの用意があります
- 不定期で子ども向け工作タイムも企画（有料でビーズ等、材料費のかかるもの）

広間では...

- 終日、自由に過ごせます

第1・3土曜日は『居場所の日』！！

幼稚園や保育園に通う親子や家族にも遊びに来てもらい、のんびり過ごしたり、自由にあそべます

庭・ぬれ縁では...

- 泥あそびや水あそびを楽しんで、終わった後にはシャワーへ直行
- プランターで季節の野菜やお花を育てる
- そとあそびの子ども達を見守りながら、ぬれ縁でひなたぼっこ



今後はこんなことも...

中高生以上や仕事をする人が利用できるよう、2階をワークスペースとしてレンタルすることも検討していきます

水

曜日は『町の達人の日』

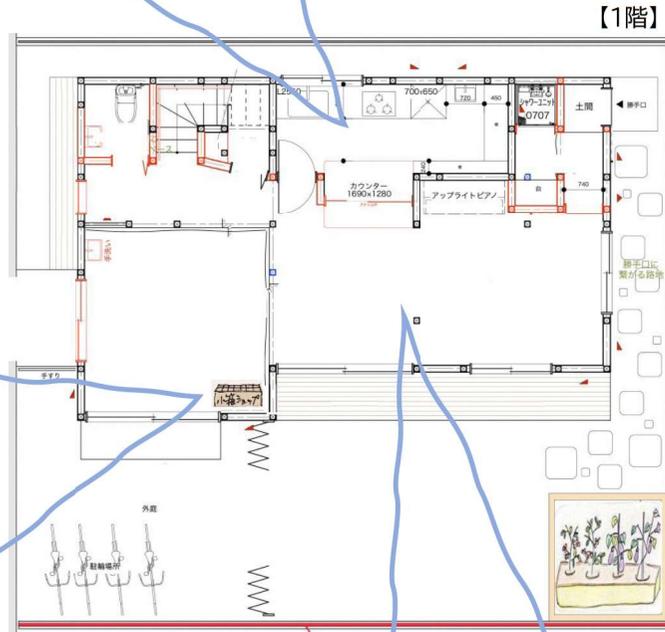
地域の方の得意を披露する場
いろいろな人が町の達人なったり生徒になったり

菓子製造許可の台所使って、得意を披露！

- ・近所の達人が「得意を披露」できるよう本格的なオープン等を設置し、台所をレンタルします
- ・出来た商品(菓子やパン)の一部を土間の小箱ショップで販売や料理教室ができる仕組みも作ります

小箱ショップも設置

- ・近所の達人が「得意を披露」し販売できるコーナー
- ・手芸やアクセサリーを小箱に置くとともに、ワークショップも開催してもらおう
- ・見学先にあった小箱の仕組みを参考に『てんこもりのわ』らしい方法を検討していきます

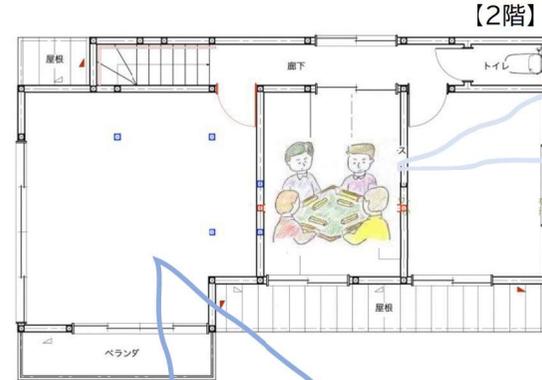


この他

料理教室、パン教室、ビーズアクセサリーのワークショップ等

～町の達人の日の誕生経緯～

今までの活動や聞き取りの中で地域の方が様々な特技をお持ちだと分かりました。その方々の活躍の場となるよう、施設をレンタルします
そこに参加する人が『てんこもりのわ』に興味を持ち、利用のきっかけになるように地域の中で同じ目的を持った人たちが集まることで、交流が広がり深まることを期待します。



将棋教室等も できます！

将棋の達人に小学生が教えてもらいながら交流することも可能になります

2階の広間では・・・(場所貸し)



ヨガ教室



英語教室



ベビーマッサージ

金

『シニアの日』改め

曜日は『おとなの日』

おとなだけで、ゆっくり交流できる日
『てんこもりのわ』の施設を楽しめます♪

おとなの日 プログラム

- ・シニア世代だけでなく、多くの方が参加できる内容を企画
- ・居場所の日の賑やかな雰囲気苦手な方にも利用してもらえらるきっかけに

《現在考えている企画案》

- ・シニアヨガ ・ネイル教室
- ・地域ケアプラザと共催のスマホ教室
- ・横浜市立盲学校の実習のマッサージ



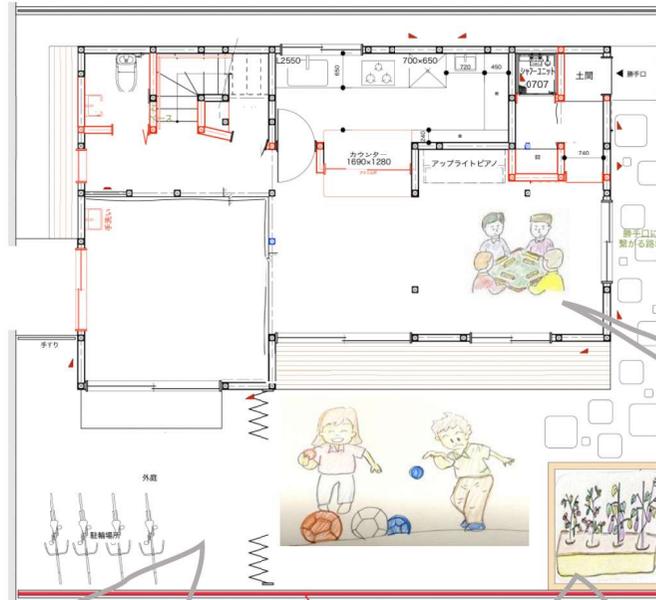
ランチ提供・配食サービス

- ・令和6年以降、順次提供予定です（右参照）
- ・料理の得意な町の達人にお願いすることで、その方の活躍の場にもなると考えています

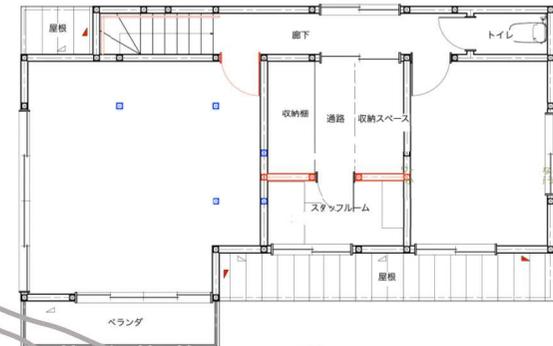
横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業を準備しています

- ・令和5年度より「横浜市見守り支援」を開始するよう、すでに申請済みです
- ・令和6年には「通所型支援」令和7年には「配食支援」を開設予定にしています
- ・近隣のお年寄りが、遠くのサービスを受けるのではなく、地域の中で自分たちが元気に支え合う時間にしていきます

【1階】



【2階】



1階で麻雀や将棋

階段を使うのが大変な場合、1階で麻雀等を楽しめるよう配慮します

『ぼっちゃっちゃん』ポッチャ+お茶 開催

- ・町内会でポッチャを行っているが、その後の交流ができないとの声を聞きました
- ・ポッチャで身体を動かし、終了後にお茶を飲みお喋りができる場を提供します

フランターで季節のお花や野菜づくり

シニアの方の力をお借りしてお花や野菜を育て、居場所の日に子ども達と一緒に収穫します



曜日は『イベントの日』

世代を問わず参加のできる事を企画して、顔見知りを増やし町中で会ってもあいさつのできる関係作りや、居場所の利用に！

台所で町の達人に・・・

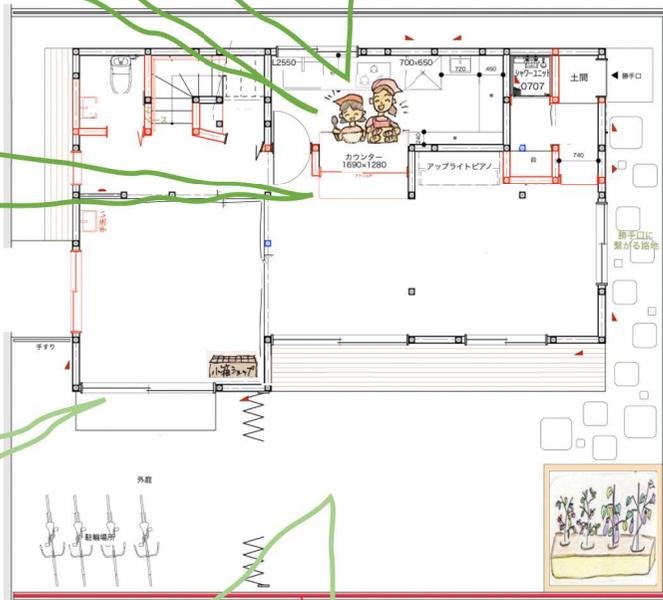
『親子パン教室』
『親子料理教室』親子で参加できるものを中心に企画

台所で季節の料理・・・

- ・シニア世代や料理が得意な方から筍の下ごしらえや梅仕事を教えてもらう等『料理』を通して多世代交流が自然発生するようなきっかけ作り
- ・家で一人でやるのは面倒だけど、みんなでならやってみたい！ことをやってみる

食のイベント時には・・・

台所とカウンターを中心に1階の部屋全体を活用します



土間も客席に・・・

『音楽ライブ』や『落語鑑賞』の際には土間に椅子を並べ、部屋とつなげて客席にします

庭やめれ縁も活用・・・

ビアガーデンやスイカ割りの際には庭を活用

季節のイベント案	
1月	書き初め
2月	節分(豆まき)
3月	防災イベント ひな祭り
4月	筍を楽しむ会
5月	こどもの日
6月	梅仕事
7月	ひまわり摘み
8月	ビアガーデン スイカ割
9月	お月見
10月	ハロウィン
11月	飯盒で新米を頂こう
12月	クリスマス会

町の達人イベント案
音楽ライブ
落語
料理教室

単発イベント案
おみせやさんごっこ
麻雀大会

家ではできないけれど『実家』だからやってみる・・・

マンションではできない、準備が大変、片付けが面倒等、それぞれの思いで「やってみたくてできないこと」を『てんこもりのわ』でみんなで体験するイベントの提案をしています



トライアルで開催したスイカ割り参加したお子さん全員初体験！

収支計画表（令和6年度及び令和7年度以降）

■ 収入の部

科目	内容	単価(¥)	数量	単位	金額(¥)		備考欄
					サービスB 初年度	サービスB 2年目以降	
助成金・寄付金	神奈川県社協 ふれあい助成金	400,000	1	年	1,000,000	1,200,000	サービスB 初年度 ¥50,000/月 サービスB 2年目以降 ¥100,000/月 ※サービスB 2年目以降、神奈川県社協 ふれあい助成金の申請については未定
	松見町3丁目町内会	50,000	1	年	50,000	50,000	
	松見町連合町内会	50,000	1	年	50,000	50,000	
事業収入	居場所事業	7,500	12	ヶ月	90,000	99,000	利用料 ¥100×年間利用者数（1日8～10組 1ヶ月 75～85組を想定）
	飲食事業	52,000	12	ヶ月	624,000	624,000	ランチ ¥700×10組×火曜日×4週 カフェ ¥300×10組×週2日(火曜日・金曜日)×4週
	レンタルスペース事業	10,000	12	ヶ月	120,000	120,000	2階(小) ¥1,000/回 2階(大) ¥1,500/回 1階 ¥4,000/回 1階(キッチン プロ使用) ¥7,500/回（1ヶ月 各区画1～2回利用想定）
	小箱利用料	10,000	12	ヶ月	120,000	120,000	¥1,000×10か所
	イベント事業	3,000	12	ヶ月	36,000	36,000	毎月1回開催×1回あたり約10組
	サービスB 配食事業	14,000	12	ヶ月	168,000	168,000	¥700×1日5食×金曜日×4週
収入合計					2,258,000	2,467,000	

■ 支出の部

科目	内容	単価(¥)	数量	単位	金額(¥)		備考欄
					サービスB 初年度	サービスB 2年目以降	
材料費	居場所	7,000	12	ヶ月	84,000	93,000	無料飲みもの、おやつ代、その他
	ランチ・カフェ・配食	24,000	12	ヶ月	288,000	338,000	材料費は仕入れ原価として、料金の30%を想定
	イベント	3,000	12	ヶ月	36,000	36,000	
人件費	配食	35,000	12	ヶ月	420,000	462,000	¥5,000×7時間
	その他 スタッフ	40,000	12	ヶ月	480,000	528,000	¥2,000×20人
謝金・御礼	ランチ・カフェ	3,200	12	ヶ月	38,400	38,400	(¥200/日)×2人×週2日×4週
	イベント	2,000	12	ヶ月	24,000	24,000	
家賃		15,000	12	ヶ月	180,000	180,000	家賃 ¥10,000×12か月、一時費用 ¥30,000×2回(夏、冬)
水道光熱費		30,000	12	ヶ月	360,000	360,000	ガス、電気、上下水道
消耗品費		59,600	1	年	59,600	95,600	文房具、除菌・消毒用品、折り紙、備品
保険料		6,000	12	ヶ月	72,000	72,000	イベント保険 等
通信費		8,000	12	ヶ月	96,000	96,000	インターネット利用料
広告宣伝費		10,000	12	ヶ月	120,000	144,000	印刷代、ポスター制作費 等
支出合計					2,258,000	2,467,000	

6-(1) ヨコハマ市民まち普請事業整備助成対象一覧（年別）

整備年度	番号	整備提案名	提案グループ名	区	整備内容
H18	1	バス停前傾斜地の緑化事業	舞岡第二ゆめプロジェクト推進会	戸塚	斜面緑化
	2	花＊花に 楽々水やり	花＊花 倶楽部	都筑	雨水利用タンク
	3	東海道保土ヶ谷宿 松並木・一里塚等再創造プロジェクト	保土ヶ谷宿四百倶楽部＋東海道保土ヶ谷宿松並木ブルムナード実行委員会	保土ヶ谷	植樹、サイン
	4	岸谷公園を中心とした、まちの防災・防犯拠点の再整備	岸谷第二自治会	鶴見	防災放送施設
	5	横浜寿町ホテルビレッジ街化事業	横浜寿町ホテルビレッジ街化事業実行委員会	中	植栽、ベンチ、特大将棋台
	6	こどもの遊び場、ピオトープ作り	永田町上第三町内会	南	ピオトープ
	7	高田東小学校における雨水貯留・浸透施設の設置とピオトープ整備による流域学習推進事業(総合治水・水循環回復・環境保全・回復の総合的学習)	高田東小学校の雨水利用をすすめる会	港北	ピオトープ、雨水利用施設
H19	1	登り窯付属施設及び周辺環境の整備	登り窯と永田の自然を守る会	南	斜面緑地、ピオトープ、水路
	2	仮称)日ノ出町・初黄地区ライトアップ地域浄化構想	美しい環境・市民文化づくりの会(略:B-UPの会)	中	ライトアップ、シャッター描画
	3	不便な盆地も雨水・湧き水で大変身!	西戸部二丁目第一自治会わくわく倶楽部	西	雨水タンク、地下貯水槽
	4	車椅子使用者のためのリフト設置と相談ルームの増設	在宅支援サービス さわか港南	港南	相談ルーム、リフト
	5	地域のコミュニケーション基地「うさきちハウス」づくり	「うさきちハウス」づくり実行委員会	神奈川	活動小屋
H20	1	地元企業・地主と市民による安全・安心のみちづくり	新羽駅周辺街づくり協議会	港北	道路への描画
	2	荒磯川源流の日本庭園・清流復活	茅ヶ崎公園・緑道愛護会	都筑	井戸、日本庭園
	3	境川上流河川沿い道路に桜並木の名所づくり	境川沿いと鎌倉古道沿いに桜の名所づくり実行委員会	瀬谷	植樹・植栽
	4	地域に愛される浜マーケットを次世代に残していこう!	商店街活性化×若者の働く場創出プロジェクトチーム	磯子	休憩所、看板
H21	1	森に隣接した旭高校外周道路のコミュニティ空間化	よこはま里山研究所 川井緑地森づくりプロジェクト	旭	森林の管理、休憩所(パーゴラ)、道路への描画
	2	高島中央公園におけるファミリーガーデン計画	高島中央公園ガーデニングクラブ	西	園路、花壇
	3	農業体験を通して高齢者と地域住民が交流する場づくり	高齢者子ども等が農体験で交流する場づくり実行委員会	瀬谷	機材置き場、休憩所、井戸
	4	都筑民家園に市民に親しまれる本格的な「茶室」を整備	茶室を贈る有志の会＋茶室まち普請・活用推進委員会	都筑	茶室、露地
H22	1	西柴団地商店街の空き店舗を利用した地域活性化プラン	私たちのふるさと「西柴団地を愛する会」	金沢	コミュニティカフェ
	2	地域に根ざす技術を生かしふるさと大道の風景をつくる	ふるさと大道の風景をつくる会	金沢	井戸設置
	3	鶴見川大曲、花と緑と水の広場づくり	駒岡連合町会大曲広場実行委員会	鶴見	植栽、看板、多目的グラウンド
	4	地域ぐるみで地域開放型コミュニティ・サロンをつくる	地域開放型サロンを豊岡につくる会	鶴見	コミュニティカフェ
	5	樹林と湧水を活かしたホテルの里山づくり	緑地保全地区を核にしたホテルの里山づくり実行委員会	瀬谷	水路、林
H23	1	本牧山頂公園里山あそびプロジェクト	本牧山頂公園和田山地区地域連絡会	中	倉庫、パーゴラ、雨水貯留施設
	2	美しが丘第六公園集会所建設整備計画	美しが丘西部自治会建設委員会役員会	青葉	集会所
	3	初黄・日ノ出町地区に集いの広場を! 階段広場をつくる	初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会チームひろば	中	広場
H24	1	長津田の樹木を活用したアートワークプロジェクト	長津田駅北側まちづくり協議会	緑	ブロックレリーフ
	2	阿久和北部見守り合い拠点・大きな傘「みまもり広場」	阿久和北部見守り合いネットワーク実行委員会	瀬谷	見守り拠点(建物)
	3	新観光地域活性構想歴史と文化のある街・お三の宮通り	お三の宮通りまちづくり委員会	南	モニュメント、サイン、掲示板
	4	地域力醸成の拠点となるコミュニティサロンの整備	湘南八景自治会役員と湘南八景「お助けマン」	金沢	見守り拠点(内装)
H25	1	夢・街のナビゲート 大倉山コンシェルジュパーク	大倉山に地域交流拠点をつくる会	港北	交流拠点(内装)
	2	瀧乃川源流の湧! 優! 悠! 防災井戸作り	瀧乃川保存を考える会	神奈川	池の再整備、井戸
	3	中川駅前中央歩道のルネッサンスプロジェクト	NPO法人ぐるっと緑道	都筑	花壇、井戸
H26	1	町の防災拠点づくり	松ヶ丘自治会	神奈川	防災倉庫(内装)
	2	女性の笑顔で人と人をつなぐ地域応援プロジェクト	ディアナ横濱	西	交流拠点
	3	戸塚に新しい親子の居場所「ひろばカフェ」をつくらう	特定非営利活動法人こまちぶらす	戸塚	子育て拠点
H27	1	カサコ 一丘の街の地域の軒下/世界の軒下	カサコプロジェクト実行委員	西	交流拠点
	2	美晴台内道路の愛称入り案内板と複合コメン整備事業	美晴台自治会助け合いグループ	港南	サイン、掲示板
	3	矢向・江ヶ崎 歴史資料室の建設と世代間交流の場作り	矢向・江ヶ崎 歴史資料室を作る会	鶴見	交流拠点

H28	1	湧水を住民のいこいの場に！子どもたちに自然体験を！	下和泉湧水を守る会	泉	緑の再生、遊歩道、小川
	2	住民同士の輝き「人材マップ」を中心にした拠点づくり	六浦東・まち交流ステーション委員会	金沢	地域交流拠点
	3	東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置	つづきっず、はい！	都筑	案内板、掲示板、ポイントアート
H29	1	地域のインテリジェンス「ぶらっと 谷矢部」づくり	谷矢部池公園愛護会	戸塚	交流拠点
	2	太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション	熊野の森もろおかスタイル	港北	屋外交流拠点
	3	上星川の「ひと」「まち」「こと」のふれあい広場	FM上星川	保土ヶ谷	交流拠点
H30	1	#BuildingTogether太陽ローズハウス	荻子田太陽公園愛護会グループ	青葉	交流拠点
	2	「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備	美しが丘アクセス委員会遊歩道ワーキンググループ	青葉	階段アート
	3	中田のえんがわ「宮ノ前テラス」多世代交流スペース	宮ノマエストロ	泉	交流拠点
R1	1	歴史と環境をテーマに安心して楽しめる里海公園づくり	富岡並木ふなだまりgionbune公園愛護会	金沢	屋外交流拠点
	2	鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり まちのリビング	つみれプロジェクト実行委員会	鶴見	交流拠点
	3	世代を超えた集いの場にするための拠点づくり	おもいやり隊	南	交流拠点
R2	1	コミュニティカフェの新設	みんなが繋がる憩の家 icocca 作り隊	港南	交流拠点
	2	みんなの絵本のおうち	おはなしの風	泉	交流拠点
	3	カベを取り払ってみんなが自由になる「ひろば」づくり	菊名・錦が丘にみんなの“ひろば”をつくる会	港北	交流拠点
R3	1	車椅子でもOK！だれでも集える多目的交流スペース	ぐるーぷ・ちえのわ事業検討委員会	戸塚	交流拠点
	2	「水」と「火」のある地域のほっとステーション	Co-coya復活プロジェクト実行委員会	緑	交流拠点
	3	子安台みんなの家	子安台みんなの家をつくる会	神奈川	交流拠点
R4	1	地域で繋がりが、楽しむ！多世代・多文化交流の新拠点	まちとも霧が丘	緑	交流拠点
	2	八景市場ANNEXー自らつくり、つながる場所	食卓八景ーつながりのリビングをつくる会	金沢	交流拠点
	3	地域コミュニティのごきげんな居場所づくり	モヤキラCAFE 実行委員会	都筑	交流拠点

メールマガジン「ヨコハマ人・まち」を読みませんか？

市民が身近なまちづくりに取り組むときに役立つ制度や用語、地域のまちづくり活動の紹介、地域まちづくりに関するイベントや講座等に関するお知らせなどを提供する、無料のメールマガジンを読みませんか？ 配信申し込みは、下記の2次元コードからお願いします。



ヨコハマ人・まち
メルマガ案内

ヨコハマ人・まち

検索



地域まちづくり課 “公認” のFacebook

「ヨコハマ市民まち普請ひろば」

Facebookに登録していなくても誰でも見られます。

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね！」を宜しくお願いします。

(Facebookは協働事務局の横浜市住宅供給公社が運営しています)

まち普請ひろば

検索

身近なまちの課題を解決したい、あるいは魅力を高めたいと考えている方や、身近なまちの施設等の整備アイデアをお持ちの方は、年間を通じていつでも相談窓口を開設していますので、どうぞお気軽にご相談ください。

【相談・お問い合わせ先】

横浜市都市整備局地域まちづくり課

(横浜市中区本町6丁目50番地の10 市庁舎29階)

電話 045-671-2679 E-mail : tb-seibiteian@city.yokohama.jp

まち普請

検索



2027横浜
国際園芸博覧会

